

未決者へ貸與スル物品中履物ハ制限無之慣例ニテ公廷へ往復モ晴雨共草履貸與致來候處不經濟ノミナラス未決人ヲ遇スル其當ヲ得サルニ付今後ハ雨天ノ節ハ木履貸與致度此段相伺候也

內務大臣指令 廿二年四月二日

本年三月廿三日監第十號伺未決在監人へ貸與品ノ件伺之通

○警保局長通牒 廿二年四月二日

未決在監人へ木履貸與之義ニ付本日御指令有之候處右ハ左之通決定相成候ニ付此段及御通牒候也

一 雨天ノ節監内ニ在テハ未決共木履又ハ下駄

一 雨天ノ節監外ノ押發ニハ未決者ハ木履又ハ下駄已決囚ハ草鞋

一 晴日ニハ未決囚監内外共草履

第十二款 被告人留置及拘禁

○內務省警保局長通牒

廿四年二月廿日

警司第三號

檢事現行犯ノ被告人ヲ受取リタル片ハ廿四時間以内ニ訊問シタル後ニアラサレハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ス然ルニ檢事已ヲ得サル事故アリテ即時訊問スルコト能ハヌ一時其儘留置セサル可ラサル場合ニ於テハ警察署内ノ留置場ニ留置セシムル等ニ候處今般司法省ヨリ協議ノ次第有之候ニ付自然檢事ヨリ打合せ相成候儀有之候ハ實際不便無之様御取計有之度此段念ノ爲メ及通牒候也

○內務省警保局長通牒

廿四年十月廿四日

警司第五九號

檢事現行犯之被告人ヲ受取リ即時ニ訊問ヲ爲シ能ハザル片一時警察署ノ留置場ニ留置スル儀ニ付本年二月二十日付ヲ以テ及通牒置候處右ニ付今般司法省總務局長ヨリ各檢事へ退廳後又ハ休日ニテモ可成其處分ヲ爲シ警察署留置ノ増加セサル様注意スベキ旨通牒相成候ニ付爲念此段及通牒候也

○本縣訓令官第五十五號

廿四年十一月十九日

警察部 監獄署

白杵區裁判所開廳ノ處同地ニハ監獄ヲ設置セス同廳ノ裁判權ニ屬スル刑事被告人及換罰禁錮十二日以下並ニ勾留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ勾禁シ且換罰禁錮十三日以上及輕重禁錮ニ處セラレタルモノ、押送ハ北海道郡警察署ニ於テ取扱ハシム此旨心得ヘシ

○訓令官第五十六號 廿四年十一月十九日

白杵區裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事被告人及ヒ換罰禁錮十二日以下並勾留ノ刑ニ處セラレタル者ハ其署留置場ニ拘禁シ其換罰禁錮十三日以上及ヒ輕重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ監獄署ニ便宜押送スヘシ

但在監人ニ係ル費用ハ監獄署ニ請求スル儀ト心得ヘシ

○本縣訓令官第廿八號

二十六年三月十三日

警察部、監獄署

竹田杵築豆田佐伯ノ監獄支署本月三十一日限り相廢シ候ニ付テハ四月一日以降同地區裁判所ノ裁判權ニ屬スル監獄事務ノ儀ハ左ノ各項ニ據リ各其地警察署ニ於テ取扱ハシム

一 區裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事被告人及換罰禁錮並ニ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ハ警察署ノ留置場ニ拘留スヘシ

一 換罰禁錮十三日以上(留置場差支ノ場合)及輕重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ竹田杵築佐伯ハ監獄署ニ豆田ハ中津監獄支署ニ押送スヘシ

一 廢署ニ際シ初項ニ該當スル者アル片ハ其地警察署へ引渡スヘシ

一 在監人ニ係ル費用ハ一ヶ月分ヲ纏メ翌月上旬ニ於テ監獄署ニ請求スヘシ

○本縣第六〇一號 二十年三月廿二日

內務大臣ヨリ別紙之通訓令相成候條未已決囚ヲ混交セサル様注意スヘシ

(別紙)

(八五五)

○内訓第一九一號 二十年三月八日
警察署ニ屬スル留置場ニ於テハ往々拘留者未決者又ハ換刑禁錮者等ヲ混同雜居セシメ或ハ適宜ノ法ヲ以テ之ヲ遇スルカ如キ向モ有之不都合ニ付自今未已決ノ區域ヲ嚴罰シ夫々成規ニ從ヒ取扱候様注意セラルヘシ

第十三款 留置人取扱規則

○警第一〇三六號 廿一年七月十二日
留置人取扱規則左ノ通相定ム

留置人取扱規則

第一條 新ニ留置スル者アルハ署長若クハ監督通身ヲ搜檢シ利器其他危險ノ虞アリト認ムルモノハ勿論所持金品ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ一々證印シテ之ヲ領置スベシ
第二條 留置人看守ノ方法ハ各署一定スルコトヲ得スト雖モ必ス看守責任者ノ判明スベキ方法ヲ設クベシ

第三條 賄ハ署長若シ在ラザル時ハ監督復タ在ラサルハ看守者之ヲ檢査シ給與スベシ
第四條 臥具ハ左ノ區別ニ從テ貸與スベシ但シ自辨セント請フ者ハ之ヲ許スベシ

三月一日ヨリ五月三十一日マテ 毛布二枚

六月一日ヨリ九月三十日マテ 毛布一枚

十月一日ヨリ十一月三十日マテ 毛布二枚

十二月一日ヨリ二月二十八日マテ 毛布三枚

前項ノ外寢具ニ限ルベシ枕及蚊帳ヲ貸與スベシ

第五條 差入ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ許スベシ

一 監獄則第八十九條ノ制限ヲ越ヘサル者

二 書信ハ家計上又ハ權利義務上必要ニシテ且ツ差支ナシト認ムル者ハ署長之ヲ檢閱シテ許スベシ其留置人ノ發スル書信亦同シ

第六條 留置人ハ食事ノ都度清水ヲ用テ嗽セシムベシ

第七條 留置場ハ毎朝留置人若クハ小使ヲシテ掃除セシムベシ

(九五五)

訂正 大分縣警務攬要上卷終
增補

訂正 大分縣警務攬要下卷

第二編 安寧

第一章 集會政社

第一欸 集會及政社法

○法律第十四號

二十六年四月十三日

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講
談論議スル爲メ公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治
ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ

政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

- 一 集會ノ場所
 - 二 集會ノ年月日時
 - 三 發起人ノ氏名住所
 - 四 講談論議者ノ氏名
- 前項ノ届出アツタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

(一)

(三)

届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ效ヲ失フモノトス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意思ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域内ニ限ルモノトス
警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

一 日本臣民ニ非サル者

二 公權剝奪及停止中ノ者

第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ政談集會ニアラザルモ其狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十六條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若クハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓

(三)

(四)

- 以下ノ罰金ニ處ス
- 第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ
- 第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ
- 政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
- 前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ
- 役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ
- 第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ會場及講談論議者ヲ豫定シテ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ
- 第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス
 - 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
 - 二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

五 未成年者

- 第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス
- 第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用井ルコトヲ得ス
- 第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス
- 第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス
- 第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル
- 第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得
- 第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ
- 第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ
- 第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用井タル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ
- 第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用井ス
- 第三十六條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

(五)

(六) 第三十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

第二款 集會及政社法ニ關スル雜件

○内閣訓令 廿二年一月廿四日

各官廳

凡ソ官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述

スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニ在ラス

○文部第三十八號

十四年十二月廿八日

府縣

從來學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其所爲ノ遊興弄戲ニ屬スルモノ并ニ言論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上防害少ナカラサル備ニ付右ニ充用セシメサルハ勿論都テ學校監督上不都合無之様取締可致此旨相達候事

第二章 保安及豫戒

第一款 保安條例

○勅令第六十七號

二十年十二月廿五日

保安條例

第一條 凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯スモノハ一年以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違背スル者罰前項ニ同シ

第二條 屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フモノ首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上

三年以下ノ輕禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條 内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルヲ以テ文書又ハ圖書又ハ印刷又ハ版刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニヨリ處分スルノ外仍其他犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ルコトヲ得ス

第四條 皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スルモノニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルハ警察總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄留又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得退去ノ命ヲ受テ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタル後更ニ禁ヲ犯スモノハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍ホ五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ執行ス

第五條 人心ノ動亂ニヨリ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一 凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ豫メ警察官ノ許可ヲ經ルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二 新聞紙及其ノ他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三 特別ノ理由ニヨリ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除クノ外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四 旅人ノ出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

(七) 第六條 前條ノ命令ニ對スル違反者ハ一月以上二月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金

(八)

ニ處ス其刑法又ハ其ノ他特別ノ法律ヲ併セ犯シタル場合ニ於テハ各本法ニ照シ重ニ從ヒ處斷ス
第七條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二欸 豫戒令

○勅令第十一號

廿五年一月廿八日

豫戒令

第一條 警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メ左ノ事項ニ該當スル者

ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ爲スコトヲ得

- 一 一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行爲ヲ事トスル者
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 三 公私ヲ問ハス他人ノ業務行爲ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者
- 四 第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ爲スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者

第二條 豫戒命令ハ左ノ如シ

- 一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス
- 二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入り妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 三 如何ナル口實ニ拘ハラヌ財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ爲シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ涉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送り又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行爲ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ爲スヘカラサルコトヲ命ス
- 四 人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタルヲ命ス及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合

ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條 豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後二十四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツベシ

第四條 豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違反者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違反者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條第三號ノ違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違反者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違反者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 豫戒命令ヲ爲スニハ命令書ヲ作リ其命令ヲ受ケタル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違反者ノ罰例並ニ命令ヲ爲シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條 豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ經過シ後改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條 豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ

(九)

届出ヲ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ爲スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ爲シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得
第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二款 豫戒令ニ關スル雜件

豫戒令之儀ニ付伺 (熊本縣知事)

客年一月勅令第十一號豫戒令第二條第一號ノ命令ヲ受ケタル者其期限内ニ適法ノ生業ニ從事セサルヲ以テ同令第四條第二項ニ據リ處罰セラル、モ仍ホ生業ニ從事セサル時ノ處分方ニ付左ノ三説アリ
甲説 豫戒命令ノ目的ハ處罰ニアラスシテ其所爲ヲ改メシムルニ在リ故ニ豫戒令第二條第一號ノ命令ヲ受ケタル者其命令ニ違犯シ同令第四條第二項ノ刑ニ處セラル、モ仍ホ適法ノ生業ニ從事セシテ命令ノ期限(處罰ヲ受ケタル日ヨリ起算ス)ヲ經過スルトキハ再ヒ處罰スヘキモノトス若シ一回處罰シタル者ハ其後仍ホ命令ヲ遵奉セサルモ之ヲ處罰スヘキ途ナシトセハ遂ニ命令ノ目的ヲ達スルヲ能ハサルヘシ
乙説 一事ヲ再罰スルハ法理ノ許サ、ルノミナラス若シ甲説ノ如ク再ヒ處罰スヘキモノトセハ命令ノ期限内ニ於テ生業ニ就キタル者其後ニ至リ廢業シテ命令ノ期限ヲ經過シタル場合ニ於テモ亦處罰スルコトヲ得ヘシ豈此ノ如キ理アラシヤ故ニ實際上不都合アルモ行政上ノ説諭ヲ爲スニ止マリ再ヒ刑ヲ科スルコトヲ得サルモノトス
丙説 乙説ノ如ク再ヒ處罰スルコトヲ得サルモノトセハ命令ノ目的ヲ達スルヲ能ハス然レモ甲説ノ如ク處罰ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ再罰スルモ亦其當ヲ得タルモノニアラス何ントナレハ生業ニ從事スヘキ期限ハ命令ヲ爲シタル日ヨリ起算スヘキモノニシテ處罰ヲ受ケタル日ヨリ起算

スヘキモノニアラサレハナリ依テ命令期限内ニ生業ニ從事セシテ處罰セラレタルトキ及一旦生業ニ就キテ廢業シタルトキハ更ニ適當ノ期限ヲ定メテ生業ニ從事スヘキコトヲ命令シ之ニ違犯シタルトキハ豫戒令第四條第二項ニ據リ處罰スヘシ然ルトキハ一事ヲ再罰スルノ嫌ヒナク又實際上ニ於テモ不都合ナカルヘシ
右三説中丙説ヲ以テ妥當ト思考候得共豫戒令中再度命令ヲ爲スヘキ明文ナキヲ以テ相伺候條急速御指令有之度候也
指令内務兩大臣明治廿六年十月十二日
本年九月二十八日附豫戒令伺ノ件ハ丙説ノ通心得ヘシ

第三章 新聞及圖書出版寫眞

第一款 新聞紙條例

勅令第七十五號 廿年十二月廿八日

新聞紙條例

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京府ハ警視廳)ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ
第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左之事項ヲ記載スヘシ
一 題號
二 記載ノ種類
三 發行ノ時期
四 發行所及印刷所
五 發行人編輯人及印刷人ノ氏名年齢
編輯人ハ二人以上アルルハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ

(二一)

但シ紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後題號記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期發行所印刷所編輯人印刷人ニ變更アリタルキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲ爲スマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キ發行セサルキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人編輯人印刷人トナルコトヲ得ス
公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人編輯人印刷人トナルコトヲ得ス

第七條 編輯人印刷人ハ互ニ相兼スルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムベシ
一 東京ニ於テハ千圓京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術技藝統計官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限リニ非ズ

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納メシテ發行スルモノハ正當人届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマデ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ムベシ

(三一)

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人編輯人印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スベシ
發行人印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載ヲ求メタルキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内之首部ニ掲載スヘシ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、并又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルキハ當人又ハ關係アル者ノ求メナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル

但シ廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スベシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セザル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス
傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス
刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲メニスル文書ヲ掲載スルコト

(四一)

ヲ得ス
 第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラ
 ス之ヲ記載スルコトヲ得ス
 官廳ノ議事及ヒ法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會議事ハ詳略ニ拘ハラヌ之ヲ記載スルコトヲ得
 ス
 第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルハ新聞紙ハ內務大臣ニ於テ其發行ヲ
 禁止シ若クハ停止スルコトヲ得
 第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルハ內務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其
 新聞紙ヲ差押フルコトヲ得
 第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル
 小キハ內務大臣ハ其新聞紙ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得
 第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項之
 記載ヲ禁スルコトヲ得
 第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起スハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコト
 ヲ得
 裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得
 第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起シタルハ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編
 輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スルモノニ非スシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場
 合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及ヒ實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ
 第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外
 裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルハ被告ハ除クノ外
 證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ

(五一)

訴ヲ受ケタルモ亦同シ
 第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セズ又ハ損害ヲ賠償セサルハ
 ハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルハ刑法徵收處分ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償
 及罰金ニ充テタルハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其
 缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監及ヒ地方長官ニ於テ
 其發行ヲ差止ヘシ
 第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第十二條ヲ
 犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以
 上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 但シ詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ
 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセザルハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又
 ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルハ編輯人罰
 前項ニ同シ
 第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二
 十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ
 第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二百圓以上
 三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルハ發行人編輯人印刷人ヲ
 二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五拾圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(六一)

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス
第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スル者ハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二拾圓
以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六ヶ月トス
第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニヨルモノヲ除クノ外皆此條例ニヨル
○內務省告示第一號 廿一年一月廿六日
新聞紙ニ關スル諸屆書式左ノ通相定ム
發行屆書式 但用紙美濃紙以下之ニ同シ

何新聞(雜誌)發行屆

何新聞

一題號

政治、法律、農工商業等ノ類

一記載ノ種類

毎日毎週毎月何回一個年何回ノ類

一發行ノ時期

府縣國郡區町村番地何社社號ナキモハ月主ノ氏名

一印刷所

同

住所

一發行人

氏

名

何年何月生本月何年何個月

同

一編輯人

氏

名

何年何月生本月何年何個月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クル者ハ茲ニ列記スヘシ

(七一)

一印刷人

同

名

何年何月生本月何年何個月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書)管轄廳ヘ納置候間此

段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサル者ノ例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年月日

發行人

氏

名

印

內務大臣某殿

題號變更屆書式

何新聞改題屆

何新聞改題

一何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年月日

發行人

氏

名

印

內務大臣某殿

種類變更屆書式

何新聞記載ノ種類變更屆

一現行種類

政治、法律、農工商業其他何々

一變更種類

何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタル者更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

(八一)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ)管轄廳へ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メ發行シタル者更ニ保證金ヲ要セサル種類ニ變更スル者ノ例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金御下渡ノ儀ハ管轄廳へ可申出候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人變更届書式

何新聞發行人變更届

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタル者ノ例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ)候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例ニ同シ)

年 月 日

舊發行人 氏 名 印

(發行人死去ノ其遺族親戚ト新發行人ト連署ス)

發行人 住所 氏 名 印

編輯人印刷人變更届書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更届

舊編輯人(又ハ舊印刷人)氏 名

住所

新編輯人(又ハ新印刷人)氏 名

何年何月生本月何年何個月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年 月 日

內務大臣某殿

時期變更届書式

何新聞發行時期變更届

一何年何月何日發行第何號迄ハ隔日(若クハ毎月一回又ハ何々)

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日(若クハ毎週又ハ何々)

年 月 日

發行人 氏 名 印

內務大臣某殿

發行所變更届書式(印刷所變更届書式モ亦本例ニヨル)

何新聞發行所變更届

一舊發行所

何社社主ノ氏名

一新發行所

府縣郡區町村番地

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

何社社主ノ氏名

年 月 日

內務大臣某殿

發行人 氏 名 印

(九一)

第二款 新聞紙雜誌轉賣營業

○第十七號布達 十九年二月八日
新聞紙雜誌ノ類發賣人ニ非ラズシテ其轉賣營業ヲナサントスル者ハ族籍住所氏名及ヒ其新聞紙ノ種類ヲ記シ開業二日前ニ所轄警察署ニ届出スヘシ其住所氏名ヲ變更シ又ハ新聞ノ種類ヲ増減シ及ヒ廢業シタル時ハ速ニ其旨届出スヘシ
但從前ノ營業者ハ二月廿五日限リ本文ノ届出ヲナスヘシ

第二款 新聞紙條例ニ關スル雜件

○布達第二十一號 十六年六月廿二日
凡ソ官報ニ登載シタルモノハ新聞紙條例ニ依リ記載スルコトヲ得サル者ト雖モ各新聞紙ニ於テ其文ヲ抄録スルコトヲ得
官報ニ於テ新聞紙ニ記載シタル事項ノ誤ヲ正ストキハ新聞紙條例第二十九條ニ從ヒ正誤ノ全文ヲ登載スヘシ
○達第百三十一號 六年四月十日 諸省府縣
在官ノ者官中ノ事務ハ勿論或ハ外國交際ノ妨碍トナルヘキ書類ハ瑣細ノ件ト雖モ私ニ新聞紙ヘ令掲載候義不相成候事但公布ヲ經ル文書又ハ其長官ヨリ差圖ノ分ハ此限ニ在ラス
○達第百五十八號 八年九月十二日 院省使廳府縣
自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ掲載候義不相成候此旨相達候事
○丙乙第七號 十四年二月二日 廳府縣(東京府ヲ除ク)
新聞紙雜誌雜報等從來發兌ノ都度二部ツ、圖書局ヘ納出候處自今警保局ヘ可爲納出此旨相達候事
○司法訓令第十號 十九年六月廿一日 檢事長檢事

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル義ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

第四款 出版法

○法律第十五號 廿六年四月十三日

出版法

第一條 凡ソ機械含密其ノ他何等方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ
第二條 新聞紙又ハ定期ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖書ノ出版ハ總テ此ノ法律ニ依ルヘシ但シ專ラ學術、技藝、統計、廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ハ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得
第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ヘ届出ヘシ
第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其ノ官廳ヨリ發行前ニ製本二部ヲ内務省ニ送付スヘシ
第五條 出版届ハ著作者又ハ其ノ相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但シ非賣品ハ著作者又ハ發行者ノミニテ届出ルコトヲ得
版權ノ保護ナキ文書圖書ヲ出版スルトキ若ハ著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其ノ由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ
學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ學校、會社、協會等ヲ代表ス

ル者ハ發行者ト連印シテ之ヲ届出シ
 第六條 文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但シ著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得
 第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ
 第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲモ記載スヘシ
 印刷所若數人ノ共有ニ係ルトキハ營業上其ノ印刷所ヲ代表スル者ヲ以テ印刷者トス
 前二項ノ印刷所ニシテ若營業上慣行ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲモ記載スヘシ
 第九條 書簡、通信、報告、社則、塾則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス
 第十條 文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其ノ都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ雜誌類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得
 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ十二箇月間一回ヲモ發行セサルトキハ廢刊シタルモノト看做スヘシ
 第十一條 一タヒ出版届ヲ爲シタル文書圖書ノ再版ハ出版届ヲ要セスト雖若改正増減シ又ハ註解、附録、繪畫等ヲ加ヘタルトキハ仍第三條ニ依ルヘシ
 第十二條 演說若ハ講義ノ筆記ハ演說者若ハ講義者ヲ以テ著作者トス但シ筆記者ニ於テ演說者若ハ講義者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ出版スルトキハ筆記者ヲ著作者ト看做スヘシ此ノ場合ニ於テ記載ノ事項第十六條第十七條第十八條第十九條第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ル、トキハ演說者若ハ講義者筆記者ト同ク其ノ罪ヲ論ス
 公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載スヘシ

載シタルモノ及總テ演說者講義者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ講義者ハ著作ノ責ニ任セシム
 公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ノ外ハ講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非サレハ他人ニ於テ其ノ筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但シ本項ニ違フ者ハ版權法ニ據リ其ノ責ニ任セシム
 第十三條 二種以上ノ著作若ハ演說講義ノ筆記ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲ストキハ編纂者ヲ著作者ト看做スヘシ
 前條第一項ノ末段及第二項第三項ハ本條ニ適用スヘシ
 第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ
 第十五條 學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ
 第十六條 罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑事ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ若ハ賞恤スルノ文書ヲ出版スルコトヲ得ス
 第十七條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス
 傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ事項ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス
 第十八條 外交軍事其ノ他官廳ノ機密ニ關シ公ニセサル官ノ文書及官廳ノ議事ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス
 法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ之ヲ出版スルコトヲ得ス
 第十九條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得
 第二十條 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得

(四二)

- 第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルヲ得ス
- 第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第六條ヲ犯ス者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十五條 印刷者自己ノ氏名、住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ印刷スル所ノ文書圖書ニ記載セス若ハ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ罰前條ニ同シ
- 住所ト印刷所ト同シカラサルトキ及印刷所ニシテ營業上慣行ノ名稱アルトキ印刷所及名稱ヲ記載セサル者亦前項ニ同シ
- 第二十六條 政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊乱セムトスル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者、印刷者ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第二十七條 風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者、發行者ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十八條 第十六條第十七條第十八條第二十一條ニ觸ル、文書圖書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者ヲ十一日以上一年以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十九條 第二十條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者罰前項ニ同シ其ノ未タ發賣頒布セサル文書圖書ハ之ヲ沒收ス
- 第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢事ニ於テ假ニ之ヲ差

押フルコトヲ得

- 第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ
- 第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シテ之ヲ證明シタルトキハ其ノ罪ヲ免ス損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ
- 第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弁ス
- 第三十三條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因テ成就ス
- 第三十四條 此ノ法律ニ依リ出版スル雜誌ニシテ其ノ記載ノ事項第二條ノ範圍外ニ涉ルトキハ内務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ出版スルコトヲ差止ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ一个年ヲ經ルニ非サレハ更ニ此ノ法律ニ依リ出版スルコトヲ得ス
- 第三十五條 文書圖書ヲ印刷スルトキハ直ニ發賣頒布セスト雖其目的發賣頒布ニ在ルモノハ總テ此ノ法律ニ依ル

第五款 一枚摺略曆ニ關スル件

○太政官無號

三年四月二十二日

頒曆授受之儀ハ至重之典章ニ候處近來種々之類曆世上ニ流布候趣無謂事ニ候自今弘曆者之外取扱候義一切嚴禁被仰出候事

○太政官布達第八號

十五年四月二十六日

本曆並略本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神官ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

(五二)

但シ明治九年十月内務省甲第三十九號布達ハ取消ス

(六二)

右布達候事

○文部省令第二號

廿三年十月卅一日

明治十五年^四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左之規定ニ依ルヘシ

一年號及紀元ノ年數干支

一月月ノ一日

一日月食並其時間

一大祭祀日並神社例祭大祓

一日曜表甲子表庚申表己巳表

一二十四節氣及雜節

一新月滿月

一前各項ニ相當スル陰曆日干支及陰曆ノ朔日干支並之ニ相當スル陽曆日

以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル處ノ曆ニ依ルヘシ

但シ前各項規定ノ外本曆略本曆ニ掲載セサル事故ヲ記入スルハ此ノ限ニアラス

第六款 神社寺院ノ守札及神佛殿ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ニ

テ出版スル件

○^内務省令第五拾五號

十五年十月十八日

府

縣

神社寺院之守札ト可認モノ及神社佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ牴觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

第七款 版權法

○法律第十六號

二十六年四月十三日

版權法

第一條 凡ソ文書圖書ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシ

テ其ノ文書圖書ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條 出版法ニ依リ文書圖書ヲ出版スル者及出版法又ハ新聞紙法ニ依リ雜紙ヲ發行スル者ハ總

テ此ノ法律ニ依リ其ノ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第三條 版權ノ保護ヲ受ケムト欲スル者ハ發行前登錄料トシテ製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ

內務省ニ願出ヘシ但シ六部ノ定價合シテ五十錢ニ滿サル者ハ五十錢トシ十圓ヲ超ユルモノハ十

圓トス

版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ定價ヲ記載スヘシ版權登錄後定價ヲ增加スルモノハ其ノ未納額ヲ

內務省ニ追納スヘシ但シ追納額ハ最初ノ納額ト通算シテ十圓ニ至テ止ム

第四條 官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ムト欲スルトキハ其ノ由ヲ內務省ニ通知ス

ヘシ

第五條 版權登錄ノ文書圖書ニハ其ノ保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其ノ記載セサル

モノハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

第六條 內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備置キ登錄ノ願出テアル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付ス

ヘシ登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條 版權ハ著作ニ屬シ著作死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス講義若ハ演說ヲ

筆記シタルモノ、版權亦同シ但シ公開ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ筆記シテ出版スルモノハ版權

侵害ト認ルノ限ニ在ラス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス

官廳、學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其ノ官廳、學校、會

(七二)

社、協會等ニ屬スル者トス

二種以上ノ著作若ハ講義演説ノ筆記ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ其ノ原著作及原筆記ニ別ニ版權所有者アルトキハ其ノ所有主ノ承諾ヲ經タル後ニ非サレハ其ノ部分ニ付本項ヲ適用セス

第八條 版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得

第九條 版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其ノ再度下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

版權登錄證書ニ誤謬アリタルトキハ其ノ理由ヲ記シ其ノ更正ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但シ其ノ誤謬官ニ在ル場合ノ外ハ手数料トシテ五十錢ヲ納ムヘシ

第十條 版權保護ノ年限ハ著作ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

官廳又ハ學校、會社、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書並ニ著作死亡ノ後ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖書ノ版權年限ハ每號其ノ出版ノ月ヨリ起算ス但シ其ノ都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條 版權ノ保護ハ其ノ文書圖書ヲ改正増減シ又ハ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲變更スルコトヲナカルヘシ

版權登錄ヲ得タル文書圖書ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ文書圖書ノ爲ニ寫シタルモノハ其ノ文書圖書ト共ニ版權ノ保護ヲ受クルモノトス

第十三條 版權年限ヲ經過スルモ版權所有者ノ願出ニ依リ内務大臣ニ於テ必要ト見做ストキハ仍十年間版權保護ノ期限ヲ延スコトアルヘシ

第十四條 文書圖書ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其ノ版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セムト欲スルトキハ其ノ由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並ニ其ノ所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月内ニ版權相續者ノ出テサルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニ依リ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條 新聞紙ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說、記事又ハ小説及二號以上ニ涉ラスト雖特ニ一欄ヲ設ケ冒頭ニ禁轉載ト記シタル者ハ其ノ編輯者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ刊行ノ月ヨリ二年内ニ之ヲ他ノ新聞紙若ハ雜誌ニ轉載シ又ハ之ヲ編纂シテ出版スルコトヲ得ス其ノ二年ヲ經ルト雖已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條 版權所有ノ文書圖書ヲ偽版シタル者ハ其ノ版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其ノ寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條 偽版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其ノ發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但シ審理ノ末偽版ニ非スト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其ノ差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條 偽版ニ關ル損害賠償ノ責ハ偽版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條 版權所有者ノ承諾ヲ經シテ版權所有ノ文書圖書ヲ翻譯シ増減シ註解、附録、繪圖等ヲ加ヘ若ハ其ノ未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及第十五條ニ違フ者ハ偽版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ公開ナラサル席ニ於テ爲シタル他人ノ演説ヲ筆記シ其ノ許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

(〇三)

第二十條 翻譯書ノ版權ハ其ノ翻譯者ニ屬スト雖其ノ原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ偽版ノ訴ヲナスコトヲ得ス但シ其ノ既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 世人ヲ欺瞞スル爲故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名、社號、屋號等ノ類似シタルモノヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ偽版ヲ以テ論ス

第二十二條 著作又ハ其ノ相續者ノ承諾ヲ經シテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スルモノ亦偽版ヲ以テ論ス所有者ノ承諾ヲ經シテ書畫ヲ出版スルモノ亦同シ

第二十三條 文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其ノ版權ヲ犯スモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十四條 內國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ偽版シタルモノヲ輸入販賣スルモノハ偽版ヲ以テ論ス

第二十五條 偽版ノ訴アリテ其ノ偽犯タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其ノ訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條 偽版ニ關ル損害賠償ノ時効ハ其ノ原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第二十七條 偽版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

偽版ニ係ル刻版及印本ハ其ノ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其ノ既ニ販賣シタルモノハ其ノ賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條 版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十九條 第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スルモノハ十

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用弗ス

第三十一條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因テ成就ス

第三十二條 從前ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル者ノ版權年限ハ從前ノ條例ニ依リ計算スルモノトス

〇內務省令第七號 二十六年四月二十日

出版及版權ニ關スル願届手續等左ノ通り之ヲ定ム

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ內務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 出版法第七條第八條ニ依リ文書圖書ノ末尾ニ記載スル文字ハ總テ楷書タルヘシ

第三條 他人ノ書畫ヲ臨寫シ若クハ摸寫シ又ハ他人ノ詩文歌ヲ書寫シテ出版スル者ハ其紙面中ニ臨寫若クハ摸寫者誰又ハ書者誰ト記載スヘシ

第四條 出版法第十條第一項但書ニ依リ許可ヲ得タル雜誌ハ製本中見易キ場所ニ於テ(何年月日

內務省許可)ト記載スヘシ但明治二十年十二月十二勅令第七十六號出版條例第九條但書ニ依リ許可ヲ得タルモノ亦同シ

第五條 版權法第十一條第二項ニ依リ版權登錄ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ豫メ大約一箇年内

出版ノ分隨意取束子版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認

メ届書ニ添付ス可シ

第七條 出版ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式雜誌版權登錄願ハ第四書式

寫眞版權登錄願ハ第五書式版權登錄再度下付願ハ第六書式ニ依ル可シ

第八條 出版法及版權法ニ於テ他人ノ許諾ヲ得ヘキモノニシテ其許諾ヲ得テ出版届出又ハ版權登

錄願出ルトキハ其旨ヲ届書又ハ願書ニ記スヘシ

(一三)

(二三)

非賣ノ文書圖書ヲ出版スル者ハ其屆書並製本中ニ非賣品ト記スヘシ
 第九條 專ラ學術技藝統計廣告ノ類ヲ記載スル雜誌ニシテ出版法第二條但書ニ從ヒ同法ニ依ラン
 ト欲スル者ハ第七書式同法第十條第一項ノ但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省察セント欲スルニハ第八
 書式ニ依ル可シ
 第十條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式寫真版權登錄願ヲ許可スルトキハ第十書式ノ證書
 ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スル證書ハ第十一書式ニ依ル
 第十一條 此省令ハ出版法版權法施行ノ日ヨリ之ヲ施行シ明治二十一年一月一内務省令第一號明治二
 十三年三月三同省令第一號明治二十五年三月三同省令第三號ハ當日ヨリ之ヲ廢ス
 (書式略ス)

第八款 脚本樂譜條例

○勅令第七十八號 廿年十二月廿八日

脚本樂譜條例

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得
 第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ有スルモノハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ
 爲メ公衆ノ前ニ演スル權)ヲ併セ有スルコトヲ得
 但シ興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ
 第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ之ヲ賣渡シ讓與スルコトヲ得
 第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ執行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘ
 シ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スルモノ亦同シ
 第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期
 トカス

第九款 寫真版權條例

○勅令第七十九號 廿年十二月廿八日

寫真版權條例

第一條 凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其ノ他物象ノ眞形ヲ寫シタル者ヲ寫真ト云
 ヒ寫真ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫真版權ト云フ
 第二條 寫真版權ハ寫真師ニ屬シ寫真師死亡後ニアリテハ其ノ相續者ニ屬スルモノトス但シ他人
 ノ囑托ニ係ルモノハ寫真版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニアリテハ其ノ相續者ニ屬スルモノ
 トス
 囑托ニ係ル寫真ノ種板ニシテ現存スル者ハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫真師ヨリ受取ルコトヲ得ルモ
 ノトス
 第三條 寫真版權ノ保護ヲ受ケント欲スルモノハ發行前寫真一枚ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添
 ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出スヘシ但人物ノ寫真ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス
 第四條 版權登錄ノ寫真ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ
 其記載セザル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス
 第五條 内務省ニ於テハ寫真版權登錄簿ヲ備ヘ置キ願出アリタル時ハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付
 スヘシ
 寫真版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス
 第六條 寫真版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス
 第七條 寫真版權ハ制限ヲ付シ若シクハ付セズシテ賣渡讓渡スルコトヲ得
 第八條 版權ノ保護ヲ受クル寫真ハ之ヲ複寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ増製シ得
 ヘキ方法ヲ以テ寫真術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ又ハ寫真師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受ケス

(三三)

(四三)

シテ囑托ニ係ル寫真ヲ増製スルコトヲ得ス
 第九條 第三條ノ手續ヲナサズシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十條 第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ貳拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及
 損害賠償ノ責ニ任セシム
 損害賠償ノ責ハ其原寫真ノ版權年限終ル後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス
 第十一條 此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認ラレタル寫真又ハ模寫物作爲ノ時
 ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ賣渡シタル時ヨリ起算ス
 第十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十款 出版及版權ニ關スル雜件

○文布達第九號 八年六月

當省藏版書籍翻刻ノ儀ニ付テハ昨明治七年第二十五號ヲ以テ及布達置候處當省藏版ノ書籍ハ自今
 悉皆翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布達候事

但當省藏版書目ハ可及報告候事
 ○內務省第九十號 十一年十二月廿一日

府 縣

我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ內國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得
 共尙ホ心得違ノ者無之樣兼テ其旨相諭置キ可申此旨相達候事

○縣本庶布第一號 十二年一月九日
 我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ內國人民ニ於テ販賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得
 共尙心得違ノ者無之樣可致旨內務省ヨリ達ノ次第モ有之候條此旨布達候事

○文布達第二號 十二年二月
 文部省出版ノ圖書ヘ註解圖書傍訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ増減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本

ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

第四章 危險物

第一款 銃砲取締規則

(十七年十二月布告第三十一號ヲ以テ火藥取締規則
發布ニ依リ第一款中彈藥ニ關スル條ハ總テ消滅ス)

○布告第二拾八號 五年正月

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則 大小銃并彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳
 ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事但東京大坂ノ儀ハ「武庫司」ニ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

- 一 府下 各五員
- 一 縣下 各三員
- 一 鎮臺本分營下 各一員但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス
- 一 開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京「武庫司」ヘ届クヘキ事

第二則 免許商人タリトモ軍用ノ銃砲「彈藥」類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形
 ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事但

東京大坂ノ儀ハ「武庫司」ヘ可願出事

免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃并ニ其彈藥類ヲ買入レントスルトキ

ハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事十三年第八條布告ヲ以テ本項追加

第三則 免許ノ商人其賣買ノ銃砲「彈藥」類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數
 等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎日其管廳ヘ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管廳「鎮臺」ヘ

(五三)

(六三)

差送可申事但「諸鎮臺」ヨリ毎歲正月七月兩度半々年明細帳ヲ以テ東京「武庫司」へ差送可申尤東
京大坂ノ儀ハ「武庫司」ニ於テ取締可致事

第四則 「彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所へ差置間敷兼テ其地方
管廳へ願出差圖ヲ受相圖可申事」但東京大坂ノ儀ハ「武庫司」へ願へキ事

第五則 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ハストールニ至ル迄私
ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出庫司持出別紙銃砲改刻
印式ノ通り番號官印ヲ受可申他人へ譲リ與へ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ(但彈藥買入致シ
度者モ亦二則ノ通りタルヘシ)

銃砲改刻印ノ式

干支何番 (武庫司)或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄「鎮臺」へ届出「鎮臺」ヨリ東京「武庫司」へ差送リ可申事
免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細付記シ其管廳へ届出其廳ヨリ東京「武庫司」へ差出可申
大坂ノ所持ノ者ヨリ直ニ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辯者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据へ可
相渡事

第六則 (六年第二十五號布告鳥獸獵)

免許取締規則ニ本則ヲ引換

第七則

銃砲「彈藥」下々ニ於テ猥リニ製造不相成尤モ新ニ奇功便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其
管廳へ相願管轄「鎮臺」へ届出免許ヲ可受事但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ「鎮臺」ヨリ
「武庫司」へ差送リ檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事
是迄銃砲并彈藥類買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳へ爲差出其廳ヨ

リ東京「武庫司」へ可差出事但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ「武庫司」へ可届出事
右之通ニ候事

第二款 銃砲取締規則違犯者處分方

○布告第二百八十二號 五年九月

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

一 銃砲取締規則ニ違銃砲「彈藥」類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上
ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

一 免許ヲ得スジテ銃砲「彈藥」ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事七年第百
三十二號
布告ヲ以
テ追加

但書同前

右取上候品東京大坂ハ「武庫司」其他ハ所管ノ「鎮臺」へ可差出事

第三款 武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

○達第二十二號 十三年三月廿五日

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年(正月)第二十八號布告ニ依リ管轄廳ノ檢査番號ヲ受來候處自
今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ル可シ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第一條 陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃并其彈藥類買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置
キ豫メ其印影等照會ノタメ「使」府縣廳東京ハ警
視本廳へ通知スヘシ

第二條 武官軍用銃并其彈藥類ヲ買入ル、時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シ

(七三)

ヲ其買入ヲ爲スヘシ

第三條 武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名捺印アラハ記載シ「使」府東京

第四條 武官奉職中所有ノ軍用銃及ヒ其彈藥類ヲ人民へ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其「使」

第四款 西洋形船へ大小砲設備

○布告第九十八號 八年五月三十一日

海軍官船ヲ除ノ外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事
第一條 海軍官船ヲ除ノ外諸省「使」府縣所轄ノ西洋形官船并ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲口径
四寸以内二門小銃三十挺設備スル事苦シカラス但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減ス
ルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルハ更ニ願出許可ヲ
受ク可シ

第二條 大砲一門ニ彈藥五十發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユ可カラス

第三條 船内へ銃砲ヲ設備スル時省「使」ハ「正院」へ上請シ府縣ハ內務省へ申出許可ヲ受ク可シ但
人民所持船ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與へ其旨內務省
へ届出可シ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省へ通知スル事トス尤省「使」ノ分ハ「正院」ヨリシ府
縣并ニ人民ノ分ハ內務省ヨリ通知スヘシ

第五條 諸省「使」府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘ
シ但銃砲「彈藥」等買入ル、節ハ明治五年(正月)第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フ可シ

第五款 短銃取締規則

○內務省達丙第五號

八年三月七日

短銃取締規則

第一 郵便繼立ノ脚夫へ相渡候短銃ハ全ク郵便物ヲ保護スル迄ノ品ニ付繼立御用相濟候上ハ一々
之ヲ受取可申始終脚夫へ下付致置儀ハ不相成候事

第二 郵便繼立ノ途上賊徒ト見請候者有之候共輕忽ニ打掛候義ハ勿論縱令脅迫致候共愈進退相谷
リ候迄ハ慣テ發砲致問敷事但繼立ノ歸路ハ縱令賊難ニ逢候共一切發砲不相成候事

第三 第二款ノ通不得已發砲シテ賊ヲ殺傷致候節ハ其地ノ戶長等へ其旨巨細相届郵便行囊ハ直ニ
繼立可申事但追テ本人並ニ其方共及ヒ殺傷致候所ノ戶長等連名ノ書面ヲ以テ其所及本人管轄廳
並ニ當「寮」へ可申出

第四 不得已發砲ノ上賊ヲ殺傷致候節ハ別段ノ御處置可相成ハ勿論ニ候得共萬一粗忽ヨリ良民ヲ
傷殺候節ハ相當ノ處刑可有之事

第五 短銃ハ其方共ニ御預相成候義ニ付右銃器ニ屬スル取締筋ハ總テ其方共ニ引受ト可相心得事
第六 短銃ハ郵便繼立ノ節脚夫ニ相渡此規則ニ照シテ爲取扱候外何様ノ事故有之候共決シテ發用
不相成候事

第七 脚夫へ下付スル時ハ銃丸ノ員數彈發機關等巨細相改交付可致又脚夫ヨリ相納ノ候節モ同様
相改メ受取可申事

第八 御預ノ短銃ハ平素手入不怠様注意可致自然機關破損等ノ節ハ早速引取替方可申立事但總テ
取扱方不行届ヨリ無謂損傷致候節ハ五圓ヨリ多カラス一圓ヨリ少カラサル償金可申付事

第九 當察官員臨時出張シ銃器彈藥及ヒ付屬品共検査可致天災非常其他燒失潰損等ノ外無謂彈數
減少致候様ノ義有之候得ハ巨細調問萬一妄ニ發砲候等ノ義ニ候得ハ相當ノ處刑可有之事

第十 縱令妄ニ發砲不致ト雖モ或ハ銃器ニ損傷シ或ハ彈丸ヲ紛失爲致候節ハ速ニ當「寮」へ届出候
義勿論ト雖モ右償金トシテ七十錢ヨリ少ナカラス一圓五十錢ヨリ多カラサル金高ヲ出サシムヘ

(〇四)

キ事
第十一 總テ此規則ニ背戻スル所爲アル者ハ其時々相當ノ處分可有之事
右之通被相定候事

月 日

驛遞頭 前 島 密

別紙請書案

郵便行發繼立ノ節賊難防禦ノ爲メ其脚夫ハ爲携候六連短銃左ニ記載スル番號銃數並ニ彈丸付屬品
共私ヘ御預相成正ニ落手仕候且右ニ付御達相成候御規則ノ趣厚相守聊違犯無之様私共ハ勿論脚夫
ヘモ屹度申付不取締致問敷依之御請如此御座候也

年號月日

地名

何 某 印

何番 何挺

彈丸 幾個

附屬器械 幾許

第六款 威銃取締規則及射的場設置標準

〇本甲第七十七號

十五年七月十二日

威銃取締規則別紙之通改定候條此旨布達候事

威銃取締規則

- 第一條 威銃トハ空砲ヲ放チ田野山間ノ植物ニ有害ノ鳥獸ヲ驅逐スルヲ云フ故ニ彈丸ヲ用ヒ又ハ軍銃ヲ用フルコトヲ許サス
- 第二條 威銃ヲ爲サント欲スル者ハ其有害ノ實況ヲ具シ族籍職分住所姓名年齢ヲ詳記シ所轄警察官署ヘ出願鑑札申請ヘシ
- 第三條 威銃使用ノ期限ハ其年九月一日ヨリ翌年五月三十一日迄ヲ一期トス滿期ニ至レハ必ス鑑札返納スヘシ但其地景況ニ依リ全年中ヲ要スルモノハ其現狀ニヨリ許可スルコトアルヘシ

第四條 左ニ記載スルモノニハ鑑札ヲ與ヘス

一十六歲未滿ノ者 一銃ノ取扱ヲ知サル者 一白痴風癩等人事ヲ辯セサル者

第五條 人家ヲ去ルコト五十間以内ニテ發放スルヲ許サス

第六條 鑑札ハ貸借買賣スルヲ許サス

第七條 若シ水火盜難等ニテ鑑札ヲ紛失セシキハ速ニ其旨ヲ届出テ更ニ申請スヘシ

第八條 現ニ威銃ヲ爲スルハ必ス鑑札ヲ携帶スヘシ若シ鑑札ヲ看ント請フモノアルハ速ニ之ヲ示スヘシ

第九條 第四條ヲ除キ此規則ニ違背シタル者ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

〇警保局長ヨリ各府縣ヘ通知 十七年九月十九日

銃砲射的ノ義ハ往々危險ノ虞アルヲ以テ之カ取締ヲ緊密ニスルハ保護上必要ノ件ニ付曩ニ京都府外三縣ノ伺ニ對シ其標準方等別冊ノ通内務卿ヨリ訓示相成候間爲御心得及御通知候也

射的取締標準

- 第一 凡ソ射的ヲナサントスル者ハ豫メ組合ヲ設ケ主幹ヲ定メ其名稱規則書及ヒ組合員ノ名簿ヲ添ヘ主幹ヨリ出願セシムルモノトス
- 第二 主幹ハ組合中一切ノ責ニ任シ且左ノ各項ヲ遵守セシムヘシ
 - 一 射手彈藥ノ裝填及ヒ照準發射ノ方法ヲ監視シ且銃器ヲモ検査シテ其用ニ堪ヘス危險ノ虞アルモノハ之ヲ省クヘシ
 - 二 發射ニ熟達セサル者ハ必百メートル以内ノ距離ニ於テ射的ヲ爲サシムヘシ
 - 三 酩酊スル者及ヒ瘋癲白痴ト認ムル者ハ場内ニ入ルヲ禁スヘシ
- 第三 射的ヲ分テ左ノ二種ト爲ス
 - 一 軍用銃射的
 - 二 免許銃射的
- 第四 何種ノ射的ヲ論セス發射時限ハ日出ヨリ日没マテトス

(一四)

- 第五 射的開會ノ日時ハ軍用銃射的免許銃射的ノ別ナク豫メ主幹ヨリ其地所轄ノ警察署ニ届出ツヘキモノトス
- 第六 射的場ノ構造ハ的阜ノ後ロ千五百「メートル」兩側五百「メートル」ノ空地ヲ設ケ置クヘシ若シ其餘地ナキ時ハ覆道又ハ射場前十五「メートル」ノ所ヨリ的阜前二十五「メートル」ノ間ニ於テ十「メートル」毎ニ射門ヲ建設スヘシ但天然ノ丘阜ニ據テ的阜ヲ築キ背後左右人家及ヒ道路遠隔ノ場所ハ此限リニアラス
- 第七 的阜ノ構造ハ第一圖ノ如クスヘシト雖モ標的ニ個以上ヲ用フルモノハ其一個毎ニ的阜幅二十四尺ヲ伸長スルモノトス但免許銃射的ニ用フル的阜ハ其地ノ景狀ニ依リ縱橫各三尺乃至六尺ヲ減縮スルコトヲ得
- 第八 的阜ノ四面傾斜高度ハ概テ四十五度ヲ法トス尤土性殊ニ粘膠質ナルモノハ側面ノ傾斜ヲ四十四度乃至四十三度ニ減縮スルコトヲ得
- 第九 的阜築造用ノ土性脆軟質ナルモノハ其中真ニ土俵ヲ積ミ若クハ亂杭ヲ立列シテ崩壞ヲ防クヘシ
- 第十 射門ノ構造ハ第二圖ノ如ク長サ一尺五寸ノ木材ヲ疊積シ衝擊毀壞ヲ防ク爲メ釘又ハ鐵ノ類ヲ以テ所々貫綴スヘシ
- 第十一 標的ニ個以上ヲ用フル射門ハ第三圖ノ如ク其一個毎ニ之ヲ建設スヘシ

第一圖 的阜
小銃的阜四百分一ノ圖

八原本朱線

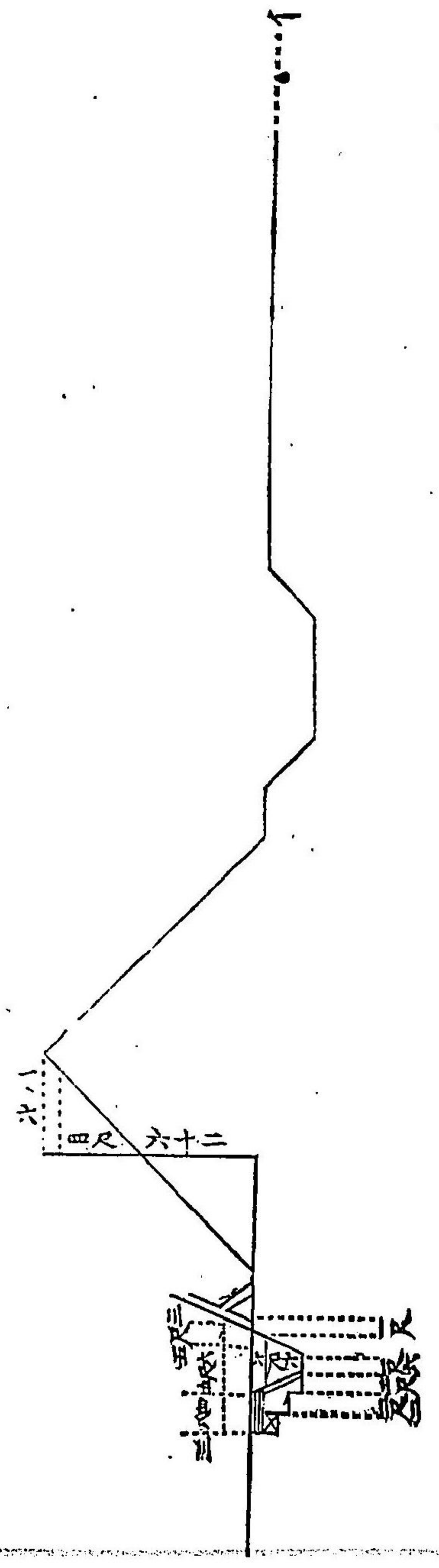
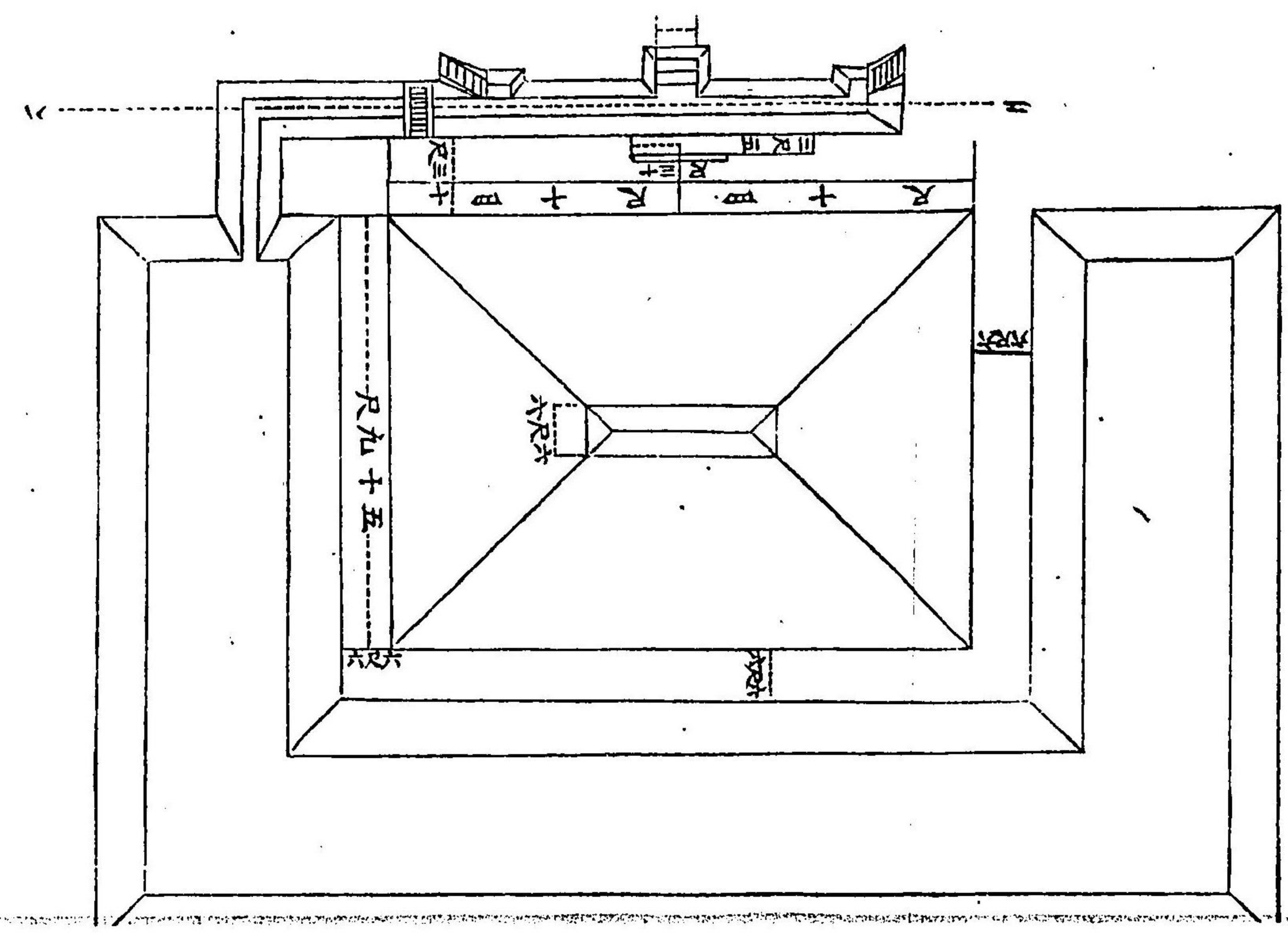
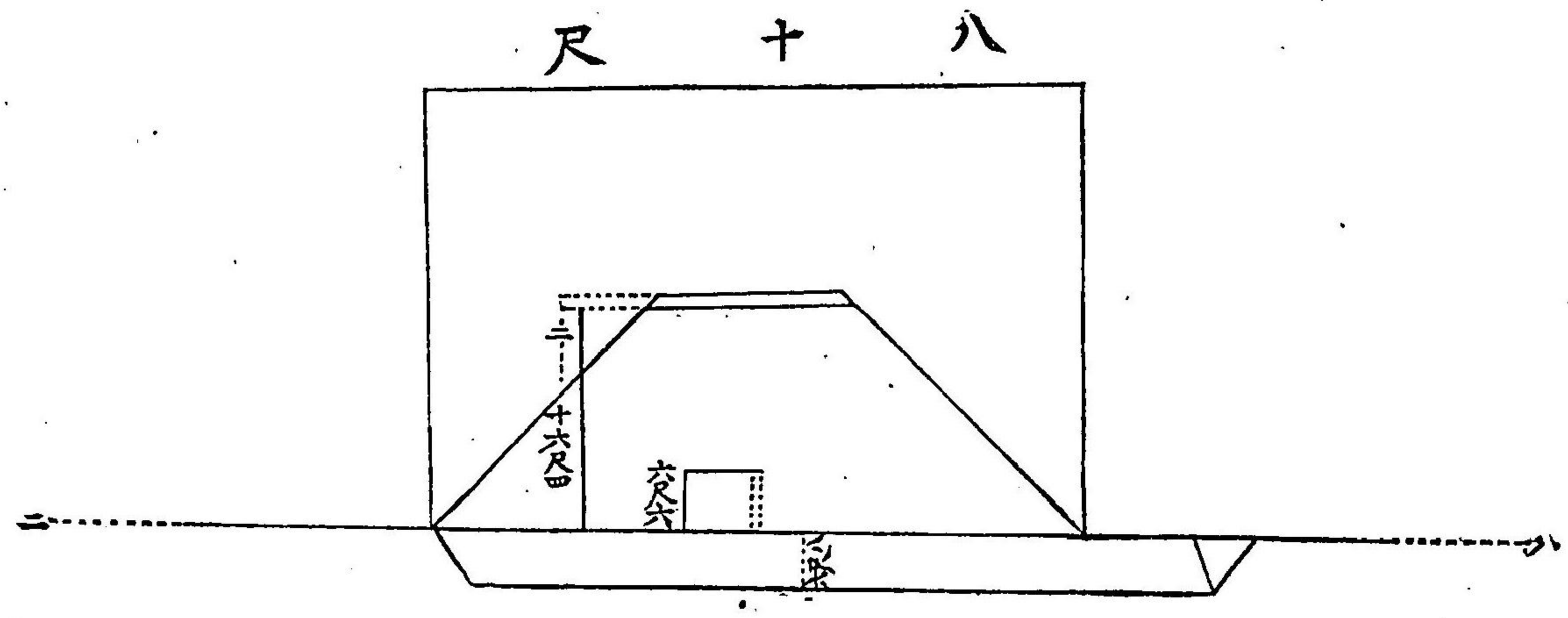
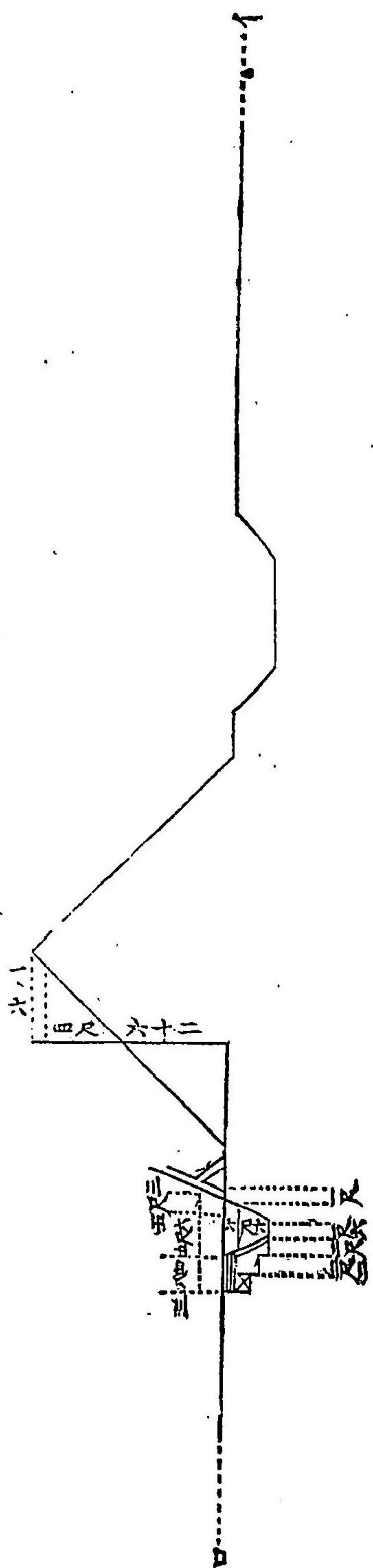
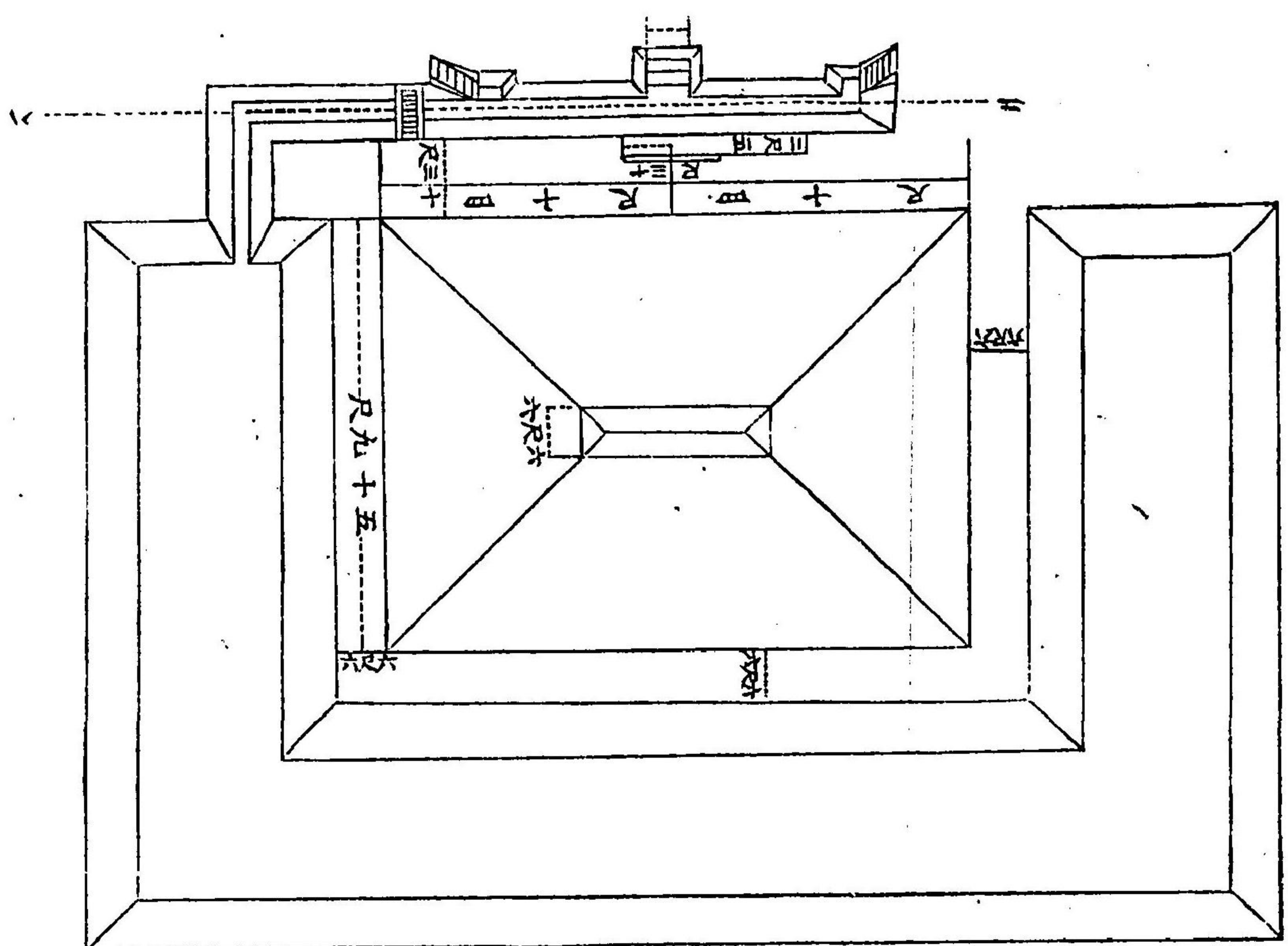
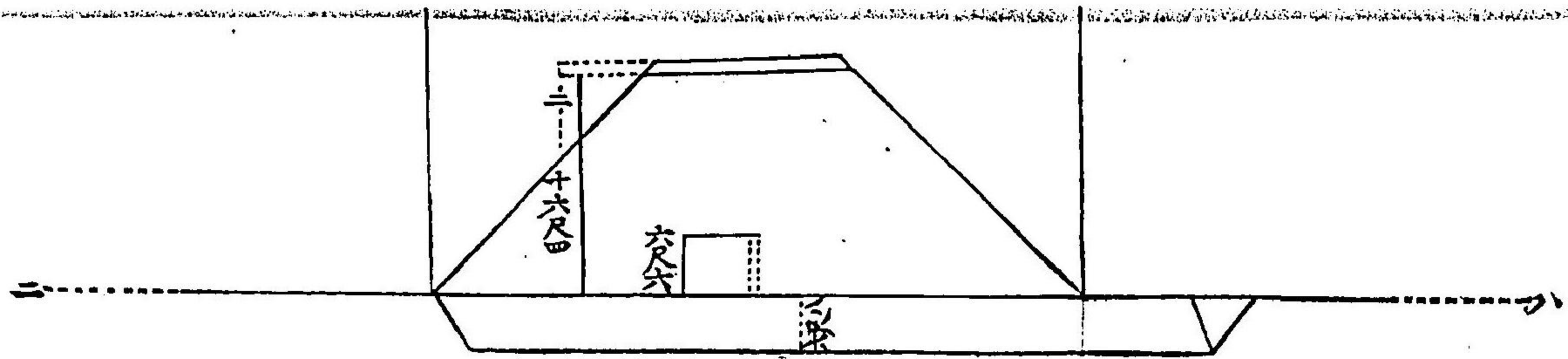


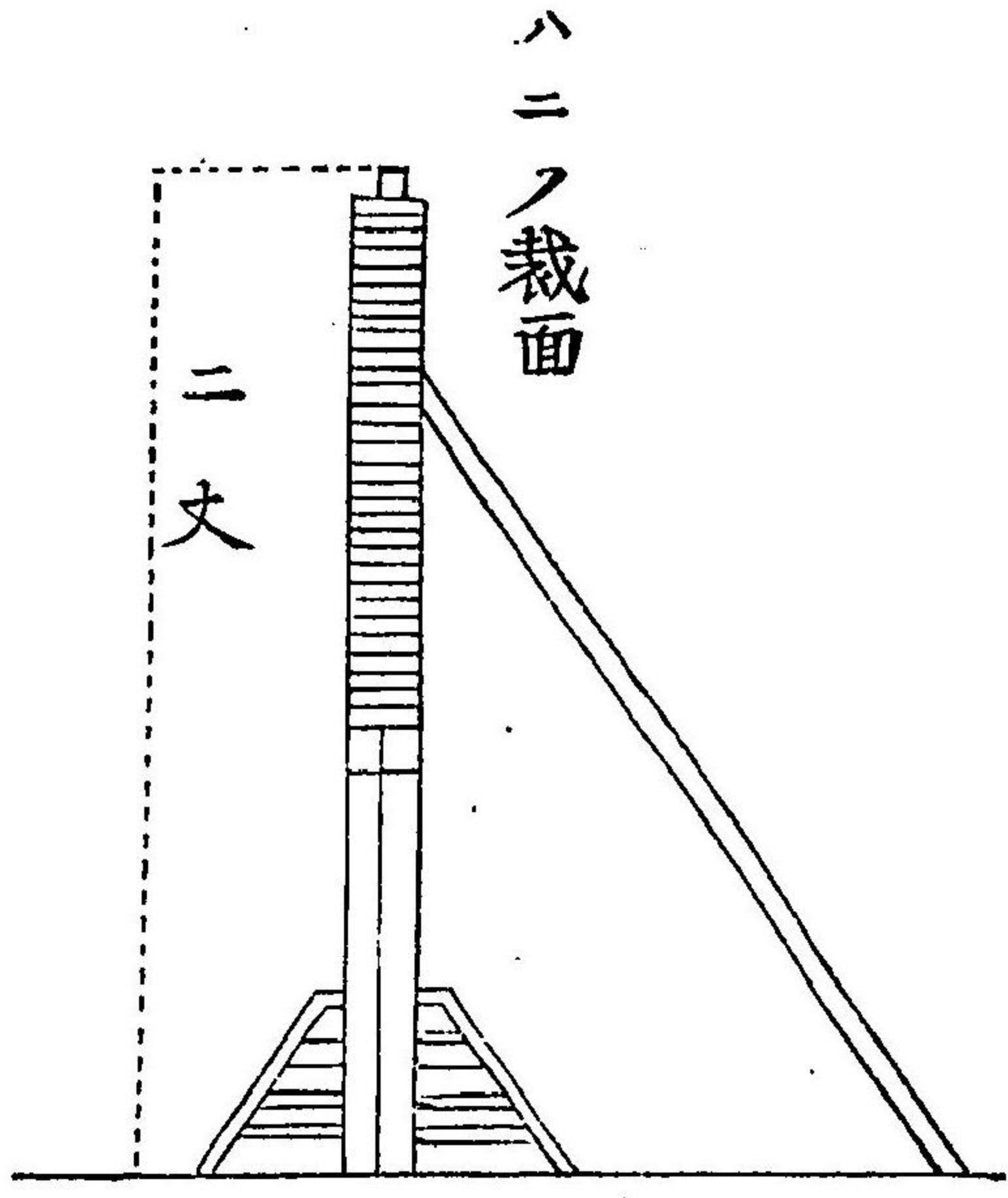
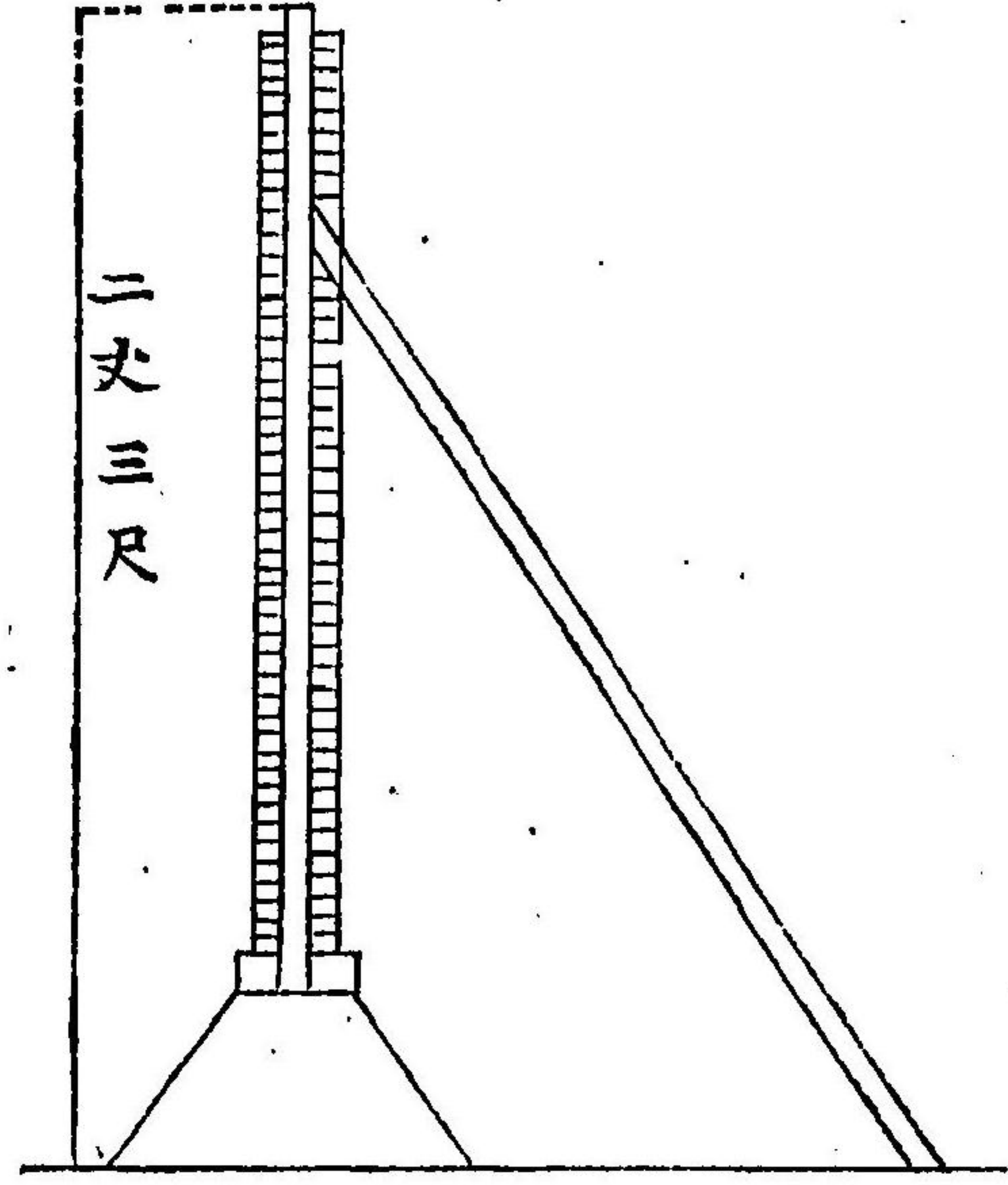
圖 的 阜
阜 四 百 分 一 圖

、 八 原 本 朱 線



第二圖

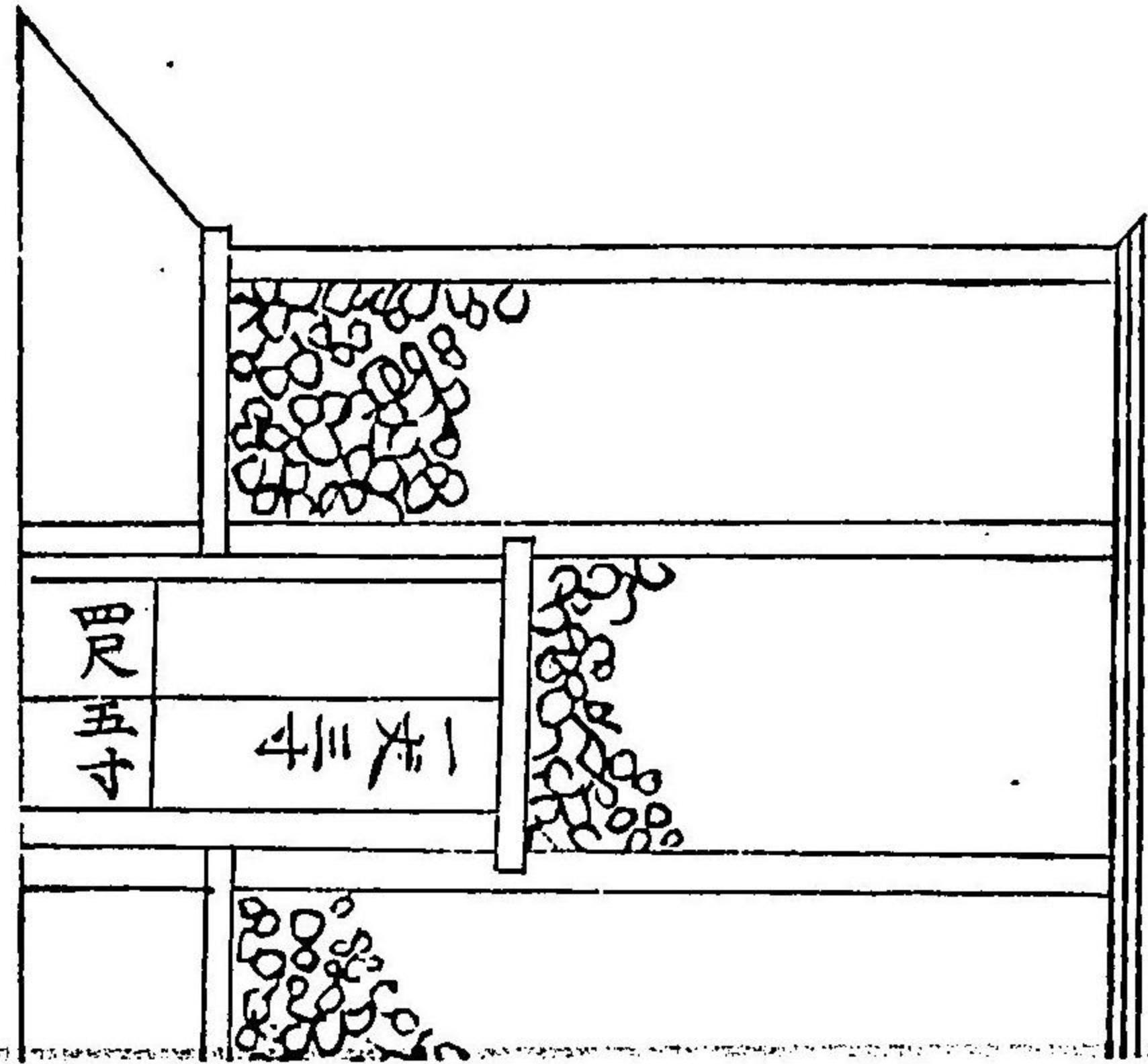
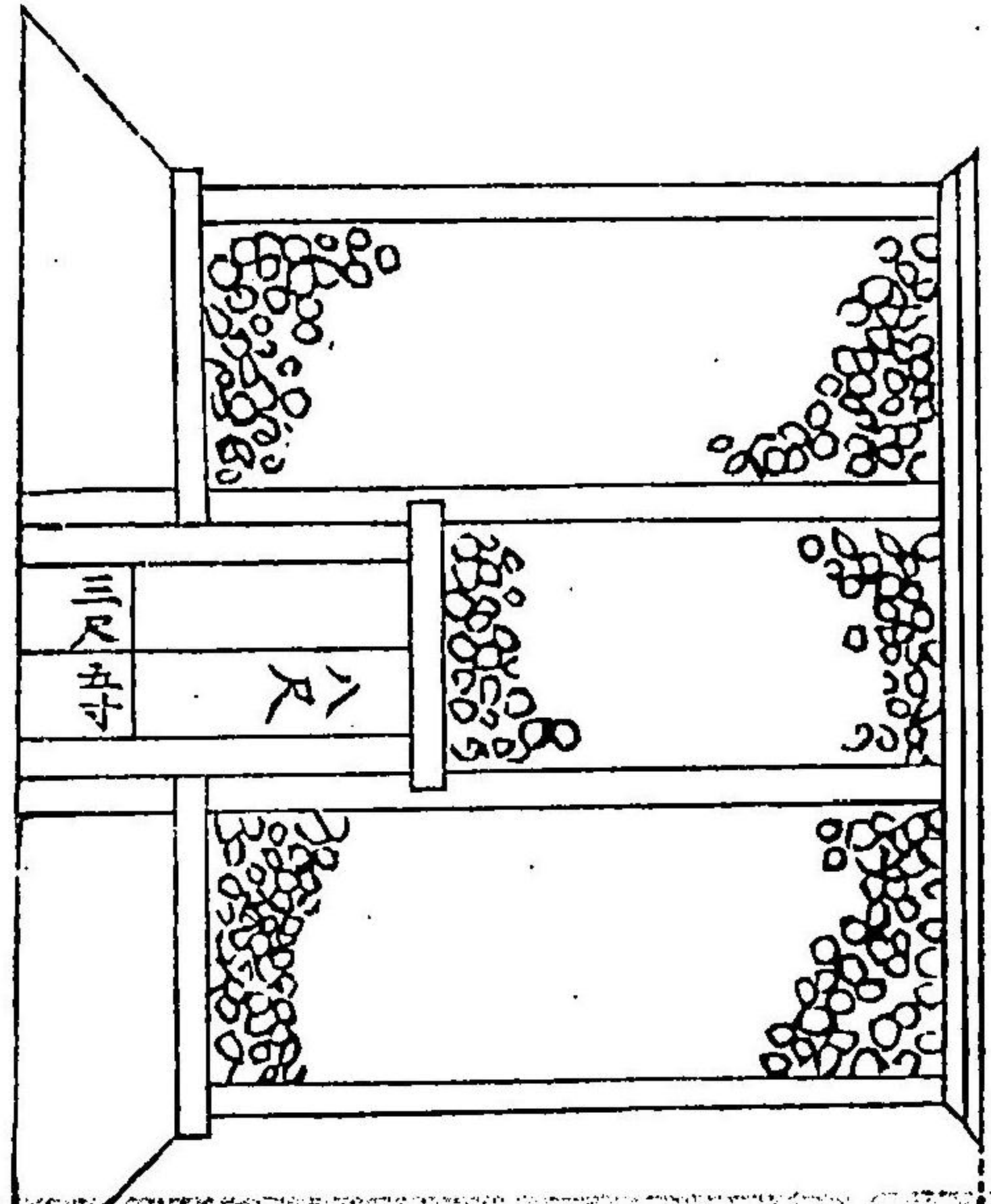
ロハ的阜前二十五メートルノ所ニ建設スルモノトス



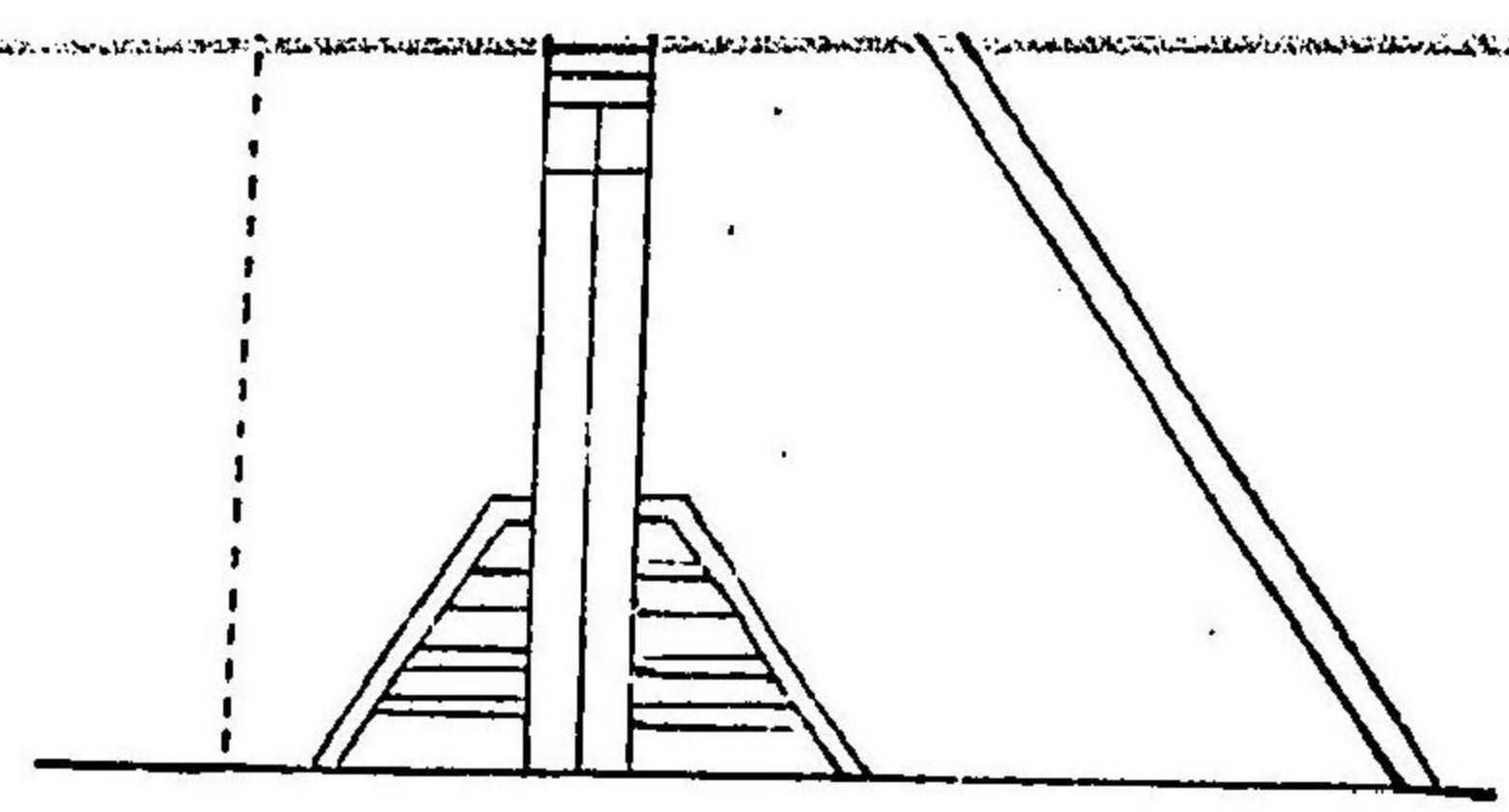
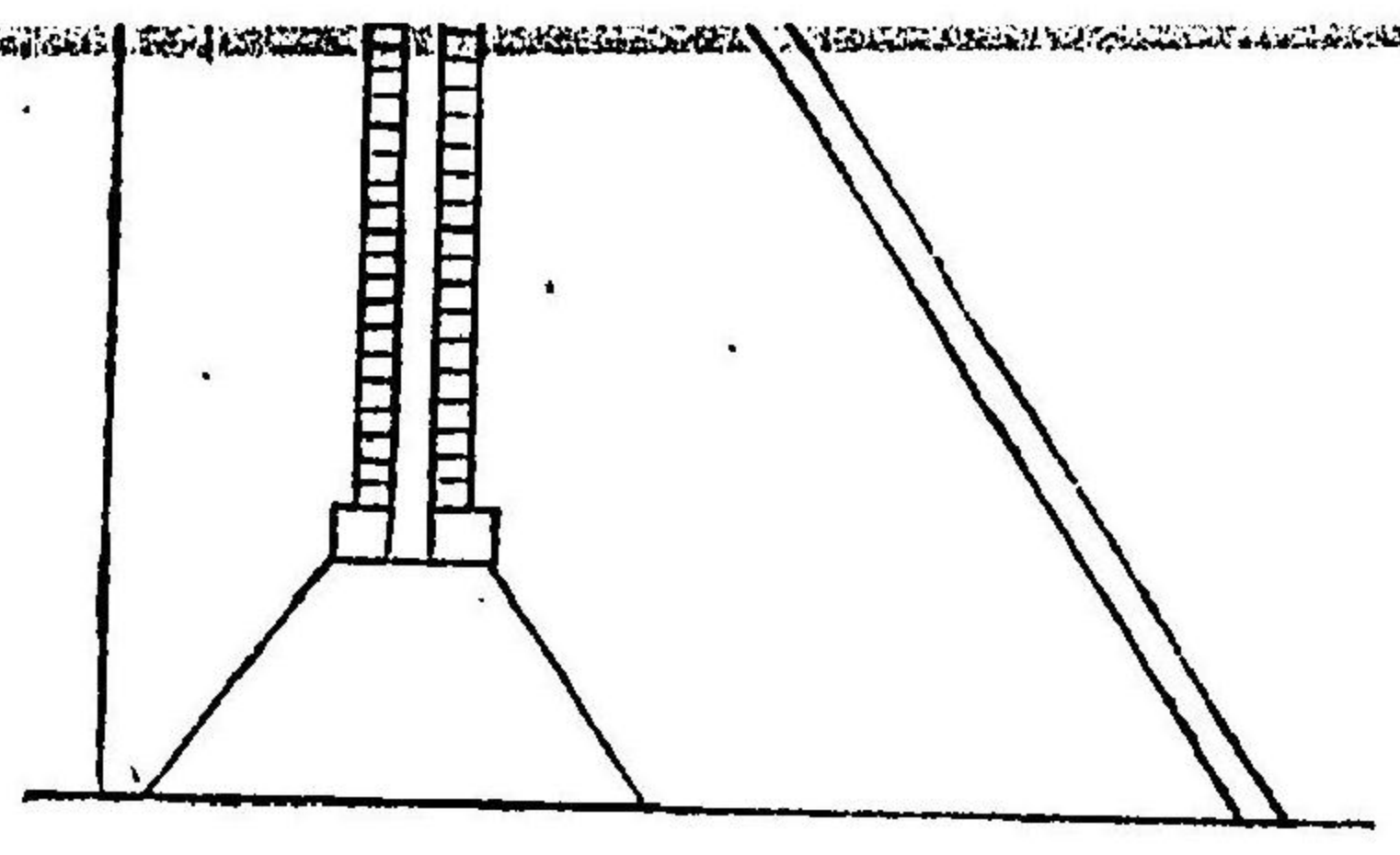
射場

三白メートル

「イ」ハ射場ヨリ十五メートルノ所ニ建設スルモノトス
イロ間ノ射門ノ高ナハ「イロ」ノ射門ニ準シ適宜タルヘシ

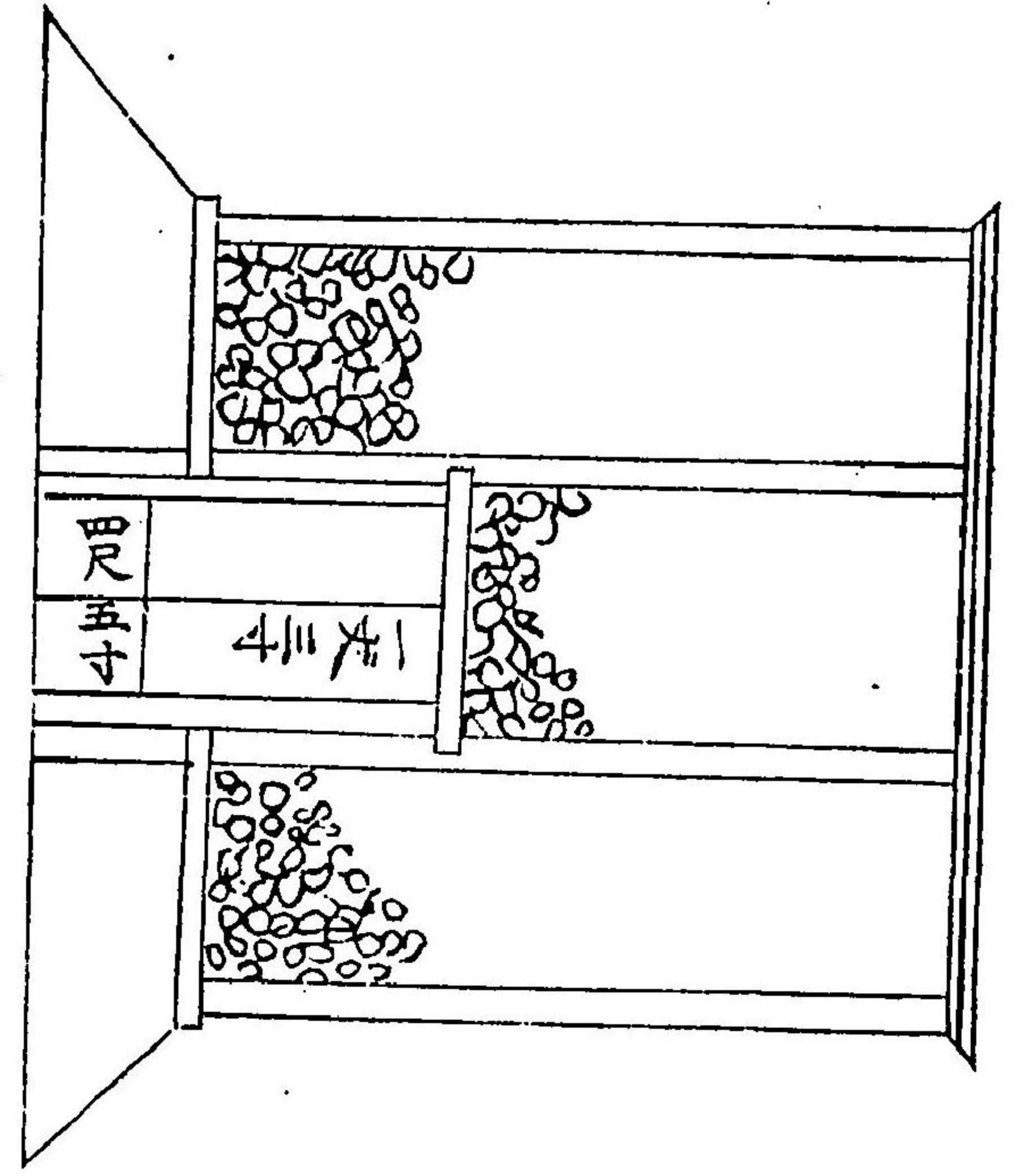
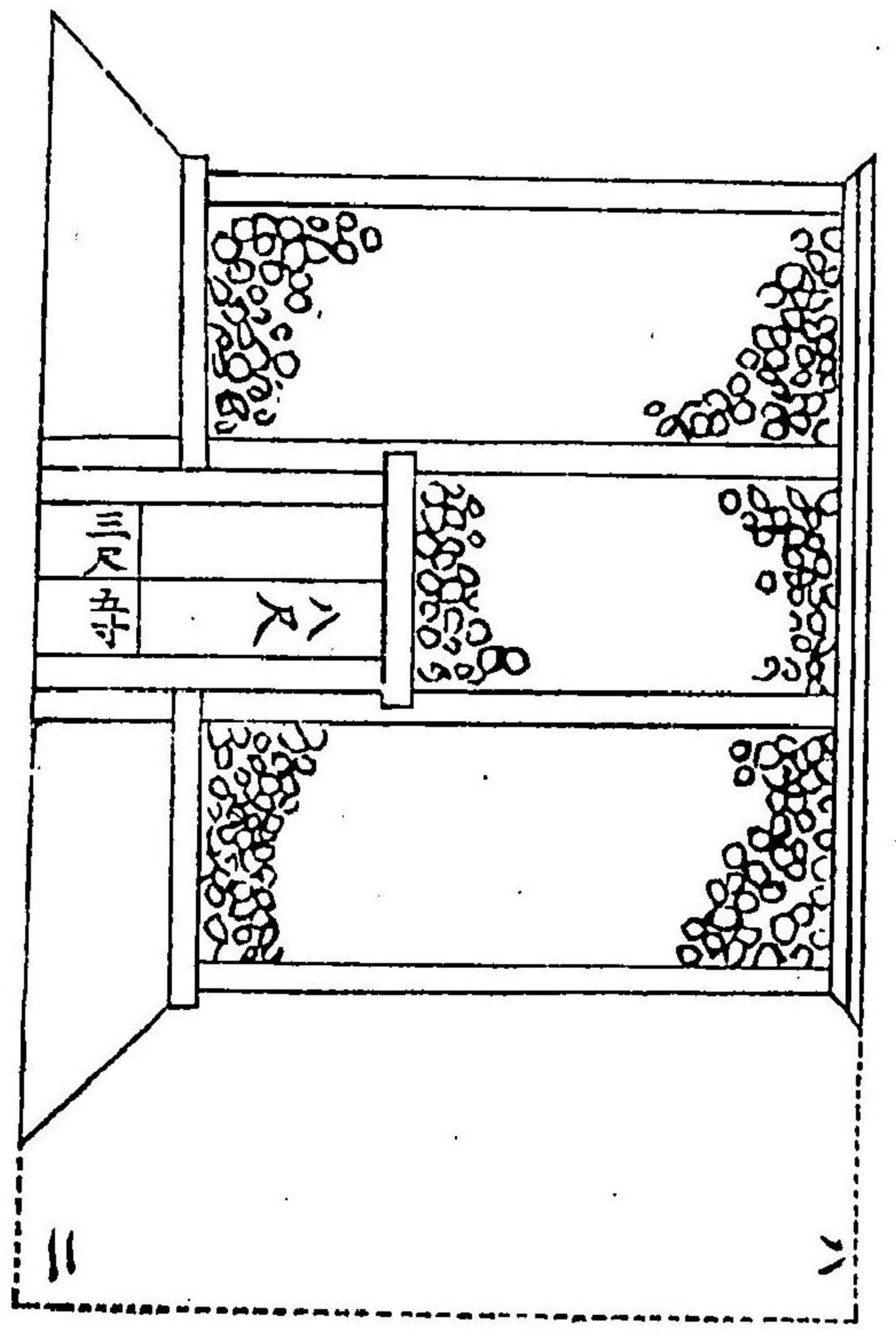


ロハ的阜前二十五メートルノ所ニ建設スルモノトス



射場

三〇メートル

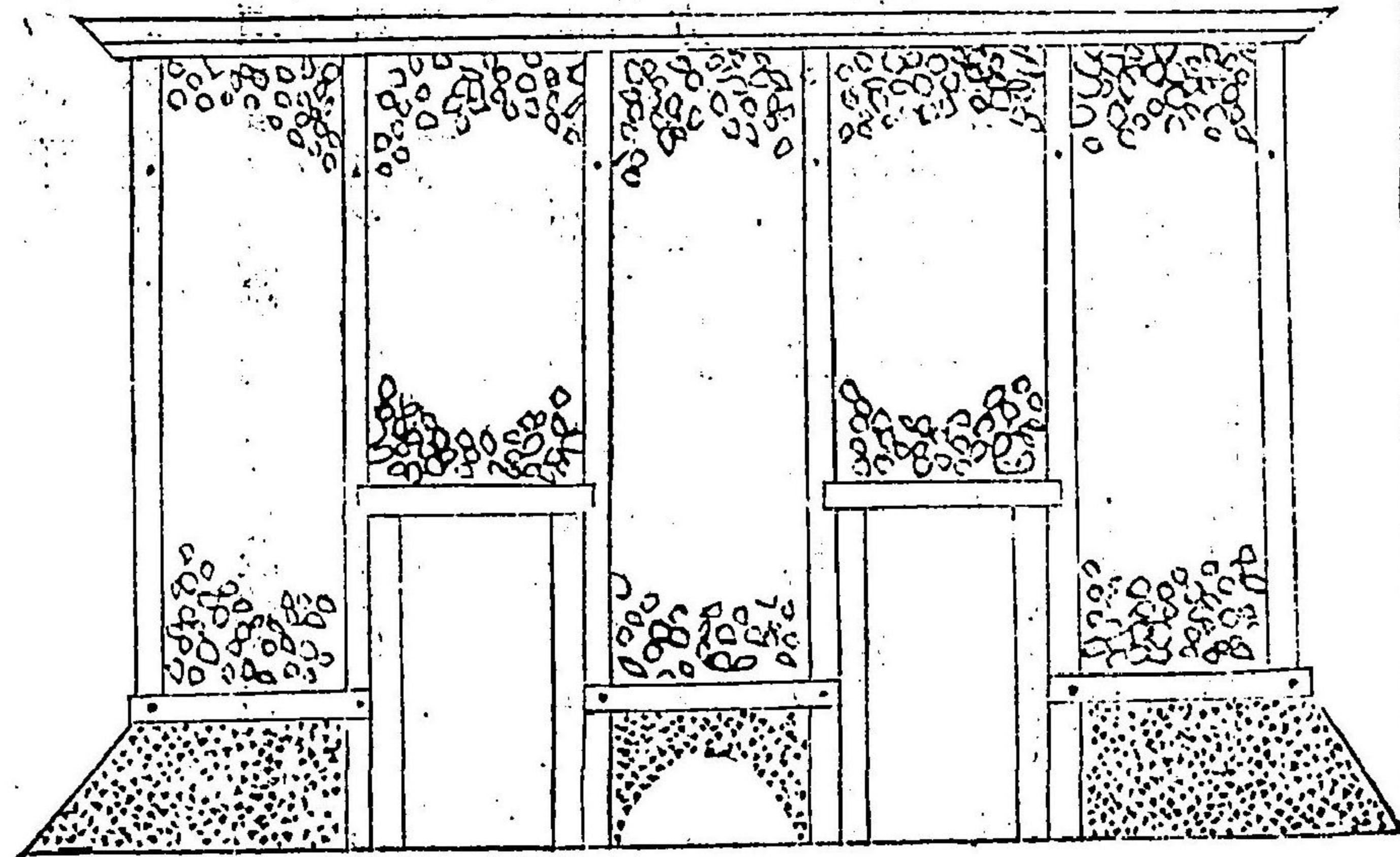


四二ノ次ニ入ル乙

メートルノ所ニ建設スルモノトス
ハ「イロ」ノ射門ニ準シ適宜タルヘシ

(三四)

ノ 同 = 圖 二 第 法 寸 度 尺 圖 三 第



第七款 銃砲取扱手續

○保第四四六號

廿五年六月三十日

銃砲取扱手續左ノ通相定ム

- 第一條 警察署分署ハ左ノ各項ニヨリ各管轄内ニ係ル銃砲臺帳壹冊ヲ調製スヘシ
 - 一 軍用銃ト下免許銃ハ各區分スヘシ
 - 二 臺帳ハ各町村毎ニ其町村名ヲ記シタル目標ヲ貼付シ見出シニ便ナラシムヘシ
 - 三 軍用銃ハ銃名^{和銃}年號番號檢印セシ管轄廳名持主ノ住所身分職業氏名等ヲ明記スヘシ
 - 四 免許銃ハ銃名^{和銃}持主ノ住所身分職業氏名等ヲ明記スヘシ
- 第二條 銃砲ノ賣買讓與等ニ關スル願届ハ以下條ニ示ス手續ニ依ラシムヘキモノニ付現ニ銃砲所持スル者又ハ自今新ニ所持スル者ニ對シ時々訓諭シ違背者ナキ様處理スヘシ
- 第三條 銃砲ノ賣買讓與ハ双方連署ノ上軍用銃ハ願出テ許可ヲ受ケ免許銃ハ届出シムヘキモノトス

免許商人ヨリ軍用銃ヲ買入レントスル者ハ銃砲取締規則ニヨリ願出テ免許權ヲ得テ買入レ更ニ届出テ檢印ヲ受ケ^{他府縣ノ檢印アル者ハ其年番號檢印セシ管轄廳名}シメ免許銃ハ双方連署届出スヘキモノトス最モ連署シ難キ事情アル者ハ賣渡證ノ寫ヲ添テ届出ルモ妨ナシ

第四條 軍用銃ヲ廢銃トシ又ハ免許銃ニ變造セントスル者ハ其ノ事由ヲ記シ願出テ檢印ノ消除ヲ受ケシメ又免許銃ニ變造シタルモノハ製成ノ上更ニ其銃名^{西洋形體銃散彈打等ノ類}ヲ届出テシムヘシ但其ノ指

第五條 銃砲所持者轉籍及他管下ヘ寄留シ又ハ他管下ヨリ轉籍寄留スル時ハ其時々銃砲名玉目^{銃ニシテ管轄廳ノ檢印アル者ハ其年番號及檢印セシ管轄廳名等ヲ詳記シ原籍并ニ現住所身分職業氏名等ヲ届出ラシメ又ハ發見シタルハ其年番號及檢印セシ管轄廳名等ヲ詳記シ原籍并ニ現住所身分職業氏名等ヲ届出ラシメ又ハ發見シタル}受持巡查ヨリ其旨報告スヘシ

第六條 銃砲所持者ニシテ改氏名又ハ死亡シ持主變換シタル時ハ其旨届出シメ又ハ發見シタル受持巡查ヨリ報告スヘシ

第七條 前各條ニ依リ願届又ハ報告ヲ受ケタル時ハ其時々銃砲臺帳ヲ訂正加除シ左ノ手續ヲ爲スヘシ

軍用銃ニ係ル書類ハ直ニ保安課ニ送致シ而シテ其指令又ハ免許券ノ送付ヲ受ケタルトキハ臺帳ヲ更訂シ指令免許券ハ本人ヘ直ニ傳達スヘシ免許銃ニ係ル書類ハ警察署ニ保存シ一ヶ月分別紙樣式ニヨリ調製シ毎翌月十日迄ニ保安課ニ送致スヘシ

銃砲所有者ニシテ他ノ管轄内ニ轉住シ又ハ他管轄内ノ者ニ賣渡讓渡ヲ爲シタル時ハ原警察署ハ直ニ其銃名等詳細其管轄警察署ニ送致シ其通知ヲ受ケタル警察署ハ相當ノ手續ヲナスヘシ

第八條 受持巡查ハ其區内ニ係ル銃砲臺帳ヲ調製シ戶口調査ノ際必ス携帶シ持主毎ニ異動ノ有無ヲ問ヒ若シ願届等ヲ怠リ居ルモノヲ發見シタル時ハ直ニ其手續ヲ爲サシメ又ハ自ラ報告シ異動アル毎ニ必ス臺帳ヲ訂正加除スヘシ

銃砲届出等ニ關スル前各條ノ手續ハ戶口調査ノ際所持主ヘ懇篤示シ置クヘシ

第九條 銃砲ニ關スル願届等ニシテ單純ノ者ハ本人ノ申立ヲ筆記シ又ハ其書面ヲ要セス受持巡查ヲシテ單ニ報告セシメ成ルヘク本人ヲシテ煩雜ノ手數ヲナサシメザル様處理スヘシ

第十條 銃獵免狀並威銃鑑札出願者アル時ハ該事務取扱手續第一條第四條ノ用銃ノ制限ハ銃砲臺牒ニ照合シテ調査スヘシ

第十一條 銃砲ニ關スル願届等ハ總テ受持巡查ヲ經由スル様豫テ處理スヘシ

(別添)
様式

何年月免許銃異動明細表

某警察署印

届出月日	銃名	玉目又ハ散弾打	賣渡主住所	同氏名	買讓受主住所	同氏名	摘要
和銃	西洋形散弾打	二匁五分	郡大町村	何某	郡大町村	何某	父某死亡相續人某讓受
レミントン	同						巡查某報告

備考從前届洩ノ免許銃ヲ發見ノ届出ヲ受ケ正當ノ事由ト認メ新ニ臺牒ニ登記シタルモノハ其事由明記ヲ要ス

第八款 銃砲取締ニ關スル雜件

○達第百一十一號

八年六月

使府縣

今般銃砲「彈藥」取締ノ儀内務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相違候儀モ可有之候得共其差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是迄陸軍省及ヒ各鎮臺等へ申出候分ハ總テ内務省へ可申出其他管理替ニ付牴觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相違候事

○本縣行第五十九號

十五年十二月十五日

銃砲彈藥買賣免許商人増員ノ義ニ付伺

銃砲彈藥買賣免許商人人員ノ義ハ兼テ制限モ有之候處當縣ノ如キハ山野廣漠隨テ銃獵稼ノ者モ多分有之然ルニ右免許商人ノ位置全ク相備リ兼候ヨリ擬ニ二名増員ノ許可ヲ得タリト雖モ尙供給者ノ僅少ナルヨリ瑣々タル火藥ヲ購求セントシテ徒ニ數十里ヲ往還候等ノ難澁不少趣ニ候條今三名増員相成候様致度此段相伺候也
書面伺之趣聞届候事

十六年一月二十五日

内務卿

○内務省乙第百二十號

八年九月二十二日

府縣

銃砲彈藥取締規則違犯ノ者ヨリ沒收候銃器彈藥等已後免許商人へ拂下ケ「代金ヲ以科料金一同可法省へ可相納」此旨相違候事

○内務省乙第百四十四號

八年十一月四日

府縣

明治五年第二十八號公布銃砲取締規則第三則ニ準シ毎月十日限賣買表差出來候處自今別紙甲表ノ通前後半年分ヲ區別シ毎年一月七月兩度ニ相届ケ其他乙表雜形ノ通銃砲讓受員數等取調毎年二月中差出候様可致此旨相違候事

但人民ヨリ各廳へ差出サセ候義ハ從前ノ通ト可相心得事

〔別冊〕

書式心得

〔甲〕賣買表ハ前後半年ニ區別シ免許商一名一表ニ製スヘキ事

一 品種ノ内洋銃ハ其名ヲ記シ和銃ハ玉目ヲ附シ火藥ハ總テ何貫何百目ト記スヘキ事

〔乙〕讓受表ハ管下一般ノ人民一ケ年間ノ讓受ニ係ルモノヲ掲出シ併テ縣下ノ合數ヲ掲クヘキ事

一 讓渡人買受人トモ本縣人民カレハ雜形表面ノ通タル可シト雖モ若シ本縣人民ヨリ他縣人民へ讓リ又ハ他縣人民ヨリ本縣人民ノ買受クル等ハ國郡名ノ上ニ其管轄府縣ノ文字ヲ加フヘキ事

一 讓受ニ係ル銃砲用立カタキモノ鑄潰シ等ニ屬スルモノハ銃名員數人名トモ朱ヲ以テ記シ區別スヘキ事

一 管下人民在來所持ノ銃砲讓受ニ係ラサルモノ其數ヲ掲クル表面ノ通タルヘキ事

一 其年十二月中調査ニ右鑄潰シ等ノ分ヲ除キ全ク縣下存在ノ數ヲ悉皆合計掲記スル表面ノ通タルヘキ事

(書式略之)

○內務省第二十五號 十年二月廿四日

府 縣(東京府) 人民所有軍用銃砲ノ内獵銃等ニ改造又ハ鑄潰シ或ハ燒爛等ニテ廢銃開屆候節ハ該品調査ノ上檢印

削除方取計「毎年六ヶ月分取纏メ人民銃名共詳細可届出」此旨相達候事

「但上半年分ハ七月下半年分ハ翌年一月中旬可届出候事」

「東京警視本署」府縣(東京府)

甲管廳ニ於テ改印セル軍用銃所有者轉籍寄留等ノ故ヲ以テ乙管下へ持越シタル後チ獻納廢業讓渡願出ル時ハ乙管廳ニ於テ聞届其趣甲管廳へ報告シ甲乙兩廳ノ簿册ヲ加除候様可致此旨爲心得相達候事

○內務省第五十五號 十年十二月廿六日

府 縣(東京府)

明治八年當省乙第四百四十四號達甲乙二表及本年乙第二十五號達中人名等届出方ノ義ハ追テ何分ノ義相達スル迄不及差出候條其廳限リ調理致シ置キ可申此旨相達候事

但從前差出有之候銃砲所持人名原簿ノ義モ増補等ノ都度其人等届出ノ分ハ本文ノ通可取計

事

○內務省第二十四號 十年三月十九日

府 縣(東京府)

人民所藏軍用銃砲彈藥類獻納願出候節ハ自今地方廳ニ於テ願意開届「明治八年(七月)第百二十一號公達」ノ賞例ニ照シ品價ニ從ヒ賞與取計該品處分法ノ義ハ別ニ陸軍省へ申稟ス可シ「尤モ其人名銃名價格等詳細當省へ可届出」此旨相達候事

○內務省外 十六年六月十四日

警視廳 府 縣(東京府)

獵銃製造人製造銃賣捌方ノ儀ニ付從來伺出ノ向へ需用ノ者注文ニ限リ賣渡シ不苦旨指令及ヒタル義モ有之候處自今免許商人ノ外直賣不相成此旨爲心得相達候事

山口縣警察公報第六號拔萃

銃砲取締上ニ於テ和銃ハ玉目ヲ知ルニ須要ナリ依テ參考ノ爲メ其算法ヲ示ス左ノ如シ

銃砲ノ口徑ヲ三乘シ玉積率〇、五二三六ヲ乘シ之ニ鉛体一方寸ノ量即チ九十五夕ヲ乘スルハ

其銃砲ノ玉目ヲ得ヘシ

假令ハ口徑五分ノ銃砲ナルヘキハ

$0.5 \times 0.5 \times 0.5 = 0.125$

$0.125 \times 0.5236 = 0.06545$

$0.06545 \times 95 = 6.21775$

ノ如ク玉目六夕二分一厘七七五トナレリ然レモ斯ノ如ク細數ヲ取ルハ却テ錯雜ヲ生スルノ憂

アルカ故ニ分位ニ止メ餘ハ四捨五入ノ法ヲ用フヘシ右六夕一厘七七五ヲ以テ六夕二分玉トナス

ノ類是ナリ

而シテ和銃ハ製造粗ナルカ爲メ口徑廣ク漸ク其中間ニ至リテ真正ノ圓形ヲ現ハスモノ少カラス

口徑ヲ測ル際宜ク注意スヘシ(佐賀縣警察旬報轉載)

○本縣告示第四十五號 廿五年六月廿九日

銃砲賣買讓與等ニ關スル願届ハ自今所轄警察官署ヲ經由スヘシ

○三第三三號 廿七年三月八日 警視總監ヨリ内務大臣へ伺

從來筒内旋條施設ノ銃砲ハ明治十一年五月山形縣伺同十二年三月滋賀縣伺同十四年三月德島縣伺同

同年五月岐阜縣伺同十六年三月静岡縣伺等ヲ參照シ凡テ軍用銃ヲ以テ取扱ヒ製造ハ勿論獵用モ否

認罷在候然ルニ近來射的用巴拉ード銃及猛獸打獵銃ノ如キハ一年ニ輸入増殖セリ右ハ孰レモ旋

條施設ノモノニ付其輸入防止ノ目的ヲ以テ今般村田形獵用略式射的銃ニ旋條ヲ施設シ製造ノ儀願

出ノ者有之右巴拉ード銃ノ如キハ顯然射的ニ使用ヲ認許シツ、アル已上ハ獨リ内國ノ製造ヲ禁遏

スルノ必要ナキノミナラス却テ事業ノ發達ヲ害シ國家經濟上ニモ多少ノ影響ヲ及ホス義ニ有之加

旃規則上旋條施設ノ銃砲ヲシテ獵用ヲ禁スルノ明文モ無之從來ノ慣行上軍用銃ヲ以テ取扱ヒタル

(〇五)

ニ過キサルニ依リ旋條施設ノ連發銃ニ連銃ノ如キ獵用ノ爲メ輒近舶來スルモノモ不少候得其規則
上其使用ヲ拘束シ得ヘキモノニモ無之ニ付其製造ヲ認許スルモ差支無之候哉差掛リノ件ニ付至急
何分ノ御指令相成度此段相伺候也

内務省指令

廿七年九月八日 内務大臣

本年三月八日付第三三三號御旋條施設獵銃製造ノ件左ノ各項ニ觸レサルモノハ軍用銃ニアラサル
ニ付製造許可スルヲ得ル儀ト心得ヘシ

- 一 本邦及陸海軍ノ組織ヲ有スル外國ニ於テ軍用ニ供スルモノ
- 二 軍用ニ供スル銃砲等ヲ付シタルモノ
- 三 實際軍用ニ供シ得ルモノ假令ハ本邦現今軍用ニ供スル銃砲ノ口徑ノミヲ少シク増減シタル
モノ等

〇十七年七月九日

埼玉縣

身代限リ財産公賣ニ際シ銃砲彈藥等有之候處右公賣處分ノ義ハ通常賣買ト異リ候ニ付明治五年第
廿八號公布銃砲取締規則ニヨリ免許商人ノ手ヲ經テ要セス他ノ財産同様入札爲致可然哉
内務省指令

第九款 火藥取締規則

〇布告第三十一號

十七年十二月廿七日

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

火藥取締規則

第一章 總則

第一條 凡火藥劇發火藥掃火藥 ナイトログリセリン、ダイナハ人民ニ於テ製造スルヲ禁ス但烟火マツチ

ノ類ハ此限ニアラス

第二條 火藥類火藥劇發火、賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條 火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條 管轄廳東京府ハニ於テ火藥類ノ検査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官

ヲシテ之ヲ検査セシムルヲ可シ

第五條 戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下ケヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬

ヲ停止スルヲアルヘシ

第六條 火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日没後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラズ

第二章 賣買

第七條 營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ證書アルハ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届

出可シ

第八條 營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其

賣渡證書ヲ取リ置クヘシ

第九條 營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡スヘキモノトス但十六

歳未滿若クハ白痴瘋癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スヲ許サズ

第十條 火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ免許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ

銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケテ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍々人ノ射的用ニ供

スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケテ之ヲ營業者ニ渡シ坑業土工其他職業用ニ供スル者ハ其旨趣及種類

數量並使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケテ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ

(一五)

超ルコトヲ許サス

小銃用

火藥

三百目

雷管

五百個

船舶設備銃砲用

大砲一門ニ付
小銃一挺ニ付

火藥

五十發分

雷管類

七十個

烟火製造用

火藥

五貫目

百發分

雷管

百五十個

坑業土工其他職業用

火藥

二百貫目

三十貫目

雷管類

五十個

坑業土工用ノ爲メ特ニ多量ノ火藥類ヲ要スル者ハ其旨趣數量並ニ使用ノ場所等ヲ記シタル書面

ヲ以テ内務大臣ノ特許ヲ受ク可シ此場合ニ於テハ直ニ陸軍海軍兩省ヨリ火藥類ノ拂下ヲ受クル

コトヲ得

第十一條

營業者ハ買受人ノ免狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取り火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條

營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ之ヲ添ヘテ翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第十三條

火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

第十四條

火藥庫ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳東京府ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五拾貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十五條

火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置并ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳東京府ノ許可ヲ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條

火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條

火藥庫ハ皇陵社寺公國家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱汽船ノ通スヘキ河

第十八條

湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五拾間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十九條

火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサズ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニハ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木五尺以上ノモノヲ建ツ可シ

第二十條

火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草株其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十一條

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ノ爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスルモノハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳東京府ノ許可ヲ願出許可ヲ受ク可シ但第十條制限以上ノ火藥類ヲ貯藏セントスル者ニ對シテハ管轄廳ニ於テ特ニ其距離ヲ指令スルコトヲアル可シ

第二十二條

烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置クヘカラス

第二十三條

第四章 運搬

第二十四條

五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ラハ直ニ之ヲ返納スヘシ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ムヘシ

第二十五條

五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鍍釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ廷包若クハ繩卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗陸路ニハ曲尺縱二尺横二尺五寸水路ヲ建テ護送人ヲ附スヘシ但船積スル時ハ明治六年(八月)第貳百九

第二十六條

十貳號布告危害品船積法ニ從フヘシ

第二十七條

火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附スヘシ

第五章 罰則

第二十五條 私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用品ニアラスト雖モ刑法第五百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第六十條ヲ適用ス

第二十六條 刑法第五十八條第五十九條第六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條 私ニ火藥庫又ハ假貯造所ヲ建設シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第四條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第廿二條第廿三條第廿四條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一 從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳東京府ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ヘシ

一 從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

第十款 火藥取締ニ關スル雜件

○建第壹號

十八年一月六日

警視廳 府縣(東京府)

明治十七年(十二月)第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一 火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名及火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

一 營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ毎年一月内務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

○海乙第四號

十八年三月二十四日

警視廳 府縣(東京府)

昨年十二月第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局ヘ出願候様營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業免許證見本豫テ其廳ヨリ同局ヘ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證携帶セシムヘシ

○本署伺

十八年二月

營業者アル警察署

○本署伺 十八年六月二十九日 營業者アル警察署

客年第三十一號布告火藥取締規則ニヨリ於海軍省ハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下相成候旨達有之候條右拂下出願之節ハ必ス營業免許證札携帶候様所轄營業者ヘ達方可取計此旨相達候事

○本署伺

十八年二月

營業者アル警察署

客年十二月火藥取締規則公布ニ付右取扱方目的別紙取調候條此段相伺候也(決定)

- 一 火藥類賣買營業ヲ願フ者アレハ願人ノ身元及ヒ人トナリテ取料シ別紙雜形ノ免許鑑札ヲ下付スルモノトス
- 一 營業者又ハ烟火製造人ヨリ火藥類ヲ倉庫ニ貯藏シタキ旨願フ者アルハ規則第十三條二項ニヨリ其數量ヲ調査スルハ勿論倉庫検査ノ上許可ノ手續ヲ爲スモノトス
- 一 火藥庫ヲ建設シタキ旨願フ者アルハ規則第十七條及ヒ第十八條ニ據リ其位置及ヒ建設ノ

(六五)

方法等調査ノ上許可ノ手續ヲ爲スモノトス但落成ノ上ハ尙規則第十八條ニ牴觸ノ廉ナキ哉
否ヲ検査スルモノトス
一 抗業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其受業中假貯藏所ヲ設ケタキ旨願フ者アルハ規
則第二十條ニヨリ其數量ヲ調査スルハ勿論實地検査ノ上許可ノ手續ヲ爲スモノトス但假貯
藏所構造並周圍ハ危險ノ豫防等爲致置クモノトス
十八年二月廿六日

○客年十二月火藥取締規則公布ニ付警察署ニ於テノ取扱ヒ左ノ通相定候條此旨及達候也

警察署取扱

- 一 火藥類ヲ日出前日没後賣買運搬其他荷造等ヲ爲シタキ旨願出ルルハ其事由取糾ノ上止ヲ得
サルモノニ限リ許可スヘシ
- 一 規則第七條及ヒ第十二條ニヨリ所轄内ノ營業者ヨリ毎月買受ケ又ハ賣渡シタル火藥類ノ届
書各一通ヲ差出サシメ營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ノ統計表ヲ製シ每翌月十五日
迄ニ警察本部ヘ差出スヘシ但營業者ヨリ添テ差出タル證書ハ差回ニ及ハス
- 一 銃炮用又ハ坑業土工其他職業用ニ供スル爲メ火藥類ヲ買ヒ受ケタキ旨願出ルルハ規則第十
條及ヒ第二十條貯藏ノ數量ニ超過セサル哉否ヲ調査シ且使用ノ方法等取糾ノ上別紙甲乙號
雜形ニ倣ヒ許可證ヲ下付スヘシ
- 一 五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬センコトヲ願出ルルハ別紙丙號雜形ニ倣ヒ許可證ニ下付シ尙其旨
ヲ沿道各警察署及ヒ分署ヘ通知スヘシ但甲警察署ニ於テ下付シタル許可證ヲ運搬地乙署ニ
納メタルハ乙署ハ其旨ヲ甲署ニ通知スヘシ
- 一 規則第二十條ニヨリ處分ヲ請ハント欲スル者アレハ其情狀ヲ具申シ指揮ヲ受クヘシ

表 第何號

裏

年月日

割印

火藥類賣買免許鑑札

何縣何郡何町村士族平民

何ノ誰

大分縣



(七五)

用紙小奉書四ツ切		第何號	
火藥類買取許可證		住所族籍	
買取人氏名	一 小銃用火藥	何程	何程
電管	一 何々	何程	何程
右買取許可候事	年月日	署名	印
全上		第何號	
火藥類買取許可證		住所族籍	
買取人氏名	一 火藥	何程	何程
一 劇發火藥	一 何々	何程	何程
右ハ何々用坑業土工或ハ 職業用ノ類トシテ買取許 可候事	年月日	署名	印
全上		第何號	
火藥運搬許可證		住所族籍	
願人氏名	一 火藥	何程	何程
一 何々	但何月日時ヨリ運搬	何程	何程
右何郡何町村某宅ヨリ何郡 何町村又ハ小路何地ヲ經テ 何郡何町村某宅マテ運搬ス ルコトヲ許可スル者也	年月日	署名	印

(八五)

○本縣告第三十八號 十八年二月
 客年十二月第三十一號ヲ以テ火藥取締規則公布ニ付右火藥類營業人ハ左ノ定限ニヨリ許可候條此
 旨告示候事

西國東郡	一人	東國東郡	一人	速見郡	一人	大分郡	二人
北海部郡	二人	南海部郡	一人	大野郡	二人	直入郡	一人
玖珠郡	一人	日田郡	一人	下毛郡	一人	宇佐郡	一人

○本縣安第五號 十九年二月四日
 火藥類買賣表調査之都合有之別紙書式之通相定候條自后右ニ倣ヒ届出候様該免許商へ達方可取計
 此旨相達候也

出入部			明治何年何月火藥類買賣表		
品目	前持越高	月本買入高	月本賣却高	月本殘高	
品國內 火藥	何貫目	何拾貫目	何貫目	何貫目	
品國外 全					
品國內 劇發火藥種名					

(九五)

買入部			賣却人住所姓名		
品目	員數	何貫目	何府縣何郡何町村	何	之誰
品國外 同			何府縣何郡何町村	何	之誰
品國內 雷管	何拾個	何拾貫目	何府縣何郡何町村	何	之誰
品國外 同			何府縣何郡何町村	何	之誰
品國內 火藥	何拾貫目	何拾貫目	何府縣何郡何町村	何	之誰
品國外 同			何府縣何郡何町村	何	之誰
品國內 劇發火藥種名	何貫目	何拾貫目	何府縣何郡何町村	何	之誰
品國外 同			何府縣何郡何町村	何	之誰

(〇六)

品國內種	品目	品國內火	品	品國外同	品國內雷
名何百目	員數	藥何百目	員數	、	、
肩書全シ	右ニ全シ	肩書全シ	買入人住所姓名	肩書全シ	肩書全シ
同		同		同	同

劇發火藥賣却部

火藥賣却部

品國外同	品國內種	品目	品	品國外同
、	名何個	員數	右ニ同シ	、
肩書同シ	肩書同シ			肩書同シ
同	同			同

雷管賣却部

右之通ニ候也

何郡何(町村)火藥類賣買免許商

何之誰

明治何年何月何日

縣令宛

一 品目欄内警ヘハ火藥持越高アリテ買入並賣却ナキキハ其欄ヘ丸印ヲ付シ若シ持越買入賣却ナキキハ品目欄内ヘ種名記載セサルヘシ

○陸軍省訓令第九號

廿三年四月五日

廳府縣(東京府)

(一六)

當省火藥類拂下ノ儀ハ從前砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ取扱來候處自今東京砲兵工廠及大坂砲兵工廠ニ於テ取扱候條此旨營業人ヘ達方取計フヘシ

但拂下手續ノ儀ハ從前ノ通り

○保第七〇八號 二十三年十一月十八日

火藥類賣買許可取扱ノ儀ハ警察署ニ限リ候處自今分署ニ於テモ取扱不苦旨決定相成候趣内務省總務局長ヨリ通牒アリタリ

○海軍省告示第三號 十九年五月十八日

當省ニ於テ火藥類拂下ノ儀ハ自今火藥ハ火藥製造所雷管ハ兵器製造所ニ於テ取扱ハシムヘシ

○保第四九八號 二十三年八月八日

米國紐育レンドロック、パウダー商會ニ於テ發賣ニ係ル「ラツカロック」取扱方ノ儀ニ付左記ノ通警視廳へ指令相成候旨内務書記官ヨリ通牒アリタリ

米國製ラツカロック取締方ノ儀ニ付請訓廿三年十一月卅日警視總監ヨリ内務大臣伺
米國紐育レンドロック、パウダー商會ニ於テ發賣ニ係ル「ラツカロック」貯藏及運搬取扱方ノ儀火藥類賣買營業者高田慎藏ヨリ別紙(略ス)ノ通伺出ニ付該品試験候處發火ノ強力及元素ハ別書甲乙號(略ス)成蹟ノ通ニシテ「ダイナマイト」ヨリモ一層猛烈ノモノニ有之且物体ハ固形体ト流動体ト二ツニ成立チ居ルモノニシテ之ヲ分離スルトキハ危險ノ虞ナキカ如シト雖モ若シ事疎虞ニ失シニ体相合スレハ忽チ恐ルヘキ爆發ヲ爲スモノナレハ之レカ運搬ヲ自由ニ放任スルトキハ不測ノ禍害ヲ來タス哉モ難計仍チ賣買ハ勿論貯藏運搬上ニ於テモ頗ル注意ヲ要スヘキ儀モ有之候ニ付火藥取締規則ニ據リ可然ト思考候得共新發明ニ係ルモノニ付此段訓請候也

指令 (内務大臣)

客年十一月三十日付一第五四六號請訓「ラツカロック」取扱方ノ件渾テ火藥取締規則ニ據ルヘキ儀ト心得ヘシ

○内務省訓令第七八一號 二十年十月十九日

火藥類貯藏ノ儀ニ付テハ火藥取締規則第三章ニ規定有之不取締無之筈ニ候得共監護ノ疎虞懈怠等

ヨリ不測ノ危害ヲ生シ殊ニ土工又ハ鑛山用ニ供スル火藥類ヲ竊取セラレタル向モ尠ナカラス固ヨリ取締方行届居候儀ニハ可有之候得共自今猶一層注意ヲ加ヘ當分ノ内警察官吏ヲ派シ監視セシメ其主管者ニ於テハ土木受負人又ハ坑夫職工等ニ放任セシテ嚴ニ取締人ヲ附シ萬一前顯ノ如キ不都合ノ義有之ニ於テハ主管者ヲシテ其ノ責ニ任セシムヘキ旨豫テ十分注意セシメラルヘシ

右訓令ス

○保第八五號 廿六年一月三十一日

近來火藥類ヲ竊ニ製造シタル犯罪者數多有之由ニ付其原因ヲ調査スルニ各署ニ於テ往々獵銃用トシテ鹽酸加里ノ賣買認可ヲ與フル向有之哉ニ相聞ヘ右ハ獵銃ノ導火用ニ鹽酸加里一品而已ヲ使用スル者ナリトセハ或ハ妨ケナシト雖モ導火用トセントスルニハ該藥品ニ「アンチモニ」(冠冠硫黃)ヲ合和スルモノニ付即チ劇發火藥ヲ製造スル所爲ニ該當シ又該爆發物ニテ狐狸ノ類ヲ獵スルモノ頻々有之哉ニテ實ニ危險ノ處爲ニ有之候條右ハ廿四年十二月申速見郡警察署長ヨリ同事件取扱方稟議ニ對シ訓示シタル條件ハ保安課ヨリ其ノ際通牒セシメタルニ付右等ノ取扱ニ付テハ素ヨリ熟知ノ義ニハ可有之候得共銃獵用等トシテ鹽酸加里ノ賣買願ハ認可スヘカラサルモノニ付尙自今嚴重取締方注意セラルヘシ

第十一款 爆發物取締罰則

○第三十二號布告 十七年二月廿七日

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身体財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑ニ又ハ有期徒刑

(四六)

- ニ處ス
- 第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫致唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス
- 第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣譲與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
- 第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二拾圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知スヘシ違フ者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一又ハ二等ヲ減ス
- 第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歲未滿ニシテ是非ノ辯別ナキ者ハ刑法ニ從フ
- 第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
- 第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

第十二款 火藥類鐵道運送條規

○工部告示第十四號

十八年四月十日

明治五年(五月)第四百六十六號公布鐵道略則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

右告示候事

火藥類鐵道運送條規

- 第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ
- 第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ但兵員乘車ノ時其攜帶スル彈藥ハ此限ニアラス
- 第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付壹哩金壹錢貳厘ト定ム但重量三千五百斤未滿ハ三千五百斤分ヲ取リ里程二十里未滿ハ二十里分ヲ取ルヘシ
- 第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四拾八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナキハ之ヲ運送セサルモノトス但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限リニアラス
- 第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ
- 第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲スハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得サルハ必ス革布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ
- 第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿テ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸咽スルヲ許サス
- 第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クヲ防クヘシ

(五六)

第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタル片ハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時
間ヲ過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付金貳圓ノ遲滯料ヲ徵スヘシ
第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害並ニ之ニ原因シテ
他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其責ニ任セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ
起ルモノハ此限ニアラス
第十一條 火藥類ノ運送ヲ委任スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下
付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

第十三款 煙花打揚ノ件

○本縣訓令甲第壹號 廿一年一月四日
煙火打揚願ノ義ハ自今所轄警察署へ願出テ許可ヲ受ケシムヘシ

第十四款 危害品船積法則

○布告第二百九十二號 六年八月
危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚キハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不
容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候也
一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害ス
ヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運
送會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積
致シ或ハ船積セシト謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事
一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運送
會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直チニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事

但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レ
共其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ
場合ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所へ可届出事但全安ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨ
リ辨償可致事
一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ
保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ著港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁
判所へ可届出事但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事
一 船長及ヒ運送會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷主トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ
金五百圓以内又之ヲ見出スト雖モ官ニ訴へ出サル時ハ金貳百圓以内ノ罰ニ處スヘキ事

第十五款 石油取締規則

○布告第六號(內務卿) 十六年二月十五日
明治十四年(八月)第四十號及ヒ同年(九月)第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス但施行日限ノ
儀ハ明治十五年(八月)第四十四號布告ノ通リタルヘシ
第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサ
レハ發焰セザルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス
第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝
上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス
第三條 石油營業者ヲ分テ擴業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下
ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スル片ハ別ニ其許可ヲ受クベシ
第四條 石油ノ種類ハ內務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムヘシ

石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但擴業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製處ノ構造方ハ都テ管轄廳東京府下ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限り販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油タルコトヲ表記スベシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

右奉 勅旨布告候事

参考

本則ニ關スル油質検査手續其他取締細則内務省へ届出スヘキ旨十四年内務乙第四十號ヲ以テ達セラル尙施行日限ハ退テ布告アル迄延期スル旨同年第十號布告ヲ以テ達セラル

第十六款 格魯兒酸加溜謨賣買授與

○本縣縣令甲第四六號 廿二年十一月十三日

醫師獸醫藥劑師藥種商製藥者ニアラスシテ格魯兒酸加溜謨(鹽酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スルキハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署又ハ分署ニ届

出認可ヲ受クヘシ但シ警察官臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書式

格魯兒酸加溜謨 斤量

右ハ(醫業)(工職用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)授受致度御認可被成下度候也

本籍何府(縣)何市(郡區)何町(村)番地族籍職業

現住所何府(縣)何市(郡區)何町(村)番地

(買主)(受主) 氏 名(實印)

年 齡

何府(縣)何市(郡區)何町(村)番地族籍職業

(賣主)(授主) 氏 名(實印)

年 齡

警察署長又ハ分署長宛

○保第七四號 廿二年十一月十三日

今般縣令甲第四十六號格魯兒加溜謨賣買授受取締方ノ儀發布相成候處右ハ劇裂藥ニシテ警察保安上最モ注意ヲ要スベキモノニ付左ノ例ニ依リ取扱ヒ平素取締方嚴重注意スベシ

一鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里ヲ賣買授受スルニ付届出タルキハ其賣主授主ハ其資格藥種商賣ヲ有スル者又ハ買主授主ハ該藥品ヲ必要ノ職業アル者ニテ其需用ノ目的相當ナリヤ否取調ノ上都合ナキモノト認メタルキハ直ニ認可ノ手續ヲ爲スベシ

一必要ト認メタルキハ其現品ヲ實查シテ臨機相當處分ヲ爲スベシ

一買主授主ノ職業上必要ナラザルモノトシ又ハ賣買授受上不審ノ廉アリ若クハ其需用ノ目的正

當ナラサル等ノ事故アリ認可ヲ與フベカラザルモノト認メタルハ雙方ノ住所氏名年齢身分職業及本人ノ性行舉動并ニ其認可ヲ與ヘザルノ理由ヲ詳記シ本部長ニ稟議ノ上處分スベシ

一該藥品賣買授受ニ付認否ノ處分ヲ爲シタルハ其賣買授受者ノ住所氏名年齢身分職業藥品名斤量需用者ノ目的其認否ノ理由等日誌若クハ別帳ニ記載シ置クヘシ

一買主受主其他々府縣下ノ者ニテ本縣下ニ寄留シ若クハ行旅中ナルハ其認可ノ都度買主受主所轄ノ警察署長又ハ分署長ニ通報スヘシ

一該縣令ニ違反シ即決處分ヲ爲シタルハ其被告人ノ住所氏名年齢身分職業其處分ノ年月日刑期違反ノ概畧等ヲ明記シ每翌月十日迄ニ報告スヘシ但他府縣ノ者ナルハ即報スベシ

第十七款 帶刀禁止

○布告第三十八號 九年三月二十八日

自今大禮服用并ニ軍人及ヒ警察官吏等成規アル服用用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨相違候事

但違背ノモノハ其刀可取上事

○本縣布告第七號 十年五月十九日

往々帶刀徘徊候者モ有之趣相聞取締上差支不尠候ニ付今自無謂帶刀候者ハ直ニ差押ヘ候條此旨布達候事

○十三年一月警部會議決議ノ件伺濟議決

一帶刀違犯之者處分ノ節左之言渡書ヲ下付スル

其方儀明治何年何月第何號公布帶刀ノ禁ヲ犯スニ依リ該刀取揚候事

明治何年何月何日

何

署

○内乙第二拾一號

十一年三月四日

府

縣

諸神社神輿渡御之節供奉ノ者帶刀之儀ニ付明治九年七舊教部省甲第五號ヲ以テ神官并官國幣社へ相達置候趣候所右ハ府縣社以下モ同様專ラ古代之裝飾ニ模倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋ヘ可爲届出儀ト可心得此旨相違候事但普通祭服用之者帶刀不相成儀ハ勿論タルヘシ

第十八款 電氣事業取締規則

○遞信省訓令第七號

廿四年八月十七日

自今其管下ニ於テ電氣事業ヲ營マントスルモノアルハ其取締方法ヲ設ケ本大臣ノ認可ヲ得テ後之ヲ許可スヘシ現ニ其事業ヲ營ムモノニ在リテハ現在實行スル取締方法ヲ詳具シ本年十月一日迄ニ之ヲ本大臣ニ報告スベシ

○本縣令第三十四號

廿七年五月廿五日

電氣事業取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一章 通則

第一條 電氣事業トハ營業ノ爲メ電力線或ハ電燈線ヲ施設シ電氣ヲ供給又ハ需用スルモノヲ云フ

第二條 電氣事業ヲ爲ス者ハ願書ニ空架線又ハ埋線施設工事ノ落成期日ヲ記シ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ願出允許ヲ受クヘシ

其改造變更又ハ發電機ヲ増置シ若クハ線路ヲ延長スルトキ亦同シ但蒸汽機關ヲ以テ發電スルモノハ尙ホ汽鐘汽機取締規則ニ依ルヘシ

二電柱及埋線ノ材料、長短、位置、并地種ヲ記シタル者其私有地ニ係ルモノハ地主ノ承諾書

二圖面(圖面ニハ線路并ニ其近傍ノ町名、電柱最近地ノ番地、電柱ノ番號、電柱ノ位置、街路へ出幅、埋線及埋線試驗口ノ位置)電氣線路圖并ニ其近傍ノ町名、電柱最近地ノ番地、電柱ノ番號、電柱ノ位置、街路へ出幅、埋線及埋線試驗口ノ位置、電氣線路圖并ニ其近傍ノ町名、電柱最近地ノ番地、電柱ノ番號、電柱ノ位置、街路へ出幅、埋線及埋線試驗口ノ位置

ノ區別及電壓ノ度等其照トナルベキ
件ハ圖中適宜ノ所ニ簡明ニ記入スヘシ

- 第三條 既設ノ電柱ニ添架スルトキ及需用家へ引込線ニシテ其需用家ノ構外ニ電柱ヲ建設セサル場合ハ允許ヲ受クルニ及ハス
- 第四條 電力線又ハ電燈線ハ狹隘又ハ他ノ支障アル場所ニ在テハ施設ヲ許サ、ルコトアルヘシ
- 第五條 第二條ノ工事第三條ノ添架落成シタルトキハ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ届出檢査證ヲ受クヘシ其證ヲ受ケサルモノハ使用スルヲ許サス
- 第六條 事業者ハ事業上相當ノ學識經驗アル技術長ヲ置キ其履歷書ヲ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
- 第七條 需用家ニ電動機又ハ電燈ヲ新設若クハ増設シ送電スルトキハ電動機及電燈ノ種類、箇數、馬力、需用家ノ場所、番地、氏名ヲ詳記シ其都度所轄警察署ヲ經テ縣廳へ届出ヘシ但其供給者ニ於テ工事ヲ擔當セサル電力線又ハ電燈線ニ電氣ヲ給スル場合ニ於テハ技術長ノ證明書ヲ添へ届出ヘシ
- 第八條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線及電話線ト交叉若クハ並行シテ電力線又ハ電燈線ヲ架設スルトキハ其主管官署へ届出立會ヲ乞フヘシ
- 第九條 發電機、電動機、電車、保安器、開閉器、變換器、及電力電燈線路等ハ臨時主任官吏ヲシテ實査セシメ若シ安全ナラサル虞アリト認ムルトキハ其一部若クハ全部ノ使用ヲ停止セシメ或ハ改設修理其他豫防ノ設ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第十條 既設ノ電力線又ハ電燈線ト雖モ公益ノ爲メ施行スル工事又ハ通行上支障アル場合ニ於テハ其位置或ハ構造ヲ變更セシメ又ハ第十六條第十八條ニ定ムル所ノ距離ヲ伸張或ハ其他ノ豫防ヲ施サシメ又ハ線柱ヲ撤去セシムルコトアルヘシ
- 第十一條 縣廳ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ事業者ヲシテ電氣ノ供給ニ使用スル器具及物品ノ見

本ヲ差出サシメ又ハ其試驗ヲ執行セシムルコトアルヘシ其試驗ヲ拒ムルハ之ヲ執行スルマテ使用ヲ停止ス

- 第十二條 天災其他避クヘカラサル事故アルニアラスシテ落成期日ノ翌日ヨリ三ヶ月間ニ施設ヲ竣ラサル若クハ工事ノ落成後一ケ年間之ヲ使用セサルハ其允許ノ効ヲ失フモノトス
- 第十三條 天災其他避クヘカラサル事故アルニアラスシテ休拒スルハ允許ノ効ヲ失フモノトス
- 第十四條 第十二條第十三條ノ場合ニ於テ街路ニ係ル線柱其他ノ物件ハ失効ノ翌日ヨリ六十日間内ニ之ヲ撤去スヘシ廢業シタルハ亦同シ
- 第十五條 電力線又ハ電燈線ヲ撤去シ若クハ之ヲ現在ノ儘使用ノ目的ヲ以テ賣渡讓渡又ハ廢業轉居改氏名及社則規定社長技術長ノ變更アリタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

第二章 電線施設制限

- 第十六條 架線ノ最下線ハ地表ヲ距ル十六尺以上タルヘク又家屋側面ニ沿ヒ架設スルモノハ六尺以上各其家屋ヨリ離隔セシムヘシ但需用家へノ引込線ニシテ家屋トノ距離ハ此限ニアラス
- 第十七條 堤塘敷又ハ田野等ニシテ危險ノ虞ナシト認ムル場所ニ係ル電線ハ地表上ノ距離ヲ限リ前條ノ指定外ニ低下スルヲ許可スルコトアルヘシ但道路ニ係ル架線ト雖モ工事上已テ得サル場合ニ限リ特ニ本條ノ例ニ依ル
- 第十八條 電燈線電力線ト電信線報知線ト併行シテ架設スルハ及ヒ直通電流式白熱電燈線ト電話線ト併行シテ架設スルトキハ五尺以上離隔セシメ交番電流式ニ係ル線弧狀燈線又ハ電動機ニ送電スル電力線ト電話線ト併行架設スルハ十二尺以上離隔セシムヘシ但工事上已テ得サル場合ニ於テ電信線電話報知線管理者ノ承諾ヲ得タルトキニ限リ本條指定ノ距離ニ依ラス架線スルヲ得ヘシト雖モ三尺以内ニ接近セシムルヲ許サス
- 第十九條 電力線又ハ電燈線ト電信線電話線報知線ト交叉架設スルハ可成直角形ニシテ三尺以

上離隔セシメ交叉ノ部分ハ其線質及建設ニ注意シ其線ト電信線電話線若クハ報知線ト混觸ヲ惹起セサル様豫防ヲ爲スヘシ但電氣鐵道ノ電車線(トローリー線)ト電信線電話線報知線ト併行又ハ交叉シテ架設スルトキハ其線ノ墜落スルモ混觸セサル様適當ノ豫防法ヲ施スヘシ

第二十條 總テ高壓式(直通電流ニアリテハ三百ウオルト以上交番電流ニアリテハ二百ウオルト以上)ノ電力線又ハ電燈線ハ特ニ善良ナル絶縁物ヲ以テ被覆シタルモノヲ使用スヘシ但電氣鐵道ノ電車線(トローリー線)ハ此限ニアラス

第廿一條 電力線又ハ電燈線ノ電路ニハ全部地氣ヨリ能ク絶縁セル線條ヲ用井決シテ地盤瓦斯管其他ノ物件ヲ使用スヘカラス

第廿二條 凡ソ電氣鐵道用電力線ハ能ク地氣ヨリ絶縁セル往復線ヲ用井電信電話報知線等ニ障害ヲ與ヘサル様装置スヘシ但既設ノ電信線電話報知線及將來架設スヘキ公衆通信用ノ電信線電話線ニ妨害ヲ與フル虞ナキモノハ縣廳ヲ經テ通信省ノ認可ヲ得單線式ヲ用井ルコトヲ得

第廿三條 電氣鐵道(トローリー線)ニ使用スル電壓ハ五百「ボルト」以下タルヘシ但特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第廿四條 高壓交番電流線ヲ支持スル腕木ハ全部赤色ニ塗り高壓直通電流線ヲ支持スル腕木ハ其碍子ノ下凡ソ三寸ヲ赤色ニ塗ルヘシ

第廿五條 變換器及其附屬品ハ地上十六尺以上ノ所ニ於テ電柱ニ取付ヘシ但電柱ヲ建設スル能ハサル場合ニハ屋外ニ在テ水火ニ侵サレサル所ヲ擇ヒ且本業ニ從事スルモノ、外容易ニ人ノ之ニ觸ル、能ハサル様装置スヘシ

第廿六條 電力線又ハ電燈線ニハ適當ノ箇所ニ保安器ヲ裝置シ又電氣鐵道ノ電力線ニハ避雷ノ裝置ヲ施スヘシ

第廿七條 電氣鐵道ノ電車線(トローリー線)ハ極メテ強硬ナルモノヲ用ヒ其太サハ少クトモ硬銅線ナレハ徑二分七厘鋼線ナレハ一分七厘以上タルヘシ

第廿八條 電氣鐵道客車内ノ諸電氣機械電線等ハ乘客ノ容易ニ之ニ觸ル、コト能ハサル様施設スヘシ

第三章 就業制限

第二十九條 線路ニハ毎日試験ヲ爲シ完全ト認ルニアラサレハ送電スヘカラス

第三十條 事業者ハ電力線又ハ電燈線架設線路ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派出シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其旨現場出張ノ警察官ニ届出ヘシ但該官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ退場スルヲ得ス

第三十一條 出火場ニ出張ノ技術者又ハ工夫ハ晝間ハ小旗夜間ハ提灯ヲ携帯スヘシ但本條小旗提灯ノ製式及徽章ハ豫シメ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ届出許可ヲ受クヘシ

第三十二條 高壓式空架ノ電力線又ハ電燈線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ流電ヲ遮斷シ其遮斷區域内電線ノ各要所ニ縱二尺五寸横一尺五寸ノ白地ニ遮斷濟ト黒書シタル旗ヲ掲クヘシ

第三十三條 第九條第十條第十四條ニヨリ執行シタル費用及ヒ損害第十一條ノ器具見本試験費用ハ事業者ノ負擔トス

第四章 罰則

第三十四條 第二條第五條第九條第十條第十四條第十八條但書第廿一條第廿二條第廿四條第廿五條第廿六條第廿七條第廿八條第廿九條第卅條第卅一條第卅二條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六條第七條第八條第十五條第三十一條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則 自家用ノ爲メ發電機械ヲ据付ケ公道又ハ他人ノ所有地ヲ經テ電線ヲ施設スル者ハ本則第一條第六條第七條第十三條ヲ除ク外都テ之ヲ適用ス

第十九款 汽罐汽機取締規則

(六七)

○本縣令第廿九號 廿七年五月十五日
汽罐汽機取締規則左ノ通之ヲ定ム

汽罐汽機取締規則

- 第一條 汽罐並汽機ヲ設置スル者ハ其定着ニ係ルモノハ据付其可搬ニ係ルモノハ使用前願書ニ左ノ事項ヲ添付シ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ願出免許ヲ受クヘシ其増設變更ヲ爲ストキ亦同シ但此場合ニ於テハ其増設變更ニ關スル事項ノ外添付スルヲ要セス
- 一 設置場ノ地名番號並四隣ノ略圖
- 二 製造所工場及烟突ノ構造仕様書並其圖面(平面圖側面圖裁斷面圖)
- 三 工事落成期日
- 四 機械ノ名稱及其箇數
- 五 汽罐汽機使用ノ目的及使用時間
- 六 汽罐汽機取扱主任ノ履歷
- 七 汽罐構造調書

一 汽罐ノ種類及箇數 「コルニツシ」「ランカンヤ」
直立罐或ハ管成罐等ノ類

一 汽罐ノ寸法 罐胴長 何呎何吋 罐筒長 何呎何吋 火局長 何呎何吋 火管徑 何吋 何本等

一 罐板ノ種類及厚サ 並鉄B B印付又ハ
鋼鐵等ノ類厚サ何吋

一 支柱並鉄ノ種類寸法及距離 支柱鉄質種類何吋距離何吋 鉄
實列數何吋距離何吋等

一 水壓試驗及其試驗年月日 每平方吋上何磅
何年月何日

一 常用氣壓 上何磅

一 爐格ノ面積 巾何呎何吋長何呎
何吋何平方呎

一 安全瓣ノ種類箇數及寸法 天秤發條等徑
何吋何箇

一 製作所名及製作年月並其履歷 何ノ工場又ハ何人ノ製作何年月
何日何人ヨリ買取何年月修繕等

一 燃料ノ種類消費高 石炭又ハ松檜等ノ類一日何程
一月何程 二年何程區別

八汽機ノ構造調書

一 汽機ノ種類及箇數 凝縮又ハ不凝縮機
置又ハ直立等何箇

一 汽筒ノ寸法 徑何吋

一 衝程ノ寸法 長何呎

一 回轉ノ數 一分間何回

一 實馬力 何程

一 公稱馬力 何程

第二條 汽罐並汽機ヲ設置スル製造所及工場ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ其構造ノ材料並設計ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第三條 汽罐並汽機ノ設置場ハ公園學校病院其他必要ト認ムル場所ニ對シ適當ノ距離ヲ取ラシムヘシ

第四條 第一條ニ依リ設置セル汽罐並汽機ヲ買受又ハ讓受繼續使用スル者ハ双方連署ヲ以テ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ願出免許ヲ受クヘシ

第五條 第一條ノ免許ヲ得タル後其構造落成シタル所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ檢査證(汽罐汽機檢査證製
造所工場檢査證)ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第六條 第一條ノ免許ヲ得タル後正當ノ事由ナクシテ左ノ事項ノ一ニ觸ル、モノハ其免許ノ失効

(七七)

ヲ命スヘシ
 一 免許ヲ得タル日ヨリ六十日以内ニ建設ニ着手セサルトキ
 二 落成期日ヲ經過シ尙ホ落成セサルトキ
 三 燒失若クハ崩壞ニ係リ六箇月以内ニ再築ヲ願出サルトキ
 四 休業六箇月以上ニ及ヒタルトキ
 第七條 検査證面ニ異動ヲ生シ又ハ検査證ヲ遺失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但汽罐汽機ノ使用ヲ廢止シタルトキハ検査證ヲ返納スヘシ
 前項廢止ノ場合ニ於テ持主死亡シタルハ相續人ヨリ検査證返納ノ手續ヲナスヘシ
 第八條 汽罐並汽機ハ検査證ニ表示ノ期限及常用汽壓ヲ超過シ使用スルコトヲ得ス
 第九條 汽罐並汽機ニ異狀ヲ生シタルトキハ其使用ヲ中止シ速カニ其原因摸樣ヲ詳記シ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ届出スヘシ但此場合ニ於テハ検査ヲ受クルニアラサレハ使用ヲ繼續スルコトヲ得ス
 第十條 汽罐汽機並製造所若クハ工場建物ノ毀損ニ係リ又ハ煤烟騒響其他ノ發生物ニ依リ危險若クハ妨害ノ虞アリト認ムルトキハ除害ノ裝置ヲ命シ若クハ其使用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
 第十一條 汽罐並汽機ノ検査ハ定期臨時ノ二種ニ分チ定期検査ハ使用期限滿期ノ際ニ於テ之ヲ行ヒ臨時検査ハ必要ト認ムルハ於テ之ヲ行フ但定期検査ノ期日ハ豫メ通知スヘシ
 第十二條 汽罐並汽機ノ検査ハ其要部ヲ點檢シ必要ト認ムルトキハ検査員ノ目前ニ於テ水壓試驗又ハ罐板孔穿検査ヲ施行セシムルコトアルヘシ
 第十三條 検査ニ依リ汽罐並汽機ノ使用ニ堪ヘサルヲ認メタルトキハ其検査證ヲ返納セシム
 第十四條 定期検査ノ通知ヲ受ケタルハ汽鋼ノ貯水ヲ排出シ人孔泥孔及爐格並火橋ヲ取外シ罐体ヲ冷却セシメ汽筒ノ蓋ヲ取拂ヒ烟突其他検査ニ必要ノ部分ヲ酒掃シ受檢ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十五條 検査ノキハ製造所工場ノ持主及汽罐汽機取扱主任ハ検査ニ立會フヘシ
 第十六條 第十四條ノ準備ヲ怠リ若クハ事故ニ託シ検査ヲ拒ミタルモノハ汽罐並汽機ノ使用ヲ停止スルコトアルヘシ
 第十七條 當廳ハ警察官吏ヲ派遣シ製造所工場ノ視察ヲ爲サシムルコトアルヘシ
 第十八條 本則第一條第四條第五條第七條第八條第九條第十四條第十五條第十六條ノ停止ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十五條第五項ニ依リ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

從來汽罐汽機ヲ設置シ居ル者ハ明治廿七年七月三十一日迄ニ本則第一條ノ事項ヲ取調ヘ所轄警察署ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ
 ○本縣令第三十號 廿七年五月十五日
 明治二十七年^五本縣令第廿九號汽罐汽機取締規則中第五條第七條第八條^及以下^ナ第十一條^{臨時検査}第十^三條第十四條第十六條^{若クハ以下}及其罰則ハ當分ノ内十馬力以下ノ汽罐汽機ニ施行セス
 ○保收第三七九八職 二十七年九月十七日
 輓近工業ノ發達ニ伴ヒ蒸汽汽罐ヲ使用スル製造所工場漸々増加シ爲メニ往々破烈又ハ損壞等ノ虞有之候條今後万一右等ノ危害有之候節ハ左記條項ニ準シ其都度詳細取調速ニ報告セラルヘシ
 右訓示ス
 陸上瀛罐破烈(又ハ損壞)ノ狀況

一 汽罐ノ所在
 二 所有者
 三 同 製作年月、製作地、及製作者

(〇八)

四同 修繕ノ有無若シ有リトモハ其年月、汽罐ノ部分並ニ修繕地
五同 使用ノ目的
六同 明細書

(一) 汽罐ノ種類

(二) 同 構造

(三) 同 罐体ノ寸法

(イ) 罐及火筒ノ直徑

(ロ) 罐ノ長

(ハ) 金屬板ノ厚

(ニ) 管 罐板、鏡板、管板、火筒

(ホ) 接合 長、直徑、個數

(六) 周圍、縱

(七) 鉸鉸ノ直徑並ニ二鉸鉸中心ノ距離

(四) 支柱ノ種類、構造、寸法

(五) 安全弁ノ種類、口徑並重量、桿ノ寸法(又ハ發條ノ壓力量)

(六) 汽罐ヲ製作セル材料ノ種類

(七) 常用並ニ最高ノ壓力

(八) 燃料ノ種類

(九) 焙格ノ面積

(十) 掘付ノ裝置

(十一) 給水器ノ種類及個數

破裂(又ハ損壞)ノ原因ト認ムヘキ事項並ニ其以前ニ於ケル汽罐ノ異狀

破裂(又ハ損壞)後汽罐ノ形狀並其圖面

慘害ノ狀況詳細

汽罐取扱人(危害ノ當時)ノ履歷概略

第五章 贋造貨幣

第一欸 贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

〇布告第五十七號 九年四月十九日

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布達候事

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋ネ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄 警察出張所 或ハ「屯所」或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申立ヘシ若シ官廳ニ關スルハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ但持主立會ハサル時ハ必代理人ヲ出サシムルヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ヲ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

(一八)

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人へ還付ス
第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

第二款 贋造並ニ貨幣ニ關スル雜件

○大藏第四十號

九年五月八日

府

縣

太政官第五十七號公布新金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條ニ掲載ノ通り鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ其同等ノ品ト引換相渡其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳へ引換ヲ乞ハ、該廳ニ於テハ損傷札交換規則ニ照準豫備金ヨリ繰替引換遣シ退テ右改人ヨリ差出セシ書面へ現札ヲ添「紙幣寮」へ交換申出ヘシ尤交換手数料ハ別段下與不致義ニ付他損傷札ノ交換ト決テ不混様區別可致候此旨相達候事

但紙幣ノ數位ヲ描改シ五圓ヲ拾圓ニ拾錢ヲ貳拾錢ニ變換セシ類ハ假令正札ト雖モ價摸ノモノニ付右ハ贋札ヲ以テ處分可致候

○大藏第十二號

九年五月十八日

本年四月太政官第五十七號公布贋造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新紙幣ノ儀ハ百圓ト五十圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト貳拾錢拾錢何レモ堅横ノ寸法同様ニ付數字ヲ描改シ五圓札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々有之右ハ素ヨリ膠製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ暨ヒ描改ノ證ヲ所持人へ明示シ其儘「警察出張所」等へ差出同所ニ於テハ右幣ノ原因其外取札處分相濟候ハ、引揚切ニ取計「紙幣寮」へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

百圓札

裏面淡紅地ニ紋色深紅

五拾圓札

同淡青地ニ同深青

拾圓札

同淡紅地ニ同紫

五圓札

同淡黑地ニ同青

貳圓札

同橙黃地ニ同茶褐色

壹圓札

同淡青地ニ同深青

半圓札

同白地ニ同淡褐色

貳拾錢札

同白地ニ同青

拾錢札

同白地ニ同綠

○大藏第四十九號

九年五月廿九日

府

縣

本年第五十七號ヲ以御頒布相成候贋造金銀取扱規則中第一條但書ノ趣有之候ニ付テハ當省并各地「出納寮出張所」共假納金ノ内納先府縣ノ官員護送有之分ハ該員立會處分可致筭勿論ニ候へ其内國通運會社便等ヲ以テ遞送ノ分ハ別ニ立會可致者無之候間右ノ分ニ限リ納先官員立會ヲ要セス該所ノ官員而已立會斷截取計其品糊封ノ印紙等相添納先ノ府縣廳へ通達可致且不足金有之節モ右同様取計可致候條此旨相達候事

○大藏第六十八號

九年七月廿六日

府

縣

本年第五十七號ヲ以テ公布相成候贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條鑒定ヲ誤リ斷截シタル正貨幣ノ義ハ昨八年當省乙第三十號達流通不便ノ金銀貨幣交換手續書ニ舉リ金貨并貿易銀貨ハ第七條ニ準シ五十錢以下ノ銀貨并銅貨ハ第九條ニ準シ鑒定者ニ限リ交換可取計尤右交換セシ各貨幣ハ同書第十條第十一條ノ通り處分可致此旨相達候事

但各廳ニ於テ鑒定方申付置候銀行又ハ爲換方ノ者誤鑒斷截致シ候節ハ一時他ノ鑒定人雇入レ令秤量候ハ勿論候得トモ萬一他ニ可雇入者無之節ハ各廳ニ於テ直ニ秤量致シ成規ノ通り手数料取立毎年五月限リ明細書相添當省へ上納可致候事

○大藏第二十八號

十九年九月二日

北海道廳

府

縣

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ贋造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年四月第五十七號布告贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年五月當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ
但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店へ引換ヲ請フヘシ

○大藏省第四十號

十四年十一月五日

府 縣

銀行紙幣製造札描改札處分方之儀ハ明治九年(四月)第五十七號布告及ヒ同年(五月)當省中第十二號布達同年(五月)當省乙第四十號達ニ準據候儀勿論ニ候得共右處分方結了ノ上ハ該札相添銀行局へ可届出儀ト可相心得且又右第五十七號布告規則第二條等ニ據リ引換フベキ正紙幣ヲ改人ヨリ差出候トキハ其接近ノ地ニ設立スル國立銀行本支店(其紙幣ヲ發行セシ銀行ニアラサルモ)へ下付シテ交換セシメ代リ金ハ該銀行ヨリ直チニ其改人へ交付可爲致此旨相達候事
北海通廳 府縣

○大藏省訓令第四十二號

十九年九月二日

北海通廳 府縣

當省令第二十八號製造及描改ニ係ル兌換銀行券取扱方ノ儀ハ尙ホ明治十四年(十一月)當省乙第四十號達ニ準據スヘシ
大藏省令第三號 廿三年二月廿六日

流通不便ノ金銀銅貨ハ本年四月一日以後當省金庫局及ヒ同局大阪出張所ニ於テ左ノ區別ヲ以テ交換スヘシ但手數料ハ徵セス

一量目減少セル者現存價格

○大藏省訓令第十七號

廿三年二月廿六日

明治九年五月甲第十二號當省布達ニ掲クル變造紙幣ノ類來ル四月一日以降ハ當省記錄局へ送納スヘシ

第二款 澁入紙製造取締規則

澁入紙製造取締規則

○朕澁入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第三十六號 二十年七月二十三日

澁入紙製造取締規則

第一條 文字畫紋ヲ澁入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添へ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出

ベシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條 紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ澁入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○本縣令甲第五十三號 廿五年八月三十一日

通用紙幣ニ擬シタル印刷物ヲ製造若クハ賣買授受又ハ所持スルコトヲ禁ス犯ス者ハ一日以上十日以下又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六章 徽章及御肖像

第一款 菊ノ御紋禁止

○布告 四年六月十七日

菊御紋禁止ノ儀ハ衆テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事但シ從來諸社ノ社頭ニ於テ相用來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

○本縣布第五拾號 十二年六月十七日

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月公布趣モ候處右公布前神殿佛堂ニ粧飾シタル分ニ限リ其儘存シ置苦シカラサル段更ニ容月廿二日付ヲ以テ公達有之候條此旨社寺へ布達候事

○本縣布第廿四號 十三年四月廿一日

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀并ニ紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日明治四年六月十七日太政官御布告之趣モ之有候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向モ有之哉ニ相聞へ不都合ニ候條心得違無之樣可致此旨布達候事

第二款 御寫眞竝御肖像販賣取締

○訓示保第一一五七號

廿五年十二月廿七日

聖上

皇太后宮

皇后宮御肖像販賣ノ義默許ニ附セラレ候ニ付テハ販賣者ニ於テ取扱上自然不敬ニ涉ル等ノ所爲無之様左ノ取締心得書ニ準據シ其向營業者ニ厚ク相示シ苟モ不敬ノ所爲ナキ様取締方注意セラレヘシ

御肖像販賣取締心得

一聖上

皇太后宮

皇后宮

東宮御肖像ト認ムヘキ寫眞畫銅石版畫水畫油畫木版錦繪等ハ其尊號ヲ標記シアルト否トヲ問ハス總テ御肖像ト見做ハスヘシ
一御肖像ハ不敬ニ涉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列セシムヘカラス
一御肖像ハ露店ニ於テ販賣セシムヘカラス
一扇子團扇陶器織物染物其他引札類及玩具品等ニハ御肖像ヲ畫カシムヘカラス

第七章 遺失物及埋藏物

第一款 遺失物取扱規則

○布告第五十六號

九年四月十九日

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

- 第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス
- 第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルベシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス
- 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様負數并ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ベシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
- 第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スベシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム
- 第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之レヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム
- 第六條 官私ノ地內ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之レヲ官ニ送ルベシ其主分明ナラサルモノハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タルトキハ之ヲ地主ト中分セシム(十四年第二號布告)
- 第七條 凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヲ第二條ノ如シ
- 第八條 凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヲ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス
- 第九條 凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ若シ八日內其主ナケレ

ハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第十條 凡遺失物及ヒ逃走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルコト私物ニ異ナルコトナシ

第十一條 凡警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送り全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條 凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡公私債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フベシ

第十四條 凡遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ證明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並律ニ照シテ處分ス

第二款 遺失物取扱細則

○縣本課第六十二號

十五年九月六日

警察本署 署 分署

遺失物取扱細則別冊ノ通相定候條爾後右ニ照準可取扱此旨相達候事

(別冊)

遺失物取扱細則

第一條 遺失物ヲ拾ヒ得タル届ケアリタル時ハ第一號書式ニ準ヒ得遺失物届元帳ニ記載シ第二號ノ式ニ從ヒ受領證ヲ製シ元帳ト制印ヲナシ届人ニ付與ス可シ

第二條 遺失者及ヒ拾得者口述ヲ以テ届出タル時ハ第三號書式ニ準ヒ届書ヲ作り本人ニ讀聞セ署名捺印セシムベシ若シ署名スル能ハサルハ此旨ヲ付記シ姓名ヲ代署シテ捺印セシム可シ

第三條 遺失物届及ヒ拾得物届ハ別ニ綴録ヲ設ケ其時々綴入シ物品ニハ木札ヲ付ケ金錢ハ糊封シ

記載方并封印等ハ第四號ノ式ニ從元帳ト拾得物届書等同一ノ番號ヲ記載シ後日錯亂ナキヲ要ス

第四條 遺失主ノ分明セシキハ其主并拾得者ニ口達シ物品ヲ付與シ物主ヨリハ第五號ノ式ニ準ヒ受取證ヲ徴シ拾得者ヨリハ最前付與シタル受取證ヲ返付セシムベシ

第五條 物品ヲ遺失主ニ還付スルカ拾得者ニ給與スルカ若クハ官沒シタルキハ元帳并拾得届ニ物主ノ住所氏名ヲ記シ其他事由ト年月日ヲ朱記シテ取扱人ト共ニ署長認印スヘシ

第六條 拾得物ノ内長大ニシテ領置ニ不便ナルカ又ハ破損シ易キ物カ若クハ耐久シ難キ物品ニシテ其主分明ナラサル者ハ公賣シテ其代價ヲ官ニ領置ス可シ此場合ニ於テハ元帳ニ其事由ヲ詳記ス可シ但便宜ニ依リ拾得者ニ保管セシム受書ヲ徴スルコトアルベシ

第七條 官廳内ノ遺失物ハ何人ノ拾得スルヲ問ハス一年內ニ物主アルハ之ヲ還付シ物主ナキハ官沒ス可シ

第八條 官ノ徽章アル物品ヲ拾得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ處分スト雖モ一年內物主ナク之ヲ得者ニ給スルキハ其徽章ヲ除去スヘシ

第九條 私印ヲ拾ヒ得ル者ハ前條ト全シク處分スト雖モ之ヲ得者ニ給スルキハ其印面ヲ磨滅シテ給付スヘシ

第十條 官廳ノ文書又ハ郵便物ハ之ヲ其官廳又ハ郵便局ニ交付シ其費ヲ拂ハシムヘシ

第十一條 飲食店又ハ湯屋等ニ於テ他客ノ物品ト換易シ若クハ止宿人旅籠賃ヲ拂ハス逃走シタル跡ニ殘シ置タル物品一年間物主不分明ナルキハ其被換者又ハ店主ニ全給スヘシ

第十二條 山野祠堂其他明屋等ニ於テ拾得タル物品ニシテ盜贓品ニ疑ハシキモノト雖モ一年間物主知レサレハ得者ニ全給ス可シ

第十三條 盜賊逃ケ去リシ跡ニ拾置タル物品ハ其賊捕ニ就カス一年間物主知レサレハ亦前條ト全シ

第十四條 既決囚外役中遺失物及ヒ埋藏物ヲ得タル時ハ一般人民ト同ク處分スヘシ但給與スヘキ

(〇九)

物品及ヒ報勞金等ハ滿期放免ノ時下付スヘキヲ以テ之ヲ監獄署ニ交付シ受領證ヲ置クヘシ
 第十五條 逸走ノ家畜類ハ繫留届出タル日ヨリ八日內ニ其主知レサレハ公賣シ其代價ヲ以テ得者
 ニ費用ヲ償ヒ剩餘アレハ官ニ領置シ處分ヲナス等渾テ本則ノ例ニ據ルヘシ
 第十六條 拾得者他管ニ轉籍セントスルカ又ハ一時他管ヨリ寄留若クハ滯留中ノモノニ歸國セ
 ントスル等ノ節ハ後日處分ノ爲メ代人ヲ立テ届置カシムベシ
 第十七條 滿期處分ノ際ニ於テ失踪又ハ死亡スル時ハ其相續人若クハ其親族ニ給與ス可シ若シ是
 等ノ者ナキ時ハ官沒スベシ
 第十八條 拾得ノ物品盜賊ニ係ルカ又ハ應禁物ナルモノハ得者ニ給スルノ限リニアラス
 第十九條 第二號ノ證書火災盜難又ハ遺失紛失等ニテ書換ヲ乞フ時ハ其事由ヲ取調相違ナキニ於
 テハ元帳ニ其事由ヲ記載シ更ニ書換割印ノ上付與ス可シ
 第二十條 官沒セシ物品ハ六月十二月ノ兩度ニ公賣シ明細書ヲ添ヘ該金員ヲ警察本署ニ送致ス可
 シ但第二號裏面第八條ニヨリ物品ヲ官沒セントスルハ尙豫メ日數ヲ計リ何日迄ニ出頭セサル
 ニ於テハ請取證裏面ノ通處分ス可キ旨郵便ヲ以テ相達スヘシ
 十五年十二月本課九
 十一號以テ但書ヲ加
 第一號式 (一枚或ハ半枚ニ一人ノ届ヲ記載スヘシ)
 得遺失物届元帳 (用紙小判紙)
 受領證割印 (一)内ハ總テ記載例

署長 (印形)	番	拾	住所氏名 〔大分縣大分郡大分町五番地 當時全縣南海部郡佐伯町九番地寄留〕	質	個數	品	目	素	質	個數
	(二八)	主								
水牛角製ニ損ノ字ヲ彫 ル										
署長 (印形)										

(一九)

署長 (印形)	番	拾	住所氏名 〔南海部郡佐伯町十番 地先公道〕	質	個數	品	目	素	質	個數
	(金參圓)	主								
日本銀行兌換銀券壹圓第二 號七三六三三七三(壹枚) 明治廿年發行壹圓銀貨貳枚										
署長 (印形)										

年	月	日	時	場	所	事	由	タル年月日	タル時ヨリ滿
明治廿二年	十月	十五		南海部郡佐伯町十番	地先公道	通行ノ際		明治二十二年 十月十五日	明治二十三年 九月

〇(右金品一年間其主不分明ニ付御給與相成正ニ受取候其證トシテ左ニ署名捺印候也)〇主任印
 (明治廿三年十月一日)
 或ハ
 〇(右金品遺失ノ旨明治廿二年十二月五日届置候處何縣何國何郡何町何番地何某拾得候趣ヲ以テ御下渡相成正ニ受取候其報酬ハ相對示談(仕候)(可仕候)右證トシテ左ニ連署捺印候也)〇
 (拾山德助)實印

理

○

(明治廿二年十二月廿五日)

(大分縣南海部郡佐伯町十五番地)

受取人 (捨田 損藏) 實印

拾主 (助岡 恩平) 實印

或ハ

(右品金一年間其主不分明ニ付何村駐在巡查何某ヲシテ拾主何某ニ給與セシム其領收證ハ何々綴(簿書名)ニ編綴ス)

(明治廿二年十一月廿五日)

主任 官職 氏 名印

第二號式
第何號 受領證

一何々
一何々
一金何圓何拾錢

何縣何郡何(町村)何身分
署長印 氏 名
○何箇
○同

拾得者心得
第一條 物品ヲ拾ヒ得タル者ハ最寄警察署又ハ分署へ其品相添届出テ此受領證ヲ受取ル可シ但時宜ニ依リ口頭ヲ以テ届出ルモ妨ケナシ
第二條 表書ノ物品一年內ニ其主ナキハ得者ニ給ス因テ得者ハ其拾ヒ得タル日ヨリ一ケ年ヲ經

過スル後三十日以内ニ當署へ此證書ヲ差出シ物品ヲ受取ヘシ
第三條 一ケ年內物主アレハ全還スベシト雖モ得者ハ報勞金カラスニテヨリ多ク并費用ヲ受取ルヲ得ル
第四條 逸走家畜ノ類ハ第一條ニ準ヒ手續ヲ爲スヘシ八日內ニ其主ナケレハ公賣シ拾得者ニ費用ヲ償ヒ尙代金剩餘アレハ官ニ領置シ處分スル第二條ノ如シ
第五條 拾ヒ得タル物品盜賊ニ係ルカ應禁物ナルハ本例ノ限リニアラス
第六條 滿期處分ニ際シ得者失踪又ハ死亡スルハ其相續人又ハ親族或ハ代人ニ給與ス依之他管ニ轄籍スルカ若クハ他管ノ者ニテ歸國スル等ノ節ハ代人ヲ立テ届ケ置クヘシ
第七條 此證書ヲ火災盜難遺失紛失等セシトキハ速ニ最前證書ヲ受取タル所ニ届出テ書換ヲ乞フヘシ
第八條 第二條第六條第七條ノ規則ヲ遵守セサル者ハ該物品ハ官沒スヘシ

第三號式
〔得〕遺失物届

一何々 何箇
一何々 何箇
ノ何品 何箇

右ハ何年何月何日何時頃何郡何町何字何ニ於テ拾ヒ得候ニ付右品此段御届申上候也
右相違無之ニ付署名捺印候也

年月日

何縣何郡何(町村)身分
拾得人 氏 名印
右取調人 官 氏 名印

(四九)

第四號式

木札葉	何品	第何號	全上裏
明治何年何月何日 何縣何郡何町村身分 拾得者 氏 名			

封物表

金何圓也	第何號
------	-----

裏同右

記載方木札ノ裏ニ全シ

第五號式

遺失物受取證

何個

一何々

何個

右ハ何年何月何日遺失ノ儀御届申上置候處何縣何郡何(町村)何某拾得シタル趣御口達ニ付御成規ニ依リ金何程報勞ヲ與へ前記ノ何品御還付正ニ請取候也

年月日

何縣何郡何(町村)身分
 氏 名 印

警察署又ハ分署宛

第三款 賊ノ捨置品處分方

○内番外

十二年三月十四日

警視本署 府縣(東京府)

從來盜賊捨置品等處分方區々相成候處自今別項ニ準シ處分スへシ爲心得此旨相達候事
 但從前指令致シ置候内本文ト抵觸スル分ハ取消候事

- 一 賊ノ捨置品ニシテ一年間事主ナキ者ハ得者ニ給付スへシ
- 一 止宿人旅籠賃ヲ拂ハス逃去タル跡ニ殘シ置ク物品及ヒ湯屋等ニテ換易セラレタル品ニシテ一年間事主知レサル者ハ店主並被還者ニ給付スへシ

第四款 遺失物並埋藏物品取扱ニ關スル雜件

○内甲第二十號

十年九月廿七日

(五九)

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省へ届出検査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘人へ下付シ該物品ハ永ク博物館へ陳列可致候條此旨相達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及摸寫スルモノヲ郵送シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文ノ通り可取計候事

○宮内省達第十三號

十九年十月廿七日

北海道廳 府縣

明治十年九月内務省甲二十號達ノ件ハ自今當省へ届出ツヘシ

警察署、分署

○警第二九八號

二十二年二月廿八日

得遺失物金拾錢以上又ハ拾錢以上ノ價格アル物件ト認ムル片ハ最寄警察署分署互ニ通報シ其通報ヲ受ケタル片ハ直ニ揭示スヘシ

明治二十六年六月二十一日遞信省郵務局長ヨリ通牒

○郵計甲第一六〇四七號

官沒郵便切手葉書類焼却ノ分ハ其都度當省へ届出相成居候處今般北海道廳へ別紙ノ通り被相達候條自今右届出ニ及ハサル儀ト御了知相成度此段及御通牒候也

(別紙)郵發第三五〇九號

官沒ニ係ル郵便切手葉書類焼却ノ員數ハ當省へ可届出旨明治二十四年八月中及指令置候處自今右届出ニ及ハス

(參照)拾得郵便切手處分ノ件(北海道廳ヨリ)同

(二十四年六月三十日)

警察官吏拾得品ノ儀ハ遺失物取扱規則ニヨリ沒收取計期滿失効ノ後賣却代金ハ租稅外歲入ニ納付スヘキ順序ニ有之候處前ニ該官吏拾得ニ係ル郵便切手及葉書類滿失効官沒セルモノ有之右ハ普通不用物品ト異リ直ニ賣却取計難候ニ付該品處分ノ儀ハ如何取扱可然ヤ

遞信省回答

(同日)

不取締無之様燒却ノ上其員數等當省へ可届出儀ト相心得ヘシ

○警第九二七號

廿二年六月十七日

駐在巡查取次事件取扱手續第五條ニ拾得物件送付期限規定有之候處遺失物取扱規則第六條ニ規定

アル公賣ノ處分ハ便宜駐在巡查ニ委任シテ取扱ハシムルヲ得

○保第一二三〇號

廿四年十二月廿一日

市町村役場公立學校私設鐵道構内社寺ノ殿堂劇場内等ニ係ル遺失物ニシテ一ケ年内物主知レサル者處分方ニ付廣島縣伺ニ對シ役場内ニ係ルハ該市町村學校内ニ係ルハ學校所屬ノ市町村鐵道構内ニ係ルハ該鐵道會社等殿堂ニ係ルハ該社寺劇場内ニ係ルハ該場持主ニ給スヘキ義ト心得ヘキ旨指令相成候趣内務書記官ヨリ通牒アリタリ

第八章 難破船及漂流物

第一款 内國船難破及漂流物取扱規則

○第六十六號

八年四月廿四日

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管轄ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置ヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報知シ且ツ浦役人ヨリ指圖無之ニ速カニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ但シ救助ノ者困難船

ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移スベカラス

第四條 浦役人難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速ニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡スヘシ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船見受候節ハ板木半鐘等打鳴シ人數ヲ呼聚メ且近隣

ノ船持ニ申付助船ヲ出サシムヘシ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ

於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシムベシ

第六條 保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ケヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信便郵其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣スヘシ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其十分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但シ其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現品ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲ニ出シタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル證據顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡スヘカラス

第十條 保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入り水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ヒニ爲スヲ得ヘシ但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書并ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クベシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタル片ハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一 保安料

第三 保安物ノ爲メニ取設ケタル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂高金諸費ノ高ヨリ少ナキ片ハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキ片ハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内「民費」トナスヘシ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲ニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管轄其外等へ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スル時治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ證書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ退テ本人ヨリ償却セシム可シ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ船體皆破沈没乗組人ノ死去及積荷ノ大損害ヲ生シ荷主立會決算ヲ要スル等ノモノ現場ノ救助方ヲ除クノ外各般ノ處置ハ其管轄ニ申立テ其筋出張官吏ノ差圖ヲ受クベシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲メ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シテ管轄へ差出スヘシ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲ニ盡力シテ死傷ニ至ル者アル片ハ必

- ス管廳へ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ
- 第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書二通ヲ作り之レニ連署押印シ其一通ヲ船長へ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置ク可シ
- 第十八條 二名以上ノ浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出ス可シ
- 第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ル可ク速ニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ但シ精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ
- 第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ件無之キハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫ス可シ但シ「民費」ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人へ下渡ス可シ
- 第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦證文ヲ願出ル時二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アルモノハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦證文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ニ届出ヘシ但シ浦證文中左ノケ條ヲ載スヘシ
 - 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
 - 第二 破損ノケ所
 - 第三 打荷ノ種類箇數并他ノ積荷ノ種類
 - 第四 船號及ヒ免狀ノ番號并船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
 - 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫
 - 第六 仕出シ地及仕向地ノ港名
 - 第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫苗字名年齢
- 第二十二條 軍艦其他ノ官有其困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力シテ救助スヘシ且其難破ノ大

- 小ニ拘ラス其旨ヲ直ニ管廳へ報知スヘシ
- 第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直ニ受取ルヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フヘシ
- 第二十四條 買米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳へ申立ノ上其指揮ヲ受クヘシ但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所へ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ
- 第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラス拾錢ヨリ少ナカラサルモノトス
- 難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ
- 第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシム可シ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人力ノ豫防ス可カラサルニ出ルコトヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス
- 第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没ト偽リ竊カニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分スヘシ
- 第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船具其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ共ニ竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ隱匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ
- 以下漂着ノ部
- 第二十九條 凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ニ届出可シ
- 第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇

敷等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船改所へ六十日間張出ス可シ尤漂着物ノ代價貳拾圓以上ト思量シ或ハ貳拾圓以下タリト必要ノ品柄ト思量スル時ハ其管廳ヨリ三府

五港ノ管廳及ヒ税關へ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告スヘシ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分ノ一ヲ取揚主ニ與へ其現品ハ持主ニ返還スル事但持主ノ

情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代價ニテ受取ルコトヲ得ヘシ
第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與へ一半ハ官ニ收ムル事

但三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻スベシ
第三十二條 乘組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置スベシ
第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與へ其船ハ持主ニ返還スル事但書ハ前條

第一項ニ同シ
第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與へ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル

事但書ハ前條第二項ニ同シ
第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ(律例得遺失物ノ條)ト牴觸スルコトナカルヘシ

第三十四條 凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役

人ノ奥印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ
第三十五條 洋中ニ於テ難破致シ桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨ

リ一通リ取調へ相當ノ保護ヲ加へ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其

他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通り退テ本人ヨリ償却セシム可シ
第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之

ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ
第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第廿九條以下ニ照準シ其代價十分ノ

一ニ過サル取揚料ヲ遣スベシ
第三十八條 前條ノ場合ニ於テ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナルモノハ官之ヲ公賣シ其代

第二款 不開港場規則難船救助心得

布告 三年二月廿九日

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻ノ通被仰出候間此旨相達事

(別紙)

外國貿易ノ義ハ神奈川港ヲ初メ大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣共右場所オ
イテ取引可致處不開港場オイテ密商イタシ候哉ノ趣相聞以ノ外ノ事ニ候右ニ付テハ先達テ御布令
ノ趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々オイテ厚可相心得筋ニハ候得共津々浦々
邊鄙ノ場所ニ至候テハ取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助ノ筋ト入混シ難船人へ對シ不親切
ノ取扱致候テハ御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以テ今般猶又廉々別紙ノ通心得方被仰出候依テハ府
藩縣オイテ取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ假令其事不仕遂候共當人並
其支配タル者マテ急度御答可被仰付候尤吟味ノ上其土地管領ノモノ同意致シ居候歟又ハ乍心得見
通シ候義相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可之有候ニ付向々オイテ取締ノ儀猶一層行届候様可致候事
一外國人ノ義自己相對ヲ以テ雇入候義不相成趣ハ兼テ御布令ノ通ニ候へ共諸學科又ハ國地開發
或ハ西洋形ノ船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニヨリ御聞届可相成候最御印章所持ノ外國人ハ何
筋々ヨリ書面ヲ以テ東京外務省へ可願出其上御印章御渡可相成候最御印章所持ノ外國人ハ何
レノ向ニテモ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤モ諸場所ニテ右御
印章相改可申萬一右御印章所持不致外國人有之節ハ御許容不相成私ニ雇入候筋ニ付内地通行
不相成義ハ勿論竊ニ隠シ置相顯ルニ於テハ急度御沙汰ノ品モ可有之間心得違無之様可致事

不開港場取締心得方規則

- 一 何レノ濱邊又ハ港浦ヲイテ西洋形ノ船入津候ハ、時刻ヲ移サズ直様湊役人役人不居合場所ハ付其長ノ内ヨリ可罷出事船へ乗組入津ノ趣意可相尋事但言語不通ニテ十分難相分義モ可有之候へ共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候義甚少ク候間其大意丈ケ和語手真似ニテ相分可申事
- 一 尋問ノ上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津ノ義ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟箱館迄ノ里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々タリトモ前文開港場ノ内へ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハ、無餘義事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當ノ分丈渡遣シ代金可受取事但金高品數ハ勿論船ノ碇泊日數刻限等委細相認届出可申事
- 一 其船ノ國名船名船主ノ名書付ニテ承リ糺スヘキ事但船名ハ多ク船ノ體ニ横文字ノ摺書ニテ認有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事
- 一 船ニ引上ケ有之國旗并船主ノ旗等總テ目印ニ可相成モノハ其雜形寫取可差出事
- 一 關乏ノ品相渡候上出帆遲々致シ候様子ニ候ハ、早々出帆候樣催促可致事
- 一 御免許ノ上海岸測量ノタメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ洲有之場處等差示可遣尤御免許ノ船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事
- 一 軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共極メテ船形大小トモ取糺相届可申事
- 一 軍艦ニ候ハ、大砲ノ備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニテモ相知レ可申軍艦ハ別テ何事モ禮義ヲ正シ不敬ノ取扱イタサ、ル様可心掛候事
- 一 薪水食料等船中必要ノ品ノ外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷ヒ賣渡候者有之後日相顯ハル、ニオイテハ吟味ノ上屹度御答可有之事
- 一 船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡段申立候トモ買求候義是又一切不相成萬一竊ニ取引イタシ候節ハ前同様御答可有之事

- 一 濱邊ニ近キ村里ノモノ共其濱邊ノモノ共内々外國人ト荷物ノ取引致シ候様子ニ候ハ、其支配カ又ハ開港場へ可申立時誼ニヨリ御賞可有之事
- 一 難船ニ無之食料關乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定テ其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速ニ探索ノ上彌密商致シ候ニ相違無之候ハ、雙方トモサシ押へ外國人ハ引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當ノ仕置ニ致シ早々申立差圖可受尤モ横文字ノ書付類後日ノ證據ニ可相成品ハ始末致シ可置事但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テント致シ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコトルラルニテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様ノ企致シ候モノ於有之ハ兼テ御布告ノ通其品取上過料トシテ金千兩御取上ノ事
- 一 御國人買求候西洋形商船ニ外國人乗組居萬一商買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乗組御國人手引ニテ商賣致シ候様ニ相見候ハ、篤ト様子ヲ探索致シ嚴敷拒絕可致萬一仕遂候跡ニ候ハ、其事實穿鑿ノ上早々其筋へ可申立事但本文西洋形商船ニ不限御國通例ノ地乘船ニテ西洋人乗組居候節モ同様ノ事
- 一 外國船ヲ御國人トモ借受開港場ヨリ開港場へ荷物運搬ノ義ハ願ノ上御聞届可相成筋ニ候へ共不開港場へハ決シテ御聞届無之義ニ付萬一不良ノ徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付買致シ度杯ト申唱へ候トモ一切差許申問敷事但地方饑饉等ニテ不得止事外國船相雇不開港場へ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其筋ハ府藩縣ノ知事ヨリ其沙汰可有之且乗組人ノ内開港場ノ役人爲取締立會居候筈ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事
- 一 港へ碇泊致サス沖繫リ又ハ其近海ニ於テ雙方ノ船出會致密商候様子ニ候ハ、是又早々穿鑿可致事
- 一 不開港場へ外國船碇泊致シ薪水食料ノ賣渡候義ニテ聊心障リノ事無之トモ其都度相届可申事

難船救助ノ事

- 一難船ニテ困苦ノ体ニ相違無之節ハ其困苦ノ輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助致シ可遣事但船ニ乘組居リカタキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院ナリ民家ナリ可然場へ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事
- 一船ノ修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可遣事
- 一乘組人ノ内溺死ノ屍有之歟或ハ滞留中病死ノ者埋葬ノ義申立候ハ、墓所ノ内都合ヨキ場所へ埋葬可爲致事
- 一洋中ヲイテ大船破損シ乘組外國人ノ内猶船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又ハ其土地支配ノ者へ引渡其支配ノ者受取海陸便宜ヲ見計開港場へ可差送事
- 一難船漂着候ハ、早々外務省歟又ハ開港場ノ内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員ノ出張ヲ申立差圖可受事
- 一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添ノ者可成餘計ニサシ出最寄ノ開港場へ可送届事
- 一困難ノ船隠レ洲等ニ乘懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船載又ハ鐵具碇鎖等迄沈没ノマ、追々流失候トモ又ハ村方ニテ取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文ノ書面取置ベキ事
- 一難破ノ船載其マ、差置外國人ハ一端引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外之モノトモ預リ置キクレ候様外國人ヨリ相頼候凡容易ニ引受中間數彼方ヨリ遮テ申立候ハ、其筋へ伺ノ上可引受勿論入費可相掛義ニ付右賃銀受取候義ハ不及申跡々ニテ異論不差起様何事ニモ書面可取置
- 一沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付費ノ義ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候トト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足ノ殘額ハ内譯精細書相添管轄府縣ヨリ

大藏省へ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫ク官費ヲ以テ繰替置船主滞留中ナラハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其他乘組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、證書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官へ可相廻十八年布告第七十號ニテ改正一難破ノ船具又ハ沙滯ノ荷物或ハ船載等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當ノ價ヲ以買求候義不苦尤モ其段可相届出事

- 一難船ニテ永々滞留可相成様子ニ候ハ、「府藩縣」トモ其筋ヨリ警衛ノモノ可差出事
- 一乘組人無之西洋ノ難破船海外へ漂着候ハ、其様子委細ニ可相届事
- 一總テ外國人ニ取引致シ候勘定書式ハ證書ノ類ニ至ルマテ和文ニテハ用立難候ニ付彼國ノ文字ニテ爲相認書キ判又ハ調印爲致置ベシ和文ニテハ後日ノ證ト難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認ノ右へ調印致シ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文へ調印ハ勿論名面認載候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得事
- 一右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省へ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場へ相届候上猶又外務省へ可申立事

右之通

○達第百十七號

九年十二月二十一日

開拓使 沿海府縣

從來浦役人ノ名稱有之候へ共其事務ノ定限モ無之ニ付自今左ノ條欵ニ從ヒ浦役場ヲ設置シ浦役人ヲ命スベシ此旨相達候事

- 第一條 浦役場ハ沿海大市及ビ商船輻湊ノ地ニ於テハ便宜ノ場所ヲ撰テ之ヲ設置スベシ
- 第二條 浦役場ハ當分ノ中區務所等ヲ以テ代用シ浦役人ハ區長若クハ戶長ニ兼勤申付書記用掛等ヲシテ補助セシムヘシ

第三條 浦役人ハ其地繫泊船ニ關スル庶務警察事務稅關事務其他及ヒ難破船取扱難破浦證文付與等ノ事ヲ掌ラシムヘシ

第四條 浦役場設置ノ地名ハ明治十年三月三十一日限リ内務省ニ報告シ以後毎年十二月中ニ其廢置變換等ヲ同省ヘ報告スヘシ

○海乙第四號 十三年二月二十七日 沿海府縣
海底ニ沈没セシ船舶ハ海底ノ淺深ト船體ノ大小トニ由リ航海上暗礁ニ等シキ妨害有之ニ付水路誌記載ノ都合有之候條右沿海ニ沈没船有之節ハ其地位及ヒ狀況詳細取調速ニ地方廳ヨリ當省水路局ヘ可及通知此旨相達候事

○本庶達第十六號 十二年一月十八日 各町村戶長
沿海ニアラサル町村浦役人無之地川筋ニ於テ難破船漂流物等有之節ハ其戶長ニテ内國船難破及漂流物取扱規則ニ照シ可取扱此旨相達候事
○本庶達番外 十二年十二月十二日

自今管下ニ於テ西洋形商船ノ難破衝突等之災害ニ罹ルモノハ其船主ヨリ必左ノ廉々詳細之取調書内務省驛遞局長宛ニ認速ニ爲差出當廳ヘ差出スヘシ尤船主遠隔之モノナルキハ船長其代理トナリ取調書爲差出候義ト心得ヘシ此旨相達候事
但明治八年一月當廳丙第一號達取調書ハ本文達シニ拘ハラヌ其都度浦役人ヨリ差出シ候義ト心得ヘシ

○布告第四十號 七年十月三十一日 使府縣
内外國船難破ノ員數届方左ノ通可相心得此旨相達候事
一御國近海ニ於テ難破船有之候ハ内外國艦ヲ論セス西洋形ハ端船ヲ除キ大小共日本船ハ漁舟解船ヲ除キ積石五拾石以上ハ左ノ雛形ニ照準シ本年ヨリ以後一ケ年分ヲ取繼メ翌年二月十五日限リ

其地方管廳ヨリ内務省ヘ届出ヘシ但外國船ハ勿論内國船タリモ難破ノ次第積荷ノ摸樣ニヨリテハ其時々同省ヘ届出ヘシ
一内國船行方知レサル分並ニ海外ニ於テ難船ノ分等ハ其船主ノ管轄廳ヨリ前條ニ準シ届出ヘシ但行方知レサル船舶ノ搜索ヲ要スル時ハ其管轄廳ヨリ最寄府縣ヘ通牒搜索方依頼可致十四年五月十四日
一前條同省ヘ申出有之分ト雖モ一ケ年ノ數ヲ取繼メ届出ル節ハ其數中ニ記載スヘシ

帆船又ハ蒸汽船内車又ハ外車	何	幅	號	木製	鐵製	何	何	某	某
噸數	馬力	何	何	何	何	何	何	何	何
行方知レヌ	何年月日出帆	何年月日	航海中カ碇泊中歟	難風ノタメカ暗礁ニ觸ル歟	難破ノ因由	難破ノ景狀	乘組人及船客ノ死傷重傷何人	輕傷何人	死亡何人
遭難ノ時	遭難ノ地	遭難ノ因由	難破ノ景狀	乘組人及船客ノ死傷重傷何人	輕傷何人	死亡何人	濡破何石カ何箇カ	沈没何石カ何箇カ	積荷ノ損否

本貫何々

持主
船頭

何 何

外何人乘

某 某

何反帆

商船

何丸

以下前同斷

〇本縣丙第一號

八年一月九日

區 戶 長

今般內外船難破ノ員數届方之義御達有之候條已來左ノ通り雛形ニ準據シ取調其時々可届出此段相達候事

但是迄ノ分郡ヲ本月限リ取調可申出事

一難破船有之節ハ内外國船艦ヲ論セス西洋形ハ端船ヲ除キ大小共日本形ハ漁舟浮船ヲ除キ積石五拾石以上ハ左ノ雛形ニ照準シ本年ヨリ以後届出ヘシ

一當管内ノ船行方知レサル分並海外ニ於テ難船ノ分ハ前條ニ準シ届出ヘシ但行方搜索ナシ得ル節ハ其段届出ヘシ

〔雛形ハ第四百四十號布告ニ同シキヲ以テ略ス〕

〇布告第七十八號 九年八月七日

使 府 縣

難破船員數取調書ノ義每一ケ年分ヲ取纏メ翌年二月十五日限リ内務省へ可届出事明治七年(十月)第四百四十號ヲ以テ相達置候處自今一ケ年(六月十二月)兩度ニ引分ケ上半年分ハ其年八月十五日下午

半年分ハ翌年二月十五日限リ同省へ可届出此旨更ニ相達候事

但本年六月分ハ來九月限リ取調可届出事

〇本縣丙第二號

十三年七月廿四日

沿海郡浦役所

難破船員數ノ義ハ一ケ年ヲ兩度ニ引分ケ内務省へ報告スヘキ成規ニ候處今般驛遞總官ヨリ右報告書中ニ記載ノ廉及圖面へ付點ノ義別紙ノ通り照會有之候條以後難破衝突等有之節ハ遭難ノ場所方

位及距離等照會書ニ照準取調等縣明治八年一月丙第一號達雛形ノ難破船届書中ニ左ノ通り加記差

出ヘシ此旨相達候事

但圖面へ付點ノ義ハ於當驛取計候義ト可心得候事

一遭難ノ地方位 何町村ノ内何所ヨリ何方位

一遭難ノ地距離 何町村ノ内何所ヨリ何里町間

別紙

船十三第二九三號

十三年七月五日

難破船報告書差出方ノ義明治七年第四百四十號全九年第七十八號公達ノ趣モ有之候處畢竟遭難ノ景況及其場所等ハ航海者ノ最細々注意スヘキモノニシテ且後航者ノ警鑑トモ可相成緊要之件ニ付御

管下ニ於テ難破衝突等有之節ハ該船遭難ノ場所ヲ經緯度又ハ近傍ノ燈臺岬港若クハ著名ノ山岳或

ハ市街等ヨリ之距離方位等ニヨリ相分リ候分ハ報告書中へ詳細御記載有之度且今般及御送附候圖

面中右遭難之場所ヲ各標的ニ從ヒ其時々付點シ定規每半ケ年難破船ニ報告書内務省へ御差出之節

該圖面相添御差出相成度此段及御照會候也

〇管船乙第六十四號

十七年一月廿八日

前島驛遞總官

難破船報告ノ義明治七年第四百四十號公布ニ據リ每半ケ年分取締メ御上申ノ節兼テ及御送付候圖面

ハ遭難ノ場所ヲ各標的ニ從ヒ附點シ且其報告書へ遭難ノ場所モ可成細密ニ御記載ノ上該圖ヲ添付

シ御差出相成候様十三年七月五日船第二百九十三號ヲ以テ驛遞總官ヨリ及御照會置候處該圖面ハ

爾後相廢止候ニ付テハ右報告中遭難ノ場所等會テ及御照會置候通經緯度又ハ近傍ノ燈臺岬港若ク

ハ著名ノ山岳或ハ市街等ヨリノ距離方位詳細御記載且可成丈遭難地其近傍ノ粗圖ヲ添へ御差出相成候様致度此段及御照會候也

第二款 海難取調手續

○遞信省令第五號 二十六年三月三日

海難取調手續左ノ通り相定ム

海難取調年續

第一條 本令ハ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ノ乗組タル船舶ノ海難ニ罹リタル場合ニ適用ス

第二條 船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ遭難地又ハ遭難後始メテ著港シタル地ノ船舶司檢所又ハ警察署〔船舶司檢所設置ナキ地ハ方ニ限ル以下省略之〕ヘ直ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第三條 何人タリト雖トモ船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者其職務ニ從事シ海難ニ罹リタルコトヲ知リタルトキハ書面又ハ口頭ヲ以テ其地ノ船舶司檢所又ハ警察署ニ届出ツヘシ

第四條 船舶司檢所又ハ警察署第二條及ヒ第三條ノ届出ニ依リ又ハ自ら其事實ヲ知リタルトキハ船長運轉手機關手ハ勿論場合ニ依リテハ關係人ヲモ召換シ左ノ事項ヲ取調ヘ取調書ヲ作ルヘシ

警察署ノ取調ニ係ルトキハ其取調書ヲ最近ノ船舶司檢所ニ遲滞ナク送致スヘシ取調書ニハ取調出ヲ爲シタル者ノ官氏名及ヒ年月日ヲ記入スルヲ要ス

一 取調ヲ受ケタル者ノ住所氏名職業年齡

二 遭難船ノ名稱種類積量馬力〔船舶ナキ〕船主ノ住所氏名及積荷ノ有無

三 發航地到達地及ヒ遭難地ノ名稱年月日時

四 發航以後遭難迄ノ天候航路及ヒ遭難ノ顛末

五 船舶破損ノ箇所及ヒ其再用適否

六 乗組員及ヒ船客ノ員數死傷ノ有無

七 船長運轉手機關手ノ住所氏名免狀ノ種類番號

八 人名及ヒ船舶救護ノ方法

九 發航以後船長運轉手機關手舵取及ヒ看守ノ當直時間並其氏名

十 本船平均速力及ヒ遭難當時ノ速力

十一 使用海圖ノ種類及ヒ番號

十二 航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及ヒ其航路ニ於ケル羅針盤ノ自差〔自差トハ通常羅針ノ指示シル位地カ船内ノ鐵氣ニ感シ左若クハ右ヘ其位置ヲ移轉シ爲メニ生シタル差違ヲ謂フ〕

十三 航海日誌ノ存否

十四 取調ヲ受ケタル者其地ニ滞在シ又ハ何日以後ハ何地ニ至ルヘキマト

右ノ外必要ト思料スル諸件アルトキハ適宜之ヲ取調ルコトヲ要ス

第五條 前條ノ場合ニ於テ船舶司檢所又ハ警察署ハ船名遭難地名時日及ヒ遭難模様ノ大略ヲ記シ遲滞ナク遞信省ニ報告スヘシ

第六條 船長運轉手機關手ノ免狀ヲ受有スル者ニシテ第二條ノ規定ニ違背シ海難ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

○保第三四八號 廿六年四月廿八日

本年三月遞信省令第五號海難取調手續中警察署トアルハ警察分署ヲモ包含スル旨北海道廳長官外

一縣知事ノ伺ニ對シ遞信大臣ヨリ指令相成候趣同省管船局長ヨリ通知アリ

北海道廳長官ヨリ(電信)何明治廿六年三月十三日北海道廳長官

海難取調手續中警察署トアルハ分署ヲモ包含スルヤ相伺フ

遞信省指令(電報)明治廿六年三月十六日

遞信大臣

海難取調ノ件ニ係ル伺ハ伺之通

山口縣知事

警第四九號 廿六年三月廿三日

本月三日遞信省令第五號海難取調手續第二條全第三條ハ警察署ニ届出全第四條ハ警察署ニ於テ取調云々ト記載有之候處本縣ニ於テハ警察署ノ管轄區域廣濶ノモノ不尠現ニ沿海警察分署八ヶ所有之其所轄内ニ係ルモノハ全分署ニ於テモ亦取扱ハシメ候ハ、煩勞ノ憂ナク大ニ便利ヲ可得様認メラレ候間自今右様取扱方御認可相成度此段相伺候也

遞信大臣

遞信省指令第一六二號 廿六年四月一日

本年三月廿三日付警第四九號伺海難取調方ノ件ハ伺ノ通

第四款 難船漂着物取扱手續

○保第二七七號

廿三年四月廿九日

明治二十一年^七警第一〇七三號訓示難船漂着物取扱手續左之通改正ス

難船漂着物取扱手續

- 第一條 漂着物公賣並代價分與ノ取扱ハ所管警察署又ハ分署ニ於テ官收金保管ノ取扱ハ所管警察署ニ於テ爲スモノトス
- 第二條 内國船難破及漂流物取扱規則^{以下單ニ稱ス}第二十九條ニ依リ届出アリタル片ハ船ハ其種類噸數又ハ石數破損ノ模様鑑札ノ有無物品ハ其品名箇數摸樣等ヲ精細取調其見附タル年月日場所見積價格等ヲ詳記シ揭示場ヘ帖出シ而テ必要ト認ムル警察署又ハ分署ヘ通報シ其通報ヲ受ケタル警察署分署ニ於テハ直ニ揭示ヲ爲シ所有主知レタル片ハ其旨原署ヘ通報シ原署ハ先ニ通報シタル各署ヘ報告スヘシ但漂着船ニ鑑札附着シテ下付シタル官署ノ知り得ベキモノハ先ツ其官署ニ取調方ヲ照會スヘシ
- 第三條 漂着物件ハ浦役人ヲシテ一件毎ニ見積價格ヲ量定セシメ物件保管書ヲ徴シ置クヘシ

第四條 漂着物臺帳ハ別紙様式ニ依リ調整シ船ト船ニアラサル物品ヲ區分シ見出ラ帖付シ各別ニ登記スヘシ

第五條 漂着物ノ價格拾圓以上若クハ其以下タリトモ必要ノ物品ト思量スルモノハ前條ノ例ニ依リ品目價格其他見附主ノ住所氏名ヲ附記シテ本部長ニ報告スヘシ

第六條 分署ニ於テ漂着物ノ届ヲ受ケ第二條ノ手續ヲ爲シタルト同時ニ品目價格見附主ノ住所氏名等ヲ詳記シ所屬警察署ヘ報告スヘシ其報告ヲ受ケタル片ハ其旨漂着物臺帳ニ登記シ満期處分ノ手續ヲナスヘシ

第七條 漂着物品ハ見附タルヨリ一ケ年以内ニ持主分明シタル片ハ規則第三十一條第一項ニ依リ漂着船ハ規則第三十二條第一項ニ依リ處分ヲ爲スヘシ但暴風雨ニテ流失ノ材木ハ規則第三十七條ニ依ルモノトス

第八條 漂着物件ニシテ見附タルヨリ一ケ年ヲ經過シ持主分明セサル片ハ浦役場ニ照會シテ公賣處分手續ヲ爲スヘシ

第九條 漂着物件ヲ公賣シ買受人定リタル片ハ直ニ別紙様式ニ依リ買受人ノ受書ヲ差出サシメ現金ヲ徴シタル片ハ其受書ト共ニ回付セシムヘシ

第十條 公賣代金ヲ領收シタル片ハ漂着物ハ規則第三十一條第二項標着船ハ規則第三十二條第二項ニ依リ取扱主ヘ分與ノ處分ヲ爲スヘシ但分署ニ於テハ官收スヘキ金員ハ直ニ買受人ノ受書ト共ニ所屬警察署ニ回付スヘシ

第十一條 前條ニ依リ官收スヘキ金員ハ明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程第七條ニ依リ其地ノ金庫ニ寄托ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 據リ分與金ヲ取扱主ニ交付セントスルニ際シ取扱主所在不明ニテ交付スル能ハザル場合ニ於テ其現金ヲ保管金トシ寄托スル片ハ保管金返附書ヘ保管金ノ事由ヲ「取扱主所在不明ニ付未渡金」ト記載スヘシ又規則第三十八條ニ據リ公賣セシ代價ヲ寄托ノ後其幾分ヲ交付スヘキ

右ハ私へ御賣渡相成候ニ付代金ハ何月何日限リ上納物品引取可申候也

年 月 日

何警察署又ハ分署宛

何郡 何町 村

何 某 印

第五款 内國船難破及漂流物ニ關スル雜件

○遞信省訓令第一號

二十六年三月二十九日

北海道廳沿海府縣但東京府

船船衝突乘揚等ノ原因ニ依リ沈没若クハ破壊シ又乘客若クハ乗組員死傷シタル場合ニ在テハ本年三月當省令第五號ニ依リ海難取調ノ完結スルト否トニ拘ハラヌ沈没若クハ破壊ノ原因日時場所船名死傷人員數等電報ニテ直チニ届出ツヘシ

○本縣訓令乙第三號

二十二年三月二十四日

沿海、郡役所、町村役所

明治八年四月第六十五號布告内國船難破及漂流物取扱規則第十二條ノ費用中從前地方稅ヲ以テ支辨シタルモノハ町村制施行ノ日ヨリ左ノ區分ニ依リ支辨スル儀ト心得ヘシ

第一自然消滅ニ屬ス

第二及第三町村ノ負擔ニ屬ス

第四及第五地方稅ノ負擔ニ屬ス

○管乙第七二四號

廿年二月十日

管船局長ヨリ本縣知事宛通牒

内國難破船及漂流物取扱規則第三十四條ニヨリ漂着物保存等ニ係ル費用支出方ニ際シ往々該條見解ノ異同ニ依リ處分方區々ニ涉ル義不尠ニ付自今漂着物ニ係ル費用支出方ハ該條明文ノ通り公賣代價全部中ヨリ先ツ費用ヲ引去タル殘額ノ一半若クハ三分ノ一ヲ拾得者へ給與ノ事ニ大藏省協議ノ上相成候間爲御承知此段及御通牒候也

第六款 外國船漂着取扱方

○太政官布告第九十七號

四年四月二十二日

外國船漂着ノ節取扱方左ノ通猶又被仰出候條此旨相達候事

一 條約濟各國ノ船艦困難ニ及ヒ漂着候節其船小舟ニ候トモ修復ヲ加ヘ歸航致シ度望ニ候ハ、其旨承届規則第二ヶ條第九ヶ條ニ照準シ處置致スヘキ事

一 破船難用立節乘組人員少ニテ手輕ニ可相濟分ハ規則六ヶ條ニ照準シ海陸便宜見計最寄開港場へ可送届事

一 清國ノ儀ハ無程條約御取結相成彼國ヨリ官吏差越候上ハ條約濟各國同様ノ振合ニ可相成候へ

一 先ツ夫迄ノ處同舟船等困難漂着ヲ見受候ハ、相當扶助イタシ模様取糺シ其船修復ヲ加ヘ候へハ歸國モ出來可申程ニテ乘組人モ其旨相願候ハ、望ミ通り承届親切ニ世話致シ遣可申事

一 但シ諸雜費ノ儀當人辨スル不能ハ其土地ノ入費又ハ其管轄所ノ公費ニ相立可申事

一 朝鮮國ノ船同斷ノ節前同斷

一 清國ノ船破碎漂着難用立候ハ、同國ヨリ長崎縣ニ總代ト唱候モノ同國人取締ハタメ渡來イタシ居候間海陸便宜見計藩縣送リヲ以テ同所縣廳へ送り届縣廳ヨリ右總代へ引渡可申事

一 朝鮮國ノ船前同斷ノ節戊辰六月中御布告ノ通り可相心得事

右之件々有之候節ハ總而最寄開港場へ相届其段外務省へ可届出事

第七款 朝鮮國船漂着取扱方

○太政官第二百八十三號 六年八月三日

辛未四月外國船漂着ノ節取扱方布告中朝鮮國船ハ清國同斷ト有之候處元來朝鮮國船ノ儀ハ其製造堅牢ナラス遠海ヲ航行スベキ具ニアラサレハ左ノ通り改正候條此旨布告候事

一 朝鮮國ノ船漂着ノ節其船修復ヲ加ヘ候上乘組人ヨリ歸國ノ儀申出候トモ洋中ノ危患不可保ヲ諭シ同國漂流人取扱規則第二條ニ照シ遞送可致且雜費ノ儀ハ當人資財ノ有無ニ關セス都テ其所

轉應ノ公費ニ可立事

但シ修復ヲ加ヘ候船ヲモ送還スベキ節ハ必ス相當ノ元船ヲ用ヒテ之ヲ引カシメ漂人共ハ元船ニ爲乗組可申最難用立船ハ本人承諾ノ上公札拂ニシ其代價ハ本人ニ附與スベキ事

第八款 日英兩國船舶難破救助費償還方

○內務省達乙第十五號 十二年三月廿六日

明治十年七月乙第六十八號ヲ以テ英國難破船救助費支出方之儀相達置候處今般日英兩國船舶難破救助費償還方之儀ニ付別紙之通約定書交換相成候條此旨相達候事

(別紙)

日本政府ニ於テ英國破船人救助ノ爲メ衣類食料旅費或ハ溺流人骸ノ救援或ハ病者負傷者ノ治療其外死去人ノ埋葬ニ係ル諸入費ハ英國政府ヨリ日本政府ヘ還償スベシ英國政府日本破船人ヲ救助スル時ハ日本政府ニテ右同様ノ手續タルベシ
日本政府又ハ英國政府ハ何レモ破船又ハ船内物貨ノ回復或ハ其保護ニ係ル費用ハ之ヲ償還スル責ニ任セサルベシ總テ斯ノ如キ費用ハ難ヲ免レタル貨物ヲ以テ右貨物ヲ受取ル節右關係ノ者ヨリ其費用ヲ償却スヘシ
日本政府又ハ英國政府ハ難船ノ場所ニ出張スル政府ノ官吏警察吏又ハ地方官ノ費用即チ難船人護送ノ官吏ノ旅費及ヒ公信任復費ヲ拂ハサル可シ是等ノ費用ハ右官吏警察吏及ヒ地方官所屬ノ政府ニ歸ス可キ者トス

第九款 日米難破船舶費償還方

○內務省達乙第四十五號 十四年九月二十八日

難破船舶費用償還方ノ儀別紙ノ通り米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候

(別紙)

日本帝國米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ結ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フコトニ決意シ其全權委員トシテ日本國皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使ジョン、エービンハムヲ之ニ任シ互ニ其委任狀ヲ相示シ其式ノ善良適切ナルヲ認メテ訂約スルコト左列之如シ
凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノ力ナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜ク日本政府ヨリ之ヲ償還スベシ又合衆市國民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜ク上ト同様ノ手續ニ遵ベシ然レトモ日本政府ニ於テモ將合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ這樣ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシテ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス日本政府ニ於テモ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信任復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス
此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ經テ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス
此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス東京ニ於テ

明治十三年五月十七日

西曆千八百八十年五月十七日

第十款 日清兩國沿海遭難人民救護經費償還方

井上 馨 印

ジョン、エービンハム 印

○訓第六〇四號內務大臣訓令 廿三年九月十二日

- 沿海遭難人民救護經費償還方左ノ通り清國政府ト契約成立ス
- 一兩國彼此ニテ沿海ノ遭難人民ヲ救助スル時支給スル所ノ衣食旅費醫藥及ヒ撈屍埋葬等ノ諸入費ハ總テ其難民本國政府ヨリ償還スヘシ
- 一兩國ニテ難民ヲ救助スル時派出スル所ノ官吏ノ旅費并ニ世話護送及電信公文往復等ノ諸入費ハ其難民ノ本國政府ヨリ償還スルニ及ハサルヘシ
- 一兩國ニテ遭難ノ船隻及物貨ヲ救助保存ノ爲メ需用スル所ノ人夫手間賃等ノ諸入費ハ其船隻及貨物ヲ領收スル者ヨリ償還スヘシ

第九章 棄兒及瘋癲迷子附無主犬驅殺

第一欸 棄兒取扱手續

○布告 四年六月廿日

府 藩 縣

從來棄兒教育ノ儀所預ノ分ハ養育米被下貫受人有之分ハ不被下候處自今預リ貫受ニ不拘棄兒當歳ヨリ十五歳迄年々米七斗宛被下候間實意養育可致事

○布告第百三十八號 六年四月五日

棄兒養育米ノ儀辛未六月月中相達候通十五歳迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十三年ヲ限り被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戸長等立合身骨格等寫ト検査シ本年第三十六號布告ニ照シ年齢相定候様可致事

○本縣第九十九號 十五年十一月七日

棄兒取扱手續左ノ通相定候此旨布達候事 但棄兒ニ係ル從前ノ本縣布達指令ハ渾テ廢止ス

- 一棄兒アルヲ知リタル者直ニ拾揚ケ其日時及ヒ場所ヲ詳記シ町村役所ヲ經テ所轄警察署又ハ分署交番所ヘ速ニ届出可シ但附帶ノ書類依預狀或ハ姓名出生年月アラハ之ヲ添付スヘシ日附物等ヲ記セルモノ
- 一棄兒出生年月及ヒ姓名等知レサルハ戸長立會生年月ヲ定メ姓名ヲ取極ムヘシ
- 一拾揚人ニ於テ自ラ養育シ又ハ他人ノ拾揚タルヲ貫受養育スルヲ貫受人ト稱ヘ追テ貫受人ノ定ルマテ假ニ養育スルヲ預リ人ト稱フヘシ
- 一棄兒アリタル町村中ニ貫受又ハ預ルヲ望ム者無之ハ戸長ニ於テ最寄町村戸長ヘ照會シテ廣ク之ヲ搜索シ猶望ム者無之場合ニ於テハ其町村中ニテ適宜之ヲ養育セシムヘシ決シテ不實ノ取計アルヘカラス
- 一棄兒ハ齡十三年ニ滿ルマテ養育米給與スヘキニ付第一項ノ手續ヲ爲シタル後預リ人又ハ貫受人ハ甲號書式ニ據リ町村役所ヲ經テ郡役所ヘ願出ヘシ但自費ヲ以テ養育セント欲スルモノハ乙號書式ニ據ルヘシ
- 一從來自費ヲ以テ養育スル所ノ棄兒ヲ貫受更ニ養育米ノ給與ヲ仰カントスルモノ又ハ養育米ノ給與ヲ受ケテ養育スル處ノ棄兒ヲ貫受引續養育米ヲ仰キ或ハ自費ヲ以テ養育セント欲スルモノハ丙號書式ニ據リ町村役所ヲ經テ郡役所ヘ願出ヘシ
- 一從來自費ヲ以テ養育セシモノ更ニ養育米ノ給與ヲ仰クカ又ハ養育米ノ給與ヲ受ケタルモノ更ニ自費ヲ以テ養育セント欲スルハ丁號書式ニ據リ町村役所ヲ經テ郡役所ヘ願出ヘシ
- 一自費ヲ以テ養育スルト養育米ヲ受ケテ養育スルトヲ問ハス棄兒年齢滿十三年ニ至ルカ又ハ死亡セシキハ戊號書式ニ據リ町村役所ヲ經テ郡役所ヘ届出ヘシ

甲號

棄兒養育米御給與願

何郡何町村何番屋敷族職業 預リ人或ハ貫受人 姓 各

(四二一)

年月日生(前)(後)何時拾揚

棄兒

姓名

年月日生

右ノ者何所ニ於テ拾揚養育仕候ニ付養育米御給與被下度此段奉願候也

右願主

何

ノ

誰印

年月日 郡長宛

乙號

棄兒自費養育願

何郡何町村何番屋敷族職業

貫受人或ハ預リ人

姓名

姓名

棄兒

姓名

姓名

年月日生

年月日午(前)(後)何時拾揚

右之者何所ニ於テ拾揚候ニ付自費ヲ以テ養育致度此段奉願候也

右願主

何

ノ

誰印

年月日 郡長宛

丙號

棄兒貫受(養育米御給與)願

何郡何町村何番屋敷族職業

預リ人或ハ貫受人

姓名

姓名

棄兒

姓名

姓名

年月日生

年月日貫受

右ハ何ノ誰自費ヲ以テ(養育米御給與ヲ仰キ)養育致來候處私貫受(養子女ニ相立)候ニ付自今私
ハ養育米御給與被下度(自今自費ヲ以テ養育仕度)此段奉願候也

何郡何町村何番屋敷族職業

貫受人

何

誰

誰印

元貫受人

何

誰

誰印

年月日 郡長宛

丁號

棄兒^{官費}自費養育ノ處^{自費}養育願

何郡何町村何番屋敷族職業

貫受人或ハ預リ人

姓名

姓名

棄兒

姓名

姓名

右ハ(是迄養育米ヲ仰キ)(自費)(養育致來候自今自費養育仕度)養育米御給與被下度此段奉願候也

貫受(預リ)人 何ノ誰印

年月日 郡長宛

戊號

棄兒(死)(亡)(滿年)屆

何郡何町村何番屋敷族職業

貫受人或ハ預リ人

姓名

姓名

棄兒

姓名

姓名

年月日生

年月日死亡或ハ年月日滿年
但自費(官給)養育
右及御届候也

(五二一)

年月日
郡長宛

届主

何ノ誰印

第二款 棄兒及瘋癲人取扱ニ關スル雜件

廿四年八月七日

長崎縣知事内務大臣伺

○瘋癲人取扱方ノ件
瘋癲人等ニシテ道路其他ノ場所ヲ彷徨シ他人ニ對シ兇暴危害ノ所爲ヲナシ又ハ其所爲ヲナス恐レアリト認ムルハ其親屬ヘ引渡シ相當看守セシムヘキハ勿論ニ候ヘ共親屬又ハ引受人アラサル場合ハ明治八年三月太政官達第二十九號行政警察規則第三章第十八條ニ依リ警察官吏ニ於而市町村長ヘ引渡可然哉果シテ然ラハ其看守ニ要スル費用等ハ市町村ニ於而負擔セサルヲ得サル義ニ候哉尤モ十七年十月本縣伺ニ對シ十八年二月五日付ヲ以テ危害ノ所爲難計モノハ監獄則別房ニ留置スヘキ旨御指令モ有之候ヘ共監獄則改正ノ今日ニ於而ハ該御指令ニモ難據然ルニ是等ノ類ハ近來往々生出一定ノ標準無之ヲハ取扱上差支不少且ツ目下ノ差掛リ候事件モ有之候ニ付至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

○内務省指令甲第一四一號

廿四年九月十一日指令

本年八月七日甲保第九三二號伺瘋癲人取扱方ノ件右瘋癲人引渡方ハ伺之通其費用ハ本籍地方稅ヲ以テ支辨シ看守方ハ適宜取計フヘシ

第三款 迷子取扱方

○内務省訓令第五號

廿二年二月廿一日

北海道廳 府 縣

迷兒ハ棄兒ニ準シテ取扱ヒ家元發見シ若シ其費用辨償ノ資力ナキトキハ養育費ヨリ支辨スヘシ但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消ス

第四款 畜犬并無主犬驅殺方

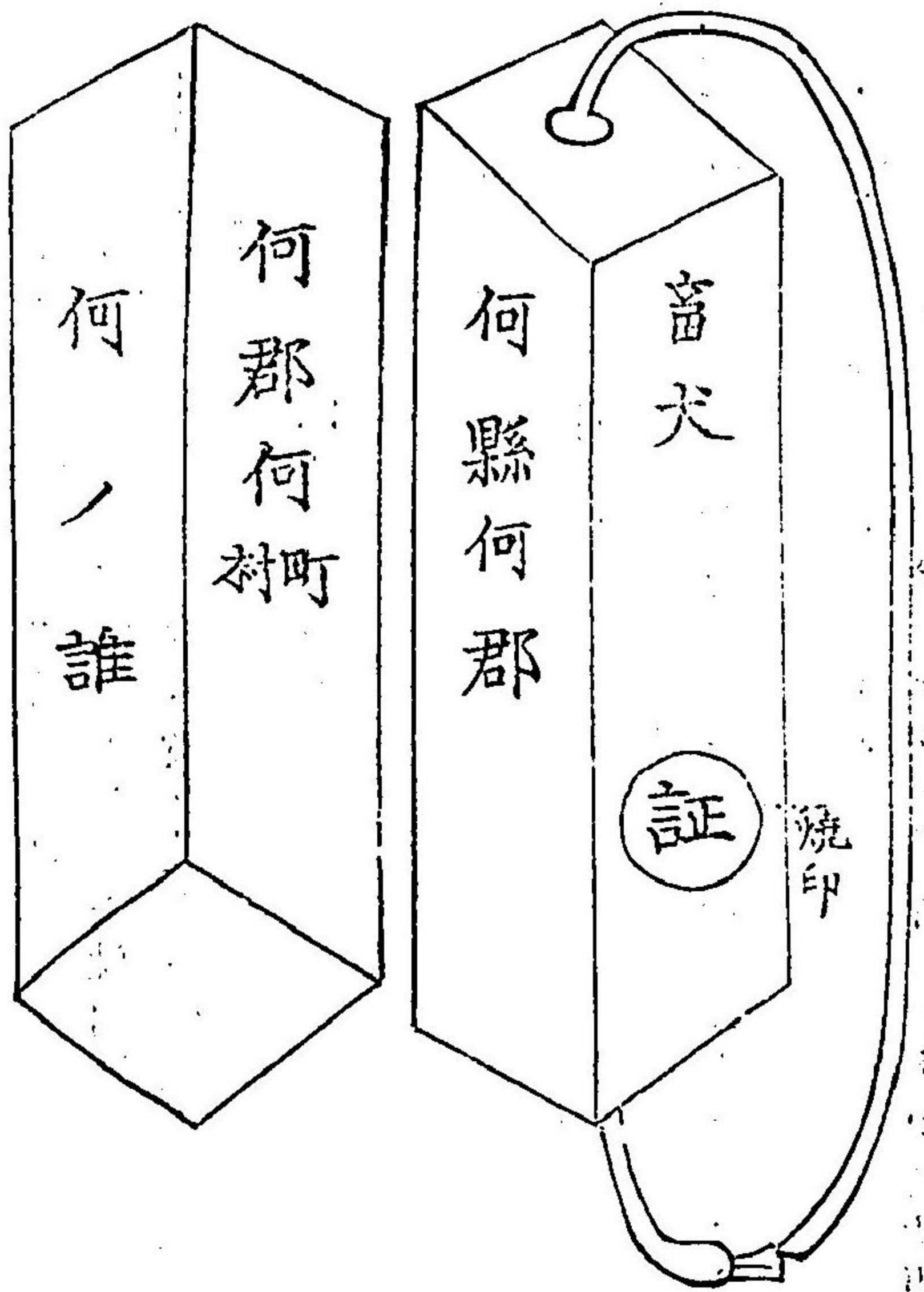
○縣本甲第六十九號

十三年九月四日

畜犬並無主犬驅殺方左ノ通相定候條此旨布達候事但本文ニ抵觸スル從前ノ布達々ハ渾テ相廢候事

- 一 畜犬スルモノハ住所姓名ヲ記載シタル左ノ雛形ノ木札ヲ製シ畜犬ノ頸ニ遺失セサル様常ニ付置クヘシ但無札ノ犬ハ巡查ニ於テ臨時打殺スルコアルヘシ

一 在病ニ罹ル犬ハ其主之ヲ殺スヘシ



- 一 道路ニ狂病ノ畜犬アレハ巡查ハ勿論其外誰ニテモ之ヲ打殺スヘシ但屍ハ速ニ町村戸長ニ取片付ヲ申出スヘシ
- 一 猛犬ハ鐵鎖等ヲ付ケ置キ逸走セサル様注意スヘシ
- 一 無主ノ犬ハ毎年一度已上町村ニ於テ驅殺スヘシ但驅殺前其日限ヲ管理警察分署ヘ届出ヘシ
- 一 猛犬ニ鐵鎖ヲ付置カス又ハ狂犬ヲ其主ニ於テ故ヲニ撲殺セス及ヒ無主ノ犬ニ木札ヲ付置ク者ハ相當ノ處分ニ及フヘシ
- 右ニ係ル費用ハ總テ其町村ノ協議タルヘシ

第十章 水火災

第一款 消防組規則

○勅令第十五號

二十七年二月九日

消防組規則

- 第一條 府縣知事水火災警戒防禦ノ爲メ必要ノ地ニ消防組ヲ設置スルトキハ此ノ規則ニ定ムル所ノ條規ニ依ルヘシ
- 第二條 消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ
- 町村制第百十六條第二項ニ依リ町村組合ヲ設ケタル場合ニ於テハ消防組ノ設置組織ハ其ノ組合ノ區域ニ依ルコトヲ得
- 府縣知事ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ市町村内ノ一以上ノ大字若クハ區ヲ以テ消防組ノ設置區域ト爲スコトヲ得
- 第三條 消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス
- 消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

- 第四條 組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス
- 小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ルモノトス
- 第五條 消防組ハ府縣知事之ヲ數部ニ分ツコトヲ得
- 第六條 消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス
- 消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但水火災ニ際シ警察官臨場ノ暇ナキトキハ組頭若クハ小頭之カ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 消防組ハ其ノ區域外ノ水火災ト雖警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警戒ニ應援スヘシ
- 危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官警察署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全體ノ消防組ヲ指揮監督ス
- 消防組ハ水火災警戒ノ爲メニアラサレハ集合若クハ運動スルコトヲ得ス但警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第九條 消防組ノ服務規律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ
- 第十條 消防組ノ舉動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得
- 第十一條 府縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村又ハ町村組合ヲシテ消防組員ニ一定ノ手當並ニ被服等ヲ給セシムルコトヲ得
- 第十二條 消防組ノ使用ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ市町村及町村組合ニ於テ之ヲ設備スヘシ
- 第十三條 消防組ニ關スル費用ハ其ノ市町村又ハ町村組合ノ負擔トス
- 第十四條 從來ノ市町村消防組ニシテ其ノ區域此ノ規則第二條ニ該當スルモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ於テ府縣知事此ノ規則ニ從テ其ノ組織ヲ改ムヘシ

消防組ニ關スル從來ノ市町村條例ハ前項ニ依リ組織ヲ改メタル日ヨリ之ヲ廢止ス
第十五條 前條ニ當ラサル從來ノ消防組ハ官ノ許可ヲ得タルト否トニ拘ラス此ノ規則施行ノ日ヨ
リ總テ廢止ス

第十六條 此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ内務大臣定ムル所ノ綱領ニ依リ府縣知事之
ヲ定ム

第十七條 此ノ規則ハ沖繩縣及東京市ニ適用セス但第七條ハ東京市ニモ之ヲ適用ス

第十八條 北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第十九條 第八條及第十條ハ此ノ規則發布ノ日ヨリ施行シ從來ノ消防組ニシテ第十四條ニ依リ組
織ヲ改ムヘキモノ及第十五條ニ依リ廢止セラルヘキモノニ適用ス

第二款 消防組規則施行概則

○内務省令第一號 二十七年二月十日

消防組規則施行概則左ノ通之ヲ定ム

消防組規則施行概則

第一條 消防組並部ニハ細則ヲ定ムル所ニ從ヒ一定ノ名稱ヲ附スヘシ

第二條 府縣知事(東京府ハ警視總監北海道ハ必要アリト認ムルトキハ)消防組若クハ部ニ事務所ヲ設ク
ルコトヲ得其設置、備品及執務章程等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 消防組若クハ部ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ一定ノ人員ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

第四條 消防手ハ年齢滿十八年以上ノ男子ニシテ平素行爲粗暴ニ涉ラス身體強壯ナル者ヲ選フヘシ
但組頭及小頭ハ消防手ノ中ヨリ撰拔ス

第五條 前條組頭小頭及消防手ノ採用ニ關シ規定ヲ設クルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ム
ヘシ

第六條 左ニ掲クル者ハ消防手トナルコトヲ得ス

一 公權利奪若クハ停止中ノ者

二 禁治産中ノ者

三 公費ヲ以テ救助中ノ者

四 懲戒處分ニ依リ消防手ノ職務ヲ免セラレ滿三年ヲ經過セサル者

第七條 消防組員在職中前條各號ノ一ニ觸ル、者アルトキハ直チニ其職ヲ免スヘシ

第八條 前數條ニ掲載セルモノヲ除クノ外尚ホ消防組員ノ命免及辭職ノ手續等ニ關シテ規定ヲ設
ルノ必要アルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條 水災ノ信號及信號擔當者等ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 消防組規則第七條ノ場合ニ於テハ消防組ヲシテ機敏ニ相應援セシムルノ規定ハ細則ヲ以
テ之ヲ定ムヘシ

第十一條 消防組員ヲシテ參集又ハ現場へ出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ他人へ對シ強迫カマシ
キ所爲又ハ粗暴ノ舉動ヲ爲サシメサル爲メ細則ヲ定ムヘシ

第十二條 消防組ハ期ヲ定メ演習ヲ爲スヘシ其方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 細則ノ定ムル所ニ從ヒ建物ヲ造設若クハ修繕スルノ必要アルトキハ警察署長ハ警部長
ノ指揮ヲ受ケ市參事會、町村長ニ移牒シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十四條 消防器具ノ種類、備置場、保存ノ方法等ハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 組頭ハ細則ノ定ムル所ニ從ヒ器具ノ現況ヲ市參事會、町村長ニ報告スヘシ

第十六條 消防組ニハ組員名簿及消防器具目錄ヲ備置クヘシ

第十七條 地方ノ狀況ニ依リ消防組員ニ被服並月手當、出場手當、傷痍手當等ヲ給與スルノ必要ア
ルトキハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十八條 警部長ハ少クトモ毎年一回警察署長ハ少クトモ毎三月一回消防組ヲ巡檢シ規律ノ保
持器具ノ完備等ヲ監査スヘシ

第十九條 懲戒ハ情況ノ輕重ニ從ヒ解職、停職、停給(月手當アル)及譴責トス
 第二十條 停職ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス又停給ハ三箇月分ヲ超過スルコトヲ得ス
 第二十一條 懲戒處分ノ手續ハ細則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二十二條 此概則ニ於テ市町村ト稱スルハ北海道ノ區ヲ包含スルモノトス
 市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此概則ニ規定シタル市參事會、町村長ノ職務及關係ハ區長
 又ハ戶長ニ屬スルモノトス

第二款 消防組規則施行細則

○本縣令第二十六號

廿七年四月十日

消防組規則施行細則左ノ通相定ム

消防組規則施行細則

第一條 消防組ハ町村毎ニ設置シ所管警察署長ヲシテ指揮監督セシム

第二條 消防組ノ名稱ハ左ノ區別ニ依ル

町村ノ區域ニ依ルモノハ

大字又ハ區ノ區域ニ依ルモノハ

組ヲ部ニ分ツモノハ

何郡何町消防組

何郡何村何々消防組

何郡何町消防組何々部又ハ何郡何

村何々消防組何々部

村何々消防組何々部

外、部亦同シ

第三條 消防組ハ左ノ人員ヲ以テ組織ス但組頭ヲ除ク外、部亦同シ

組頭 一人

小頭 一人

消防手 三十人以上

第四條 消防手ハ器械掛、用水掛、火消掛、二分チ掛長各一人ヲ置ク

第五條 消防組同シ又ハ少クモ左ノ器具ヲ備ヘ所管警察署長ノ指定シタル場所ニ置クヘシ

唧筒又ハ龍吐水

運水器桶又ハツツ

鷹口

梯子

大繩

麻苧大綱

斧

鍬

繩又ハ旗但組(若クハ)部名ヲ記ス

高張提灯但全上

手丸提灯但全上

又

前項器具ノ中斧、鍬、提灯ハ警察署長ノ指揮ヲ承ケ各自宅ニ置クコトヲ得

第六條 消防組又ハ部ハ所管警察署長ノ指定シタル場所ニ火ノ見梯子又ハ櫓ヲ設ケ半鐘又ハ板木ヲ備ヘ信號擔當者ヲ定メ置クヘシ但寺鐘ヲ代用スルコトヲ得

第七條 消防組員警報信號ヲ聞キタルトキハ速ニ器具置場ニ集リ警察官若シ在ラサルトキハ組頭若クハ小頭ノ指揮ヲ承ケ進退スヘシ

第八條 災害ニ臨ミタルトキハ事鎮靜スルモ警察官若シ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ノ點檢ヲ受ケ解散ノ號令ヲ聞クニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

第九條 消防組員ハ參集又ハ現場ヘ出張ノ途中ハ勿論平常タリトモ他人ニ對シ威權強迫ケ間敷所爲又ハ疎暴醜惡ノ舉動アルヘカラス

(四三一)

第十條 消防組ハ警部長又ハ所管警察署長ヨリ指定セラレタル日時場所ニ於テ演習及器具等ノ點檢ヲ受クヘシ

第十一條 組頭ハ毎年十月末日器具ノ現況ヲ記シ所管警察署長ノ檢閲ヲ經テ町村長ニ報告スヘシ

第十二條 消防手ノ服裝ハ別紙第二號ニ依ルヘシ若シ之ニ依リ難キトキハ警察署長ニ於テ適宜斟酌スルコトアルヘシ

第十三條 削除

第十四條 組頭以下職務ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱シタルトキハ組頭、小頭ハ警部長其他ハ所管警察署長之ヲ懲戒ス

(別紙)

失火信號
一 縣廳及信號臺所在ノ近火

無數亂點

第 一 諸官衙及縣郡町村會議事堂

四點

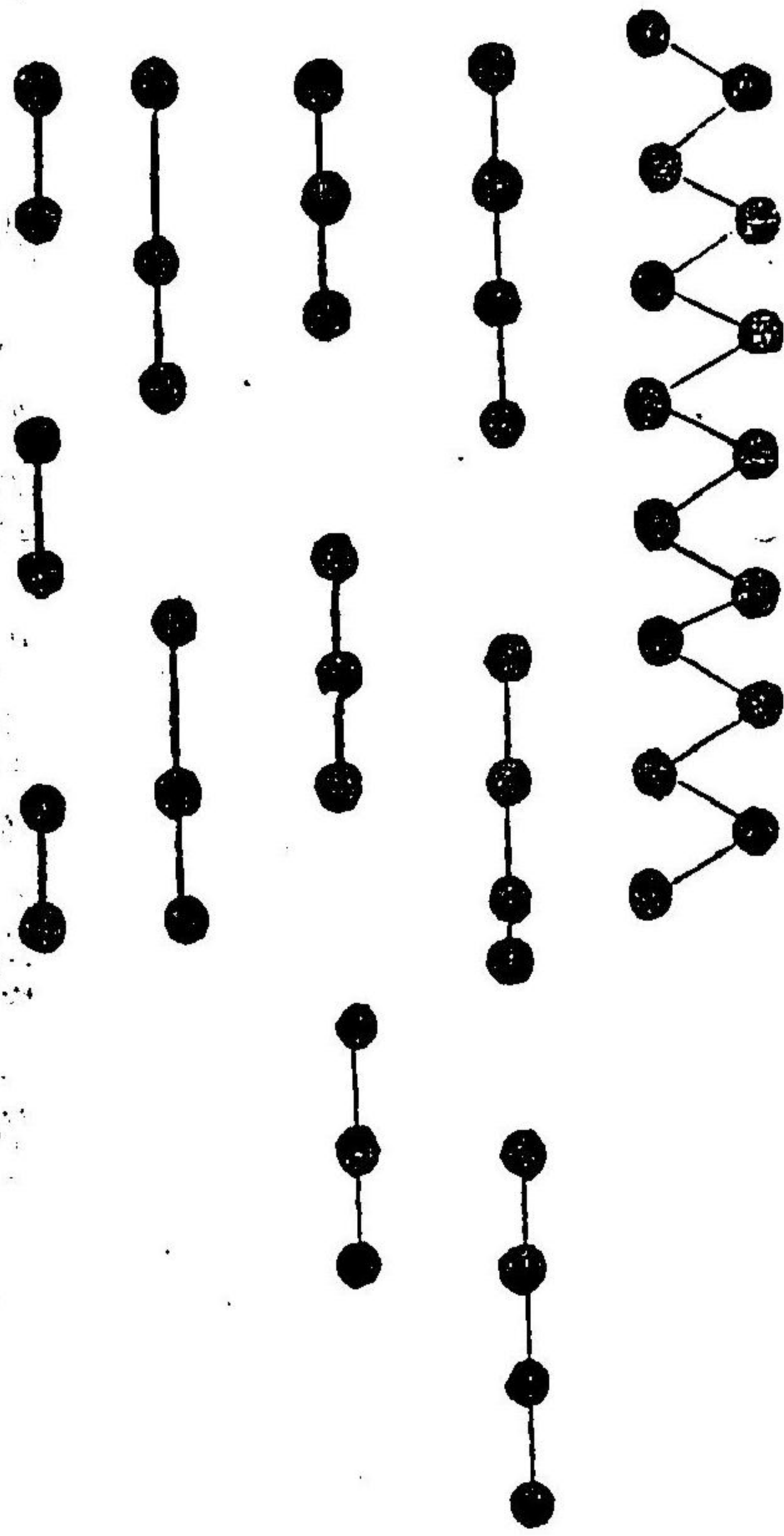
一 市街並近傍村落

三點

鎮火信號

一 一點二點

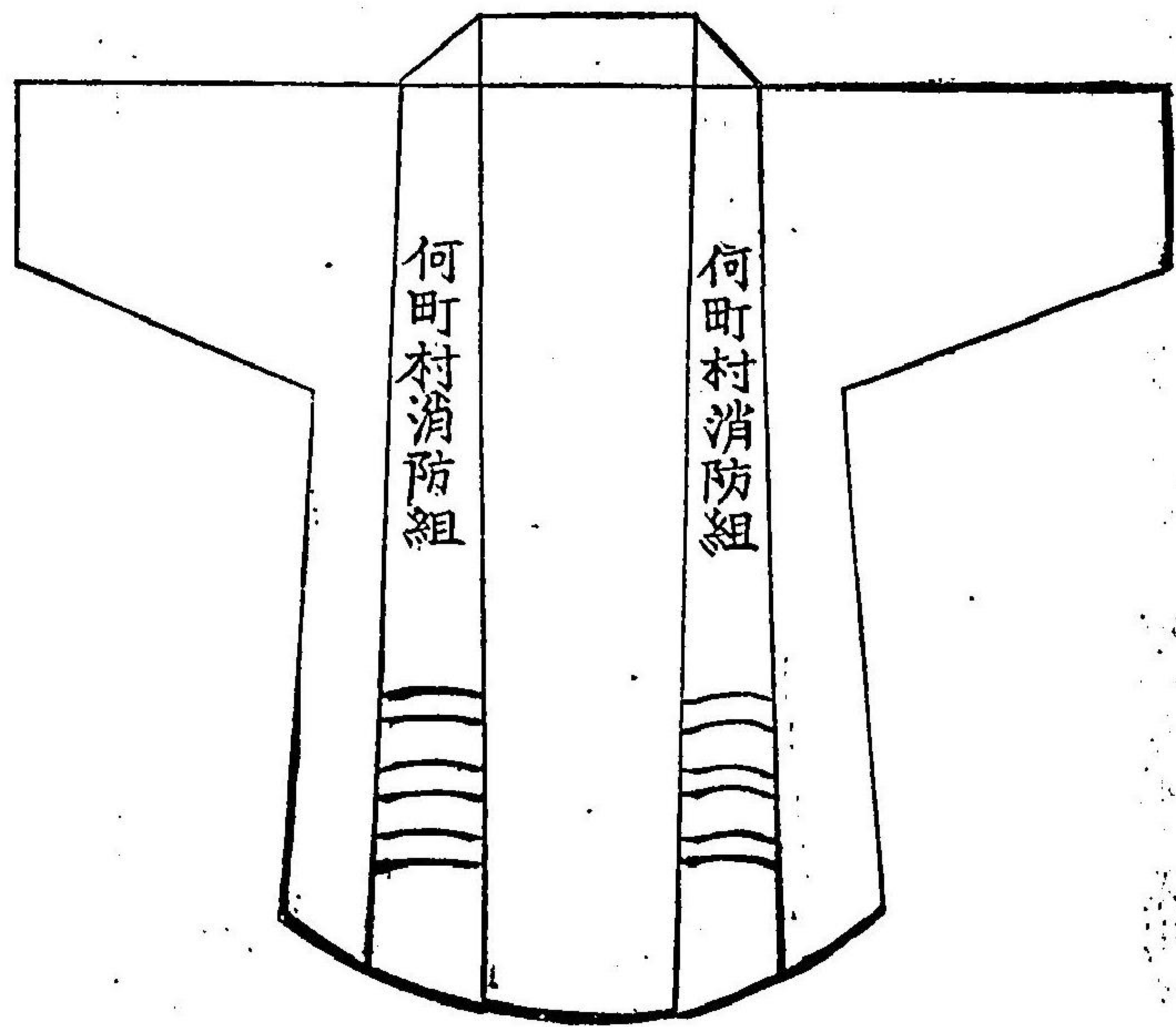
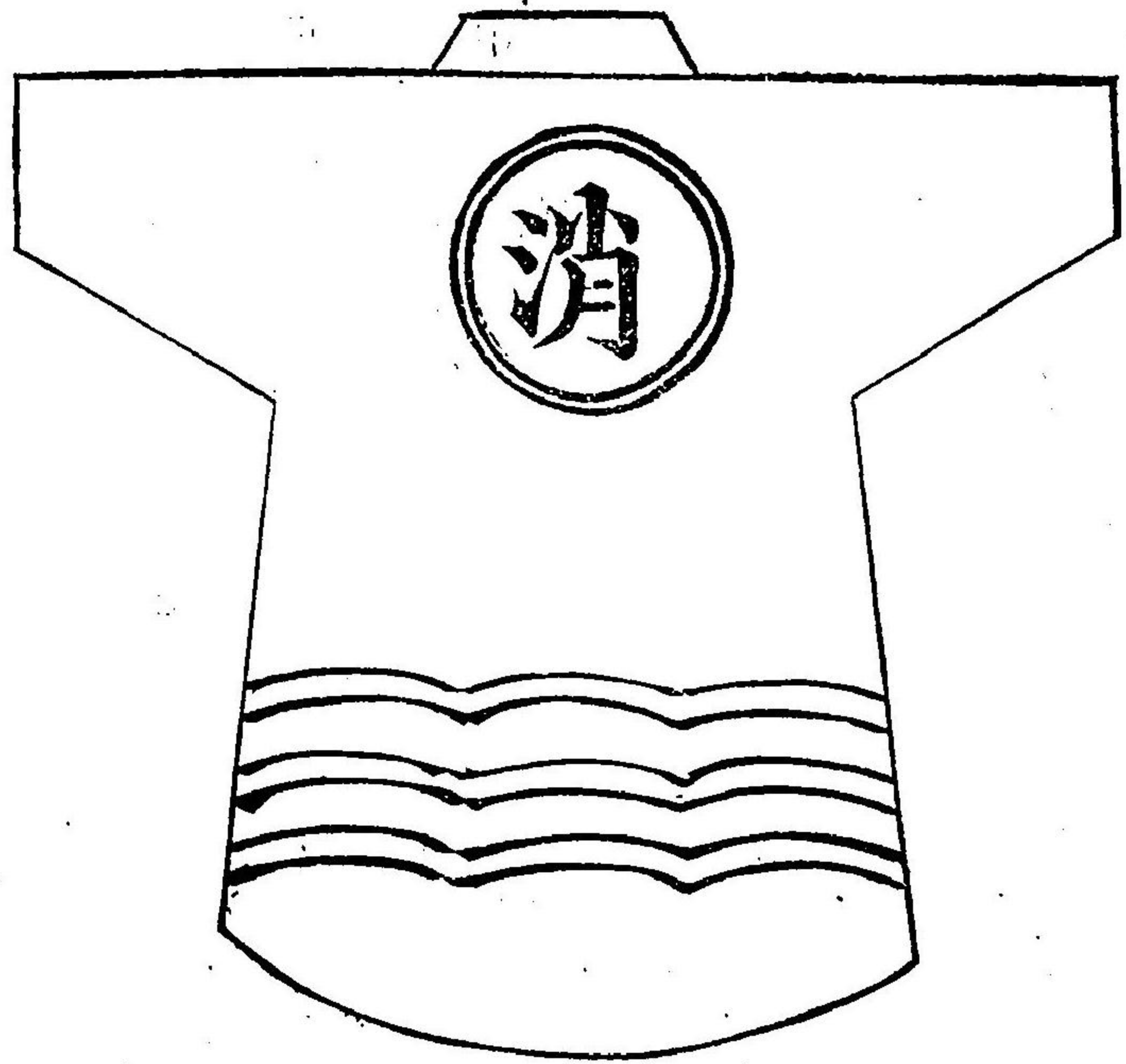
一 二點 風水震災等信號



第 二 號

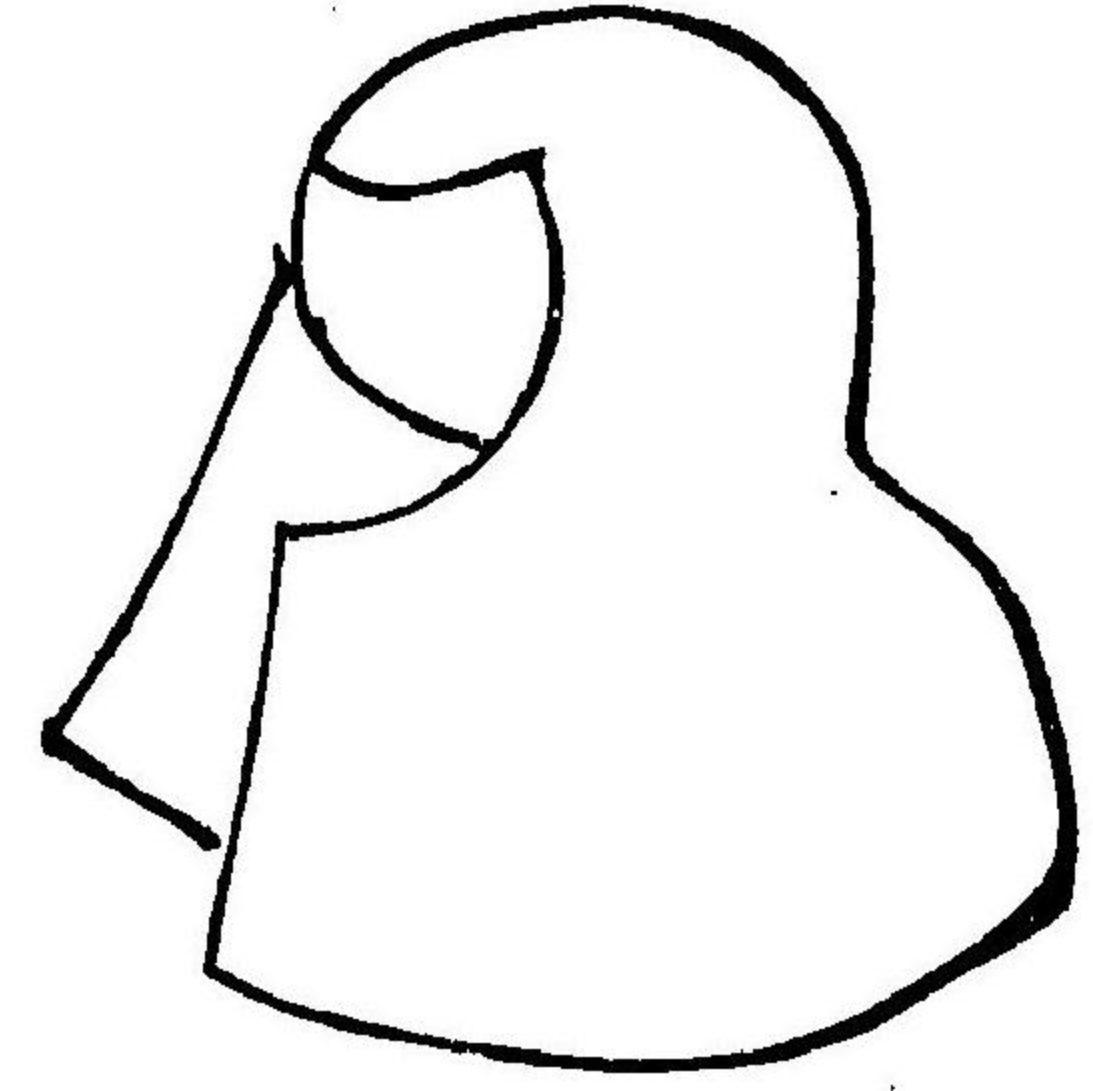
服裝ノ地質、色合文字ノ色ハ適宜合亦全シ

(五三一)

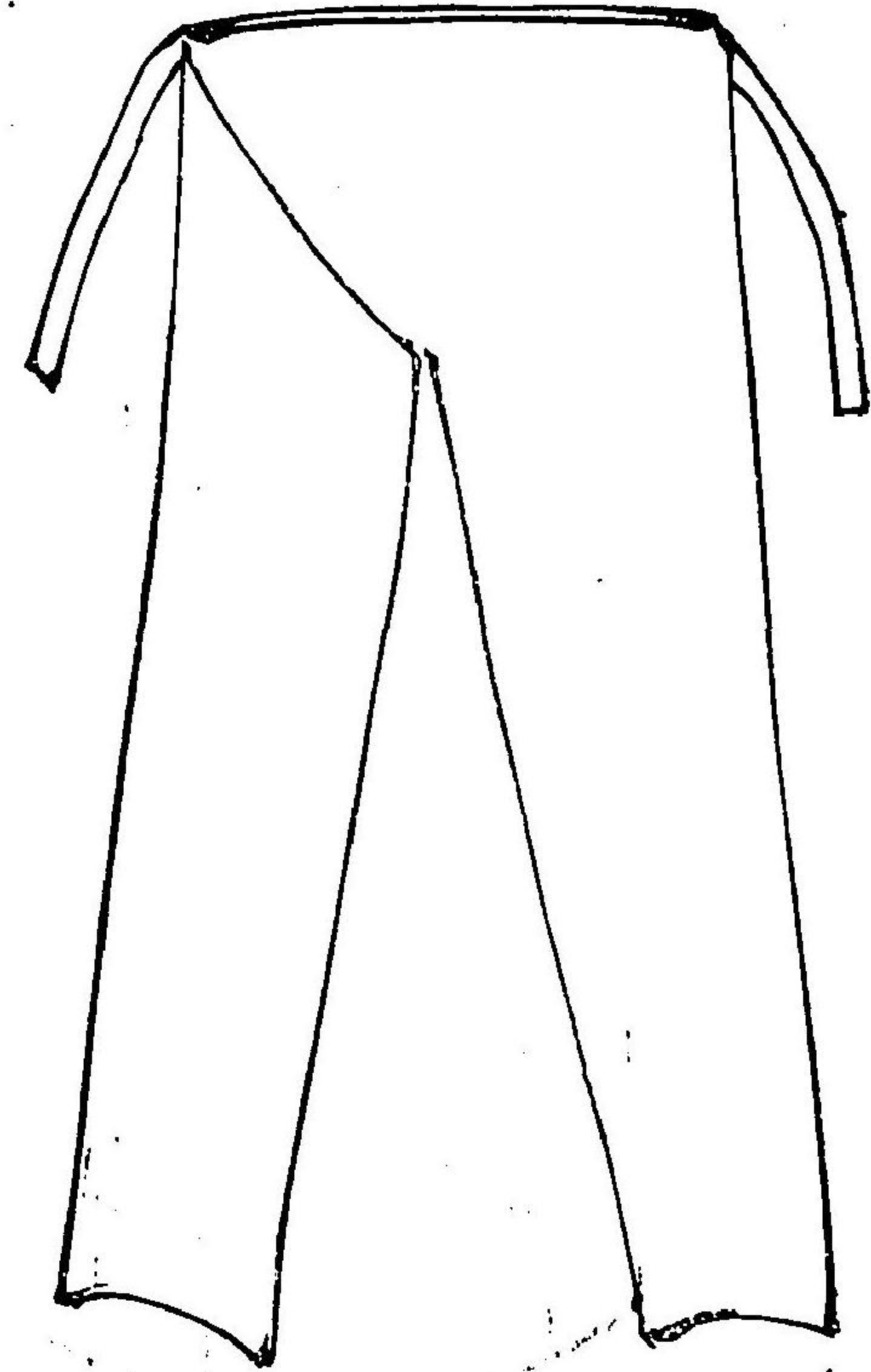


(六三一)

巾 頭



引 股



○保第一二〇四號 廿四年十二月十五日
毎年十二月三十一日現在ノ消防組人員及器械ノ員數等別紙様式ニ準ヒ調製翌年一月限リ差出サル
ヘシ

別紙様式

明治廿四年
十二月三十一日現在

消防組取調表

分 察 署

合計	全	全	全	全	全	何町	村名
	全	全	何郡 消防組	何郡 消防組	何郡 消防組	何郡 消防組	組名
							人員
							唧筒
							水雲龍
							桶運水器
							類
							蔭口
							梯子
							大槌
							小麻 <small>網</small> 大 <small>類</small>
							斧
							鍬
							旗 <small>綱</small> 及高張
							提灯 <small>提手丸</small>
							提灯 <small>提手丸</small>
							鶴背
							叉
							喇叭 <small>消口</small> 及
							螺貝 <small>消口</small> 及
							水口 <small>札</small> 及
							雜品 <small>其他</small>

(七三一)

第三編 宗教

第一章 社寺

第一款 社寺雜件

(八三一)

○本縣警第二〇三四號 各警察署長
官國幣社以下神社及佛堂古來ノ慣習ニヨリ權現號等ヲ私稱スルハ自今禁止ニ及ハザル旨其ノ筋ヨリ訓令有之候條爲心得此旨訓示ス

第二欸 教會所說教所

○保第六號 廿二年九月十九日
別紙之通神佛各管長へ訓令シタル旨內務大臣ヨリ訓令アリタリ
右訓示ス

(別紙)

訓第六二五號(內務大臣)

廿二年九月四日

神佛各管長

神佛說教之儀土地ノ都合ニ依リ地方廳ノ許可ヲ得取設タル說教所之外人民家屋等ニ於テ一時執行之向ハ別ニ出願ニ及ハス說教執行ノ者ヨリ其都度所轄警察署へ届出シムヘシ

○保第一七四號

二十三年三月十四日

說教ノ儀ニ付別紙之通內務書記官ヨリ通牒アリタリ

社乙第二號(內務書記官ヨリ知事宛通知)

廿三年二月十五日

說教ノ儀ニ付二十二年第六二五號ヲ以テ神佛各管長へ訓令有之其旨同年第六二六號ヲ以テ訓令相成候處眞宗本願寺大谷兩派管長ヨリ本宗ノ如キハ信徒家屋ニ於テ故ラニ說教ノ爲メ招請ヲナスニアラサルモ佛事執行ノ節臨時家族及親族等ニ對シ惠燈大師ノ勸文ヲ朗讀シ聞法ノ縁ヲ開クハ從來ノ例規ニ有之右ハ前記ノ訓令ニ據リ其都度所轄警察署へ届出ニ不及哉ノ段伺出本年二月一日伺之通下指令相成候條爲御心得此段申進候也

○本縣訓令庶第三二號

廿二年七月九日

警察署 警察分署

(九三一)

神佛教會所說教所取締心得別紙之通相定ム

神佛教會所說教所取締心得

第一條 神佛教會所說教所ハ郡役所ノ許可ヲ受クヘキモノニ付無願開設ノモノアルトキハ速ニ之ヲ閉鎖セシムヘシ

第二條 祠宇寺院佛堂外ニ於ケル教會所說教所ニ於テハ平素神床佛壇ヲ設クルヲ得サルニ因リ若シ之ヲ設ケタルモノアルトキハ直ニ撤去セシムヘシ但平素神床佛壇ヲ設ケ置モ說教開筵等ノ場合ヲ除クノ外常ニ該所ヲ閉鎖シ置クモノハ此限リニアラス

第三條 教會所說教所ニ於テ祠宇佛堂ニ等シキ裝飾ヲ爲シ衆庶ノ參拜ヲ招誘スル等ノ所爲アルトキハ之ヲ差止ムヘシ人民私有地ニ於テ自祭スル祠宇佛堂ト雖モ許可ヲ經サルモノ亦同シ

第四條 教會所說教所ニ於テハ日ヲ定メ大小典祭法用ヲ爲スヲ得サルニ因リ若シ之ヲ爲スモノアルトキハ直ニ差止ムヘシ但單ニ信徒ノ葬儀靈祭回向ニ止ルモノハ此限ニアラス

第五條 教會所說教所ニ於テ神佛ノ符札ヲ製シ之ヲ配付シ又ハ種々ノ名義ヲ以テ勸財ヲ爲スモノアルトキハ之ヲ差止ムヘシ

第六條 教會所說教所等ニ於テ明治十五年內務省乙第四十二號達ニ違背シ禁厭祈禱ヲ爲シ又ハ誣說妄語等ヲ傳播シ人ヲ誑惑スルモノアルトキハ之ヲ差止メ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第七條 教會所說教所以外ノ場所ニ於テ妄ニ信徒ヲ集メ說教ヲ爲シ又ハ教會所等ニ紛敷所爲アルトキハ之ヲ差止ムヘシ

第八條 前各條ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其都度郡役所及縣廳へ報告スヘシ

○訓第八九四號 廿三年十二月廿七日

內務大臣訓令神佛說教所ノ外人民家屋等ニ於テ一時說教執行ノ向ハ其都度所轄警察署へ届出シムヘキ旨明治廿二年訓第六二五及訓令候處自今該届出ヲ要セス
右訓令ス

第三款 神官僧侶

○内務省訓令第五號 二十七年二月六日

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官神職ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉競争ニ關與ス可ラス專心一意本務ニ從事セシムヘシ

○内務省訓令第六號 二十七年二月六日

布教傳道ニ從事スルモノハ超然政黨以外ニ特立スルニ非レハ政黨ノ競争ヨリシテ終ニ檀信徒ノ圓滿寺院ノ鞏固宗派ノ安寧秩序ヲ傷クルニ至ルノ恐ナシトセス殊ニ信教ヲ利用シテ政黨競争ノ器具トナスカ如キハ不隱富ノ至ニノ衆議院議員選舉法第十二條ノ精神ニモ違背スルノ嫌アルノミナラス萬一信徒ヲ誤ラシムルカ如キ事アラハ終ニ或ハ國家ノ安寧ヲ傷クルニ至ルノ虞ナシトセス依テ今回ノ衆議院議員改選ニ際シテモ教師僧侶タルモノニ於テ心得違ナキ様嚴重ニ訓諭シ置クヘシ

○内務省訓令第十八號

廿六年九月廿八日

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

神社ハ祭典祝日等ニ付闕ク可ラサル儀式モ有之且社頭管理上ニ就テモ亦夫々ノ要務有之神職ハ一切内外ノ社務ヲ併セ司ル等ニ付宮司權宮司ハ於勿論禰宜主典ト雖モ官祭ヲ始メ月次祭典等謂ハレナク闕席不相成ノミナラス日々社頭又ハ社務所ニテ各其職務ニ從事スヘキモノニ有之候條神職一同此趣旨ヲ體シ怠慢ノ所爲無之様訓示スヘシ

○内務省訓令第十二號

廿四年七月六日

北海道廳 府縣

府縣鄉村社神官奉務規則左ノ通改正ス

府縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ
第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖モ荷モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラシムヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監護シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場合ト雖モ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濶リニ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若シ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經テ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカ如キコトナカラシムルヲ要ス

○内務省訓令第十七號

廿四年八月十四日

北海道廳 府縣

官國幣社神職奉務規則左ノ通相定ム

官國幣社神職奉務規則

第一條 官國幣社神職ハ國家ノ宗祀ニ從事シ國家ノ禮典ヲ代表スル職務タルヲ以平素國體ヲ辨シ國典ヲ修メ躬行ヲ正シクシテ以テ本務ヲ盡スヘシ

第二條 官國幣社祭典ハ國家彝倫ノ標準タルヲ以テ齋肅恭敬首トシテ報本反始ノ誠意ヲ表スヘシ

第三條 祈年新嘗例祭等總テ官祭ノ典則ハ非常ノ事故ニアサレハ成規ノ時間ヲ猥リニ伸縮スヘカラス

第四條 祭祀典則ハ舊來ノ儀式ヲ遵守シ其社ノ禮祭民俗因襲ノ神賑等適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトキハ地方廳及所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

(二四一)

第五條 人民ノ請求ニ應シ神符神像等ヲ授クルハ妨ナシト雖トモ苟モ貪汚ノ所爲アルヘカラス
第六條 社殿及其境内ヲ清潔ニシ修造取締等常ニ意ヲ注キ舊觀ヲ失墜セス悠久ノ保存ヲ要ス
第七條 神社所藏ノ寶物什器古文書類等常ニ散失ナキ樣監護シ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第八條 神社ノ財産中人民ノ寄附ニ係リ永遠ノ目的ヲ以テ備ヘタル土地金穀ヲ變更セントスル場合ハ官國幣社ト雖トモ氏子又ハ講社アルトキハ其總代協議ノ上地方廳ノ許可ヲ得ヘシ
第九條 神社ニ委託山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意シ損害ヲ來スカキコトナカラシムルヲ要ス

○内務省令第四號 二十七年三月二日

第一條 府社縣社以下神社ノ神職ニシテ明治二十四年七月當省訓令第十二號府縣鄉村社神官奉務規則ノ規定ニ違背シタルトキハ北海道廳長官府縣知事之ヲ懲戒ス但右訓令ハ無格社ノ神職ニモ適用ス

第二條 前條ノ懲戒ニハ官吏懲戒例ヲ准用ス

○保第二九六號 廿四年四月八日警部長訓示

今般各宗派管長總代ヨリ管長ニ於テ寺院住職ヲ免シタルニ其寺院ヲ立退カサル者處分方上申ニ對シ右住職任免ノ事ハ明治十七年太改官第十九號ニ基キ各宗派宗制ノ規定ニ據ルモノナレハ管長ニ於テ已ニ住職ヲ免シタルニ拘ハラヌ猶其寺院立退ノ需メニ應セサル者アルキハ管長又ハ後任住職若クハ其寺院管理者ヨリ警察官ニ申立其保護ヲ請フコトヲ得ル旨内務書記官ヨリ通知相成候趣ニ付將來自然右保護ヲ請フ者可有之候條其旨心得ラヘシ

○丙乙第十四號 十七年三月七日

成第一號之通神佛各管長相達候條爲心得此旨相達候事

○丙戊第一號

十七年三月七日

神道總副裁

神佛各管長

教導職試補申付方ノ儀自今丁年未滿ノ者及犯罪其他事故有之失職或免職等ノ者ハ伺出丁年以上ノ者ハ試驗方法ヲ履行シ猶人体可否地方官ヘ協議ノ上管長限リ可申付此旨相達候事但試補申付ノ分ハ九年教部省乙第十四號達ノ通届出ヘシ
○警第二三七號 二十年二月五日
神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ篤ト取調詳細其旨申スヘシ

第四款 各社授符配付

○教部省達書甲第六號

八年五月十四日

各社授符配札ノ儀ニ付テハ七年當省甲第二號ヲ以相達候趣モ候處自今配札ノ儀ハ差止候尤該社社頭又ハ出張所等ニテ信仰ノ者ヘ授與致候義ハ不苦條他管内ノ分ハ兼而其管轄廳ヘ可届置此旨相達候事
但シ氏子等ヘ配授ノ儀ハ非此限尤モ新規出張所取設候節ハ其管廳ノ許可ヲ可受儀ト可相心得候事

第五款 托鉢

○丙甲第八號

十四年八月十五日

明治五年十一月教部省第二拾五號達僧侶托鉢禁止ノ義相廢シ候條此旨布達候事但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帶スヘシ
○本甲第百二十號 十四年九月十六日
縣甲第百二十號
僧侶以上ノモノト鉢ノ義ニ付内務省ヨリ各宗派管長ヘ別紙之通被相達候ニ付テハ方一不都合ノ所業有之候ハ、直ニ所管警察署ヘ可届出此旨布達候事

(三四一)

(四四一)

○内乙第二十八號 十四年八月十五日

府 縣

今般戊第二號ヲ以テ佛道管長ヘ別紙ノ通相達候條万一不都合之所業有之節ハ直ニ托鉢差止願末詳細取調該宗管長若クハ其地方取締ヘ通知スヘシ此旨相達候事

十四年八月十五日

佛道各宗派管長

○戊第二號 僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

托鉢免許方并托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セシキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交付シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ

一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限

一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帶シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フ許サス

一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス

一 免許證ハ何時タリトモ警察官ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形 本製 縱六寸 横二寸

表	第何號	裏
○何宗派 管長印	托鉢免許之證	○何府國郡區 縣町村 何寺住職 徒弟 何
燒印		年月日 某 年月日生

○保起第一〇六號 廿七年五月十二日

近來縣下ニ於テ奇怪ノ行裝ヲナシ深編笠ニテ面部ヲ掩ヒ恰モ昔時ノ虛無僧ニ等シキ体ニテ明暗教會東福寺伽藍再建又ハ普救會員等種々ノ口實ヲ以テ吹簫毎日ニ就キ多少ノ惠與ヲ乞ヒ或時ハ婦女子等ニ對シテハ施物ヲ強請シ乞丐ニ等シキ所業ヲ爲ス者アル趣相聞ヘ甚々風紀ヲ害シ警察取締上障害有之義ニ付自今右等ノ者徘徊スルヲ見當リタル時ハ身元等ヲ取調托鉢免許方并ニ托鉢心得二三四項ニ背カサルヤ否ヲ視察シ若シ之ニ抵觸シ又ハ一項ニヨリ通知アリタル者ハ當部ヨリ告示スヘキニ付其告示ナキ者ハ何等ノ名義アルニ拘ハラヌ一步モ假借セス相當ノ處置ヲナシ彼等ヲシテ違法ノ所業ヲ爲サシメサル様精々巡查ニ相示シ嚴重取締方注意セララルヘシ

第六款 禁厭祈禱

○本縣甲第四十七號 十三年七月廿七日

禁厭祈禱ノ儀ニ付明治七年六月教部省ヨリ神道諸宗管長ヘ別紙ノ通達相成教導職ニ於テ不都合ノ所爲ハ無之筈ニ候處間ニハ病者ニ對シ禁厭祈禱ヲ行フカ爲メ醫藥ヲ拒絕セシムルモノ有之人民ニ於テモ往々之レヲ妄信シ衛生ノ妨害少ナカラザル趣ニ相聞ヘ以テ外ノ事ニ候條心得違ノ者無之様可致自然右等不都合ノ所爲見聞候ハ、速ニ警察本分署ヘ可相出此旨布達事

[別紙]

達書乙第三十三號(教部) 七年六月七日

神道諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ク湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以テ外ノ事ニ候抑教導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候條ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戾シ改治ノ障碍ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者法之様屹度取締可致此旨相達候事

○内乙第四十二號

十五年七月十日

府

縣(沖繩縣)

(五四一)

別紙戊第三號之通神道副總裁
神佛各管長へ相達候條今後違背之輩有之候ハ、直ニ差止置委詳當省へ具狀可致此旨相達候事

(別紙)

戊第三號 十五年七月十日

神道副總裁、神佛各管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達ノ趣有之候處病者治療ノ際之カ爲投藥ノ時機ヲ誤候儀有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相達候事

○本縣乙第二十七號

十六年二月十五日

郡、町村役所

禁厭祈禱之儀ニ付テハ明治七年七月本縣甲第五十四號達同十三年七月甲第四十七號布達ノ次第モ有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合ノ事ニ付今後信者ヨリ請求候節ハ先ツ服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦旨神道副總裁神佛各管長へ相達候旨其筋ヨリ達有之候條自然違背ノ者モ候ハ、直ニ差止置委詳當廳へ具狀可致此旨相達候事

○本縣甲第卅四號

六年十二月十五日

各區正副戶長

維新以來神佛混淆取分且盲人ノ官職廢止ノ儀 被仰出候ニ付テハ從前坐頭ノ輩御趣意體認追々改産可致筈ノ處中ニハ祈禱或ハ荒神祓ト稱シ竈神ニ向ヒ佛經ヲ讀誦シ爲其報謝米錢等領収候者有之趣不相濟事ニ候依テ自今屹度令停止候條各自一箇ノ産業相營 朝旨遵守致候様本人ハ勿論父兄親族隣保ノ者共へ懇篤ニ可申諭此段相達候事

第四編 衛生

第一章 傳染病

第一款 傳染病豫防規則

○布告第三十四號 十三年七月九日
明治十二年八月第三十二號虎列刺病假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埤利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戶長ニ通知スルヲ要ス戶長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ノ府廳及ヒ警視本署ニ届出ヘシ但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戶長ニ通知スルモ妨ケナシ

第三條 地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治愈死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ

第四條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

第五條 (削除)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戶長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶タ

シムヘシ但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、及ヒ水道及厠園、芥溜、下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナル時ハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ検査委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルキハ總テ検査委員ニ届出ヘシ但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ
第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得
虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホ、サル様遮斷シ得ヘキモノト見認ルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得但要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病

第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十二條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條 發疹窒扶私病者アルキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

痘瘡病

第二十條 發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルキハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

第一款 傳染病豫防心得

○縣令甲第六十二號

廿三年十一月廿四日

傳染病豫防心得書別冊頒布ス自今豫防ノ方法ハ此趣旨ニ基キ施行スヘシ
但明治十四年^{十二月}甲第百七十六號布達傳染病者取扱心得書ハ廢止ス
(別冊)

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財產ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其町村ニ傳染病者發生スルヲアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラシムコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スベカラサルノ勢ヲナスヲ其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ町村共同ノ方法モ其全効ヲ收ムルヲ能ハサルナリ

以上ハ豫防實施上町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要料ニシテ若シ其流行數町村ニ及フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務メサルヘカラス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ舉ケタルモノナレバ總テ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概ネ數年若クハ數十年ヲ隔テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思フ爲スト雖モ傳染病毒ハ

不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上地下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル等萬全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免ル、能ハス故ニ就中市街地ニ於テハ銳意上地下水ノ改良工事即チ水道溝渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總則

第一條 町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法攝生法、其他傳染病豫防法ノ事ニ就キ規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス

第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲サハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス

第三條 町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室器具被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラサランコトヲ要ス

前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナランコトヲ要ス
第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍、看病人、患者ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服、器具等消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防

法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ知事ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコトハ世人普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ含ムカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ絶ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
- 八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ

取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條 虎列刺發生シタルハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル町村ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用フルコト
- 五 總テ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト
- 第三條 虎列刺流行ノ際下利若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳、又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ
- 第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ
- 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ
- 二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ命示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト
- 三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之

- 四 交通遮断中ハ町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ区域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト
- 五 患者治愈若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮断区域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮断ヲ解除スルコト
- 六 遮断区域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮断ヲ解除スルコト
- 第五條 交通遮断区域内若クハ會テ虎刺列ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テ左ノ方法ニ據リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト
 - 一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト
 - 二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ焼却シ若シ焼却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周ネク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
 - 三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト
 - 一 家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光空氣ニ曝スコト
 - 二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト
 - 三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
- 第六條 虎刺列流行ノ虞アルトキハ其町村又ハ郡ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルコトヲ要ス
 - 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚滌シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
 - 二 路傍便所及共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
 - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡町村吏員及警察官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒

ノ事ヲ擔當セシムルヲ要ス

腸窒扶私

腸窒扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ虎刺列病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰漫シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎刺列ト畧ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十三年以來十年間全國ノ患者三十一万餘死亡七万餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎刺列ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防セシムルコトニ怠ルナカラシムルヲ要ス

第一條 腸窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者ノ自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服臥具、敷物、飲食器、其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

- 八 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セル様注意スルコト
- 九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト
- 第二條 腸窒扶私發生シタルハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル町村ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但已ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ之ヲ用フルコト
- 五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 腸窒扶私患者續々發生スルトキハ其町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
- 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
- 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
- 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸窒扶私ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ畧ホ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テ

ハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス
抑本病ハ腸窒扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間全國ノ患者數殆ド二十萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢ヲナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸窒扶私ニ於ケル如クナランヲ要ス

實布埤里亞

實布埤里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

- 第一條 實布埤里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スル事
- 二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ屢々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆ヲ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、コト
- 六 患者ノ便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ

- 七 患者ノ玩具飯食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條

實布埤里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 但衛生組合ノ設ケアル町村ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
- 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
- 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第三條

實市埤里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
- 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト
- 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
- 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
- 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト
- 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト

- 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
- 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、甕等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條

前條ノ場合ニ於テハ醫師、町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅疾ナルモノナリ其一夕ヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛烈トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救療法ノ普及ヲ急ルヘカラス

第一條

發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若シクハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ絶ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器、其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組

- 合ノ設アル町村ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
 - 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
 - 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
 - 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
 - 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 發疹室扶私患者續々發生アルトキハ其町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
- 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
 - 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ舍レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出テ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セシムルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖モ再三之ヲ反復セサレハ其効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保母、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘瘡ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキコトトス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニテハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト
 - 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
 - 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
 - 四 患者自宅ニ於テ消毒看病人届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
 - 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落痂及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ藁、鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト
 - 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
 - 十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防クコト
 - 十二 患者ノ痘漿落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス
- 第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル町村ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
 - 二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト
 - 三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒法

傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性狀ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ合リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室內ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室內ノ空氣ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實地ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、汽熱、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法トヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラシムコトヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒盡スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラザル品ハ成ルヘク燒却スベシ

第二 汽熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱汽ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱汽消毒器中ニ入レテ熱汽ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱汽ヲ周ネク通シテ消毒スベシ

毒スヘシ

熱氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱汽ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其第一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿チテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿サテ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シクス故ニ町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ 例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ昇水ヲ用フレハ 危險ノ虞 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スベシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋、貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

- 一 本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ラント要ス
 - 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スベシ
 - 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スベシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
 本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量
 二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場
 合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸五分、水九百九十四分
 昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ
 故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍
 色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス
 又本品ハ飲食器、臥具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ
 成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ
 消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス

本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗
 滌スヘシ

甲 乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ビヘカラス」ト票記スヘシ

丙 生石灰 生石灰十分、水九分
 生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸壁扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、
 下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又
 石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用
 ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水 即チ鹽化(廿倍)格魯兒石灰五分、水九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶
 硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ
 但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ入ルレハ糞便沸騰シテ
 ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分テテ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰、金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量
 スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰ナリハ消毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス本品ヲ製スルニハ五十
 分ノ水ヲ取リ絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製ス
 ヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者
 傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシ
 ムヘシ

第二 死體
 傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等
 看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭
 酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ污垢ナキ様注意シ
 置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器
 患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周ネク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸壁扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分ノ一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナリヲ灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周ネク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ消却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ニ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疎通セシムヘシ

第六 被服、器具、疊、敷物等

- 一 傳染病者ノ着用セル衣服及ビ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室內ニ在リタル諸器具ノ類
- 一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着用セル汚服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等
- 一 患者ノ居室內ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必用ト認メタルモノ
- 一 右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス
- (一) 涼熱消毒スヘキ物品ニ應ジ攝氏百度以上ノ熱流ヲ三十分乃至一時間以上周子ク通セシム
- (二) 煮沸熱湯中ニ三十分
- (三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

(四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ二十時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

- (一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス
- (二) 乾布拭淨 乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭淨シ其乾布ハ速ニ燒却ス
- 其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス
- 木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス
- 漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ヲ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ
- 革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ例之ハ患者ノ吐瀉物瀉下物ノ浸潤セルモノ虎列刺、發疹、赤痢、痘瘡患者ノ病室內ニ敷キアタルモノノ類ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室內ノ疊、敷物ヲ揚ケ此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ室內各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室內各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入空氣ノ流通ヲ良クシ室內ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀉車

虎列刺患者アリタル瀉車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭酸屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車內ノ消毒ハ前項患者室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及ヒ他ノ

船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇水又ハ石灰酸水ヲ周ネク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ丁寧ニ洗淨シ成シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ至ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖トモ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ

一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石灰酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滞留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

第二款 赤痢病豫防法

○保二七四號 廿五年四月廿日

赤痢病豫防並消毒之義ニ付本月十一日別紙之通郡役所へ訓令相成候條右趣旨ニ依リ豫防消毒等嚴密行届候様取締方注意セララルヘシ

(別紙)

○本縣訓令參第二五號

廿五年四月十一日

郡 役 所

赤痢病ノ義ハ近年縣下各地ニ發生シ就中去年明治十八年同廿一年ノ如キハ稍流行ノ兆アリシカ昨廿四年ニ至リ遂ニ未曾有ノ大流行ヲ極メ不容易慘狀ヲ現出セリ其原因種々アルヘシト雖モ要スルニ本病ハ虎列刺病ノ如ク病症猛烈ナラサルヲ以テ各自豫防上周到ナラサルニ因ルモノ、如シ依テ町村並町村衛生組合ニ左ノ豫防方法ヲ特ニ實行セシメ該病患者發生スルニ當リテハ主務吏員ヲ派遣シ豫防消毒ノ實施ヲ監督スルハ勿論町村吏員ニ實施方法ヲ指示誘導シ本病防遏ヲ勉ムヘシ

町村ニ於テ擔當履行スヘキ事項(内ハ主任者ニ於テ就明チ付シタルモノナリ)

一 町村ニ於テハ避病所ヲ設ケ置キ初期發生ノ患者ニ在テハ假令自宅治療ヲ爲シ得ヘキモノト雖モ可成入院治療セシムル事

一 赤痢病ハ最モ傳染シ易キ甚タ危險ナル疾病ナルヲ以テ初期發生ノ患者ニ於テハ最モ注意ヲ加ヘ速ニ隔離治療ヲナサシメ防遏スルヲ以テ眼目トス故ニ豫メ避病所ヲ設ケ置キ自宅ニ於テ消毒看病行キ届キ難キモノハ勿論假令自宅治療ヲ爲シ得ヘキ者ト雖モ可成隔離治療ノ爲メ入院セシムルヲ要ス

一 避病所ハ常ニ設ケアルモノハ之ヲ用ヒ否ラサルモノハ新規設置スルモ又ハ適當ノ寺院民家ヲ假用スルモ其町村ノ便宜ニ任ス尤モ其區域ハ一町村限又ハ大字限小字限ニ設置スルモ是又實際ノ便宜ニ任ス

一 赤痢病患者アリタル町村内ノ糞池肥料溜ノ如キ下泄物ヲ投シタル箇所ハ當時消毒法ヲ施行スルハ勿論該病終熄ノ後必ス石灰乳生石灰ヲ充分濯キ攪拌スル事

一 赤痢病ハ專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノナレハ之ヲ消毒スルハ極テ緊要ナリトス故ニ其當時ノ消毒ヲ以テ足レリトセス其殘毒ヲ滅盡スル爲メ尙終熄後ニ於テ再ヒ嚴密ナル消毒法ヲ施行スルモノトス

一 赤痢病發生ノ時季五月六月ニ先チ消毒の大清潔法ヲ實施スル事

一 赤痢病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖スルヲ以テ發生ノ時季ニ先チ消毒の大清潔法ヲ施行スルヲ要ス

一 町村内ノ醫師赤痢病患者又ハ其疑似症ト診定シタルトキハ其病家ニ對シ豫防消毒ノ方法及ヒ患者ノ下泄物其他之レニ汚染シタル物品ヲ散逸セシメサル様示諭スヘキ旨特ニ醫師ニ注意ヲ與フヘキ事

一 醫師ハ傳染病豫防心得書總則第二條ニ依リ傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通

知ヲ爲スハ勿論豫防心得書ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルハ無論ノ義ナレモ間ニハ注意ヲ欠クモノナキニ非ラサルヲ以テ特ニ町村長ヨリ注意セシムルモノトス

初メ赤痢疑似症ト診断シタル患者ニシテ後赤痢病ノ届出ヲ爲スモノ間々アリ是等ハ當初消毒ノ機會ヲ失シ傳染ヲ來シタルモノ少カラズ故ニ其疑似症ト診断シタル片ニ於テ病家ニ對シ本病同様ノ消毒ヲ施行セシムルヲ緊要トス

一町村内ニ赤痢病患者四五名發生シタル場合ニ在テハ豫防事務所ヲ設ケ患者ノ處分及下泄物ノ消毒等ニ關スル事務ヲ取扱フヘキ事

「傳染病ノ取締ハ初發ニ當リ嚴密ノ處置ヲ施シ防遏セサルトキハ忽チ他ニ傳播シ又如何トモ爲ス可ラサルニ至ル故ニ町村内ニ赤痢病患者四五名發生シタル場合ニ在テハ速ニ豫防事務所ヲ設ケ委員ヲ置キ患者ノ處分下泄物ノ消毒等ニ關スル事務ヲ敏捷ニ取扱ヒ病家ニ對シテハ極テ親切ナランコトヲ要ス

委員中ニハ傳染病豫防心得書ニ據リ便宜醫師ヲ加ユルヲ可トス

衛生組合ニ於テ履行スヘキ事項

一赤痢發病ノ際ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クル事

「赤痢病ハ虎列拉病ノ如ク猛烈ナラサルヲ以テ發病ノ初醫師ニ治療ヲ受ケスシテ(間ニハ賣藥ヲ服用シ又ハ加持祈禱ニ依頼シテ治療ハ受ケサルモノアリ)重症ニ陥ルニ及テ始テ醫師ノ治療ヲ受クルモ醫師ニ於テ又如何トモ爲ス可カラズ遂ニ非命ニ斃ルモノアリ隨テ排泄物等ニ消毒ヲ施サ、ルヲ以テ傳染ヲ來スニ依リ發病ノ際ハ瞬速ニ醫師ノ治療ヲ受クルヲ要ス若シ貧民ニシテ醫療ヲ受クルニ躊躇スルモノアルトキハ町村長ノ差圖ヲ受クルモノトス

一組合中例ヘ壹名タリトモ赤痢病ト認ムル患者アリタルトキハ朝夕二回石灰乳若クハ生石灰ヲ糞池ニ撒布スル事

但赤痢病ニ疑ハシキ病症ト認メタル患者アリタルトキハ本文同様ノ事

「組合中例ヘハ一名タリトモ赤痢病又ハ同病ニ疑似ノ病症ト認メタル患者發生ノ時ハ生石灰ハ組合内ノ申合ヲ以テ速ニ各家ニ備フヘシ若シ貧民ニシテ買入ヲ爲シ得サルモノアルハ町村長ノ差圖ヲ受クルモノトス」

一赤痢病患者ノ下泄物及ヒ之ヲ拭ヒタル布片等ハ切藁又ハ糶等ヲ混シ之ニ石油ヲ灌キ燒却スル事但其下泄物流動体ナルトキハ石灰乳ヲ灌キ能ク攪拌シタル後燒却スル事

「病毒ノ滅盡ヲ謀ルニハ燒却スルヲ最良トス故ニ本項ノ手續ヲ實行スヘシ」

一患者ノ衣類及臥具等ハ下泄物ノ付着セサル様ニ充分注意ヲ加ヘ若シ汚染シタル疑アルトキハ直ニ消毒スル事

「病毒ハ患者ノ衣類臥具ヨリ他ヘ傳染スル事アルハ汚染シタル物品ノ消毒不十分ナルニ因ルモノナレハ汚染シタル疑アルトキハ直ニ充分ノ消毒ヲ行ヒ決シテ河渠又ハ飲料水ノ近傍等ニテ洗濯ヲ爲サシメサルモノトス」

一患者ノ下泄物ヲ取扱ヒタル看病人等ハ充分ノ消毒ヲ施行シタル後ニ非ラサレハ飲食物ノ取扱ヲナスヘカラサル事

「看病人等患者ノ下泄物ヲ取扱タル後充分ノ消毒ヲナス飲食物ノ取扱ヲ爲シ他ヘ傳染ノ例モ少カラズ故ニ飲食物ノ取扱人ハ別ニ定ムルヲ可トス然レトモ不得已場合ニ於テハ本文ノ如ク實行スルモノトス」

一看病人ハ成ルヘク強壯ニシテ曾テ赤痢病ニ罹リタル者ヲ撰ム事

「赤痢病ハ一回之ニ罹リタルモノハ再感シ易シトノ說アレトモ實歴ニ依レハ一回該病ニ罹リタルモノハ再感スル少キヲ以テ看病人ハ強壯ニシテ曾テ該病ニ罹リタルモノヲ擇ムモノトス

看病人ハ患者ノ取扱排泄物ノ消毒並ニ自己ノ守ルヘキ豫防法ヲ心得ヘキモノトス」

一赤痢病患者アル家ニハ一切交通セサル事

但親族等ニテ不得已交通スルコトアルモ病家ニ於テ決シテ飲食セサル事

「患者ヲ慰問スルハ情義上當然ノ事ナレモ赤痢病者アル家ニ交通シ殊ニ飲食セシモノ多ク病毒ニ感染シ夫ヨリ傳播セシ事實アルニ因リ親族又ハ不得已者ノ外ハ交通ヲ爲サシメサルモトス」

一赤痢病死者ノ葬儀ニ會葬セサル事

但假葬儀ヲ行ヒタルモノ數日ヲ經テ本葬儀ヲ爲ス場合ニ於テハ會葬スルモ妨ケ無之事

「葬儀ハ人事ノ一大儀ナレハ情義上之ニ會葬スルハ元ヨリ當然ノ事ナレトモ葬儀ニ會シ殊ニ死者ノ家ニ於テ飲食セシモノ多ク病毒ニ感染シ夫ヨリ傳播セシ事實アルヲ以テ會葬ヲ爲サシメサルモノトス」

一赤痢病死者ニハ沐浴セシメス消毒ノ上入棺スル事

「死体ニ沐浴セシメタル汚水ヲ床下等ニ流シ爲ニ病毒滋蔓ノ虞アルヲ以テ沐浴セシメス消毒ノ上入棺セシムルモノトス」

第四款 傳染病届出手續

○縣本第十八號

十八年四月廿九日

傳染病届方手續左ノ通知改正候條此旨布達候事

但明治十三年^{十二月}甲第百三十三號同十六年^{六月}甲第十九號布達ハ廢止ス

傳染病届方手續

第一條 醫師ニ於テ虎列刺腸室扶斯赤痢實布埜里亞發疹室扶斯痘瘡ノ六病ヲ診斷シタルハ第一號書式ニ依リ通知書ヲ作り戶長ニ差出ス可シ但土地ノ便宜ニ依リ直ニ所管警察署又ハ分署ニ届

出ルハ第二號書式ニ依ル可シ此場合ニ於テ警察署又ハ分署ハ該届書ヲ以テ戶長ニ通知ス可シ

第二條 戶長ハ前條ノ通知書ニ署名捺印シテ郡長ノ宛名ヲ記入シ郡長ニ差出ス可シ郡長ハ之ニ添

書ヲナシ^{探防着手其他緊要ノ事件ハ}縣廳ニ届出ツ可シ但戶長ハ醫師ノ通知ヲ得レハ所管警察署又ハ分署

^{此添書中ニ開申スルヲ要ス}縣廳ニ届出ツ可シ

別途急報ス可シ

第三條 傳染病者治癒死亡ノ節醫師ハ第三號書式ニ依リ通知書ヲ作り戶長ニ差出ス可シ戶長ハ之

ニ署名捺印シテ郡長ノ宛名ヲ記入シ郡長ニ差出ス可シ郡長ハ之レニ添書ヲナシ縣廳ニ届出可シ

但戶長ハ治癒死亡ノ通知ヲ得レハ所管警察署又ハ分署ニ別途急報ス可シ

(第一號書式)

傳染病通知書

▲印ハ朱書
▲職業ハ各本人ノ現業ヲ明記スヘシ例ヘハ農業主(農ニシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕作スル者トチ區別シ又婦女老幼等ニシテ職業ナキ者ハ戶主何職業ト記スヘシ第二號書式モ亦同シ

▲他ヨリ寄留又ハ通過ノ旅人一時滯泊ノ者等ハ其原籍ヲ併記スヘシ第二號書式モ亦同シ

何郡何町村字身分職業
某父兄子弟等ノ類

氏

何年何月

病名

何月何日發病

何月何日何時診斷

原因ノ大略

病勢ノ強弱

▲痘瘡ナラハ未種痘初種痘再三種痘ノ別ヲ此ニ掲クヘシ第二號書式モ亦同シ

右及御通知候也

何郡何町村醫

氏

名印

年月日時
戶長御中

(第二號書式)

傳染病届

病名

何郡何町村字何身分職業
某父兄子弟等ノ類

(四七一)

何月何日何時發病
何月何日何時診斷
原因ノ大略
病勢ノ強弱
右及御届候也

氏 名
何年何月

年月日時

何警察署(何分署)御中

何郡何町村醫 氏 各印

(第三號書式)

傳染病者^{全治}死亡通知書

何郡何町村 氏 名

病 名

何月何日發病

何月何日^{全治}何時死亡

右及御通知候也

何郡何町村醫 氏 名印

年月日

戶長御中

○本縣甲第十九號 十八年四月二十九日

醫師ニ於テ麻疹變痘ノ二病ヲ診斷シタル時ハ傳染病届書式ニ準シ通知書^{發病治癒死亡}ヲ作リ戶長ニ差出ス可シ戶長ハ之レニ署名捺印シテ郡長ノ宛名ヲ記入シ郡長ニ報告スヘシ郡長ハ之レニ添書シテ縣廳ニ差出ス可シ此旨布達候事

但戶長ハ醫師ノ通知ヲ得レハ所管警察署又ハ分署ニ報告スヘシ

第五款 傳染病避病院設置手續

傳染病避病院設置手續

○本縣甲第七十三號 十四年十二月十七日

傳染病避病院設置手續別紙ノ通相定メ候條此旨布達候事

但明治十二年七月庶布第六十二號布達虎列拉病避病院假規則ハ廢止候事

(別紙)

傳染病避病院設置手續

第一條 本院ノ位置ハ人家並ニ道路^{往來稀疎ノ細路}井泉河流等ニ接近セスシテ運搬ニ便利ナル地ヲ

擇フヘシ但監獄火葬場墓地等ノ跡ハ用フヘカラス

第二條 本院ノ構造ハ空氣ノ流通ヲ主トシ其床ヲ高クシ窓戸ヲ闊大ニシ且板壁ヲ用フヘシ

第三條 本院ノ廣狹ハ大約人口千人ニ患者壹人ノ割合ヲ以テスヘシ但建坪ヲ增加スルヲ得ルノ餘

地ヲ豫メ計畫シ置クヘシ

第四條 病室ハ重症輕症快復期ノ病者ヲ區別シテ之ヲ分隔シ二坪ニ患者壹人ヲ置クヲ常トシ縱令

病者輻輳ストモ壹坪ニ壹人ノ割合ヨリ狭クスヘカラス但醫師詰所事務所看病人詰所等ハ便宜ニ

之ヲ設クヘシ

第五條 本院ニハ簡易ノ薰蒸室ヲ設クヘシ其構造ハ凡一二坪許ノ小室ニシテ薰蒸漏散セサル様密

閉シ得ヘカラシメ其中ニ竿ヲ架シ或ハ繩ヲ張り衣服等ニ掛クルニ便ニス其小ナルモノハ尋常ノ

戸棚ヲ以テ換用スヘシ

第六條 本院ノ門側ニハ風呂ヲ設ケ見舞人看病人等外出ノ時入浴ノ用ニ供スヘシ

第七條 本院ニハ別ニ清淨ナル屍室ヲ設ケ病者若シ死亡シタルハ直チニ此ニ移サシムヘシ但屍

(五七一)

- 室ハ親族ノ吊者ヲ容ル、餘地ヲ設クヘシ
- 第八條 看病人ノ員數ハ重症ノ病者二人ニ壹人ヲ附シ輕症ノ者ニハ四人ニ壹人ヲ附シ其快復ニ趣ク者ハ六人ニ壹人ノ割合ヲ以テ便宜斟酌シ晝夜交代セシムヘシ
- 第九條 醫師ハ病勢ノ輕重患者ノ多寡ニ從ヒ臨時其員數ヲ定ム尤モ晝夜共醫師壹名ヲ缺クヘカラス
- 第十條 本院ニハ病名票ヲ掲ケ漫リニ外人ヲシテ出入セシムヘカラス
- 第十一條 本院掛員ハ日々入院患者及ヒ全治死亡ノ數ヲ取調郡役所ヲ經テ縣廳ニ報告スヘシ
- 第十二條 病者ノ親族交友ハ其見舞ヲ許スヘシト雖モ室内ニテ飲食セシムヘカラス且吐瀉物痰唾汚穢物等ニ觸接スルヲ禁スヘシ
- 第十三條 病者ノ親族交友等看病ヲ爲サンコト望ム時ハ貳人ヲ限リ之ヲ許スヘシ
- 第十四條 本院ニ需用スル一切ノ物品ハ小使ヲ定メテ之ヲ辨セシメ其小使ハ病室ニ入り又ハ病毒汚染ノ物品ニ觸ル、ヲ許サス
- 第十五條 醫師ノ診察ハ晝夜三回以上トス尤モ病者ヨリ診察ヲ乞フキハ病症變換アルキハ臨時診察スヘシ
- 第十六條 病者危篤ニ至ルキハ速ニ其家ニ通知シ死亡スルキハ成ルヘク入棺セサル前ニ其死体ヲ家族ニ示スヘシ
- 第十七條 汚穢物及ヒ死体取扱並ニ消毒法等ハ傳染病者取扱心得書ニ據ルヘシ但醫師ハ傳染病者取扱心得書^{虎列拉}廿八條ニ依リ消毒法ヲ行フヘシ
- 第十八條 病者全治ノ後ハ醫師ヨリ全快證書ヲ與ヘ退院セシムヘシ
- 第十九條 本院臨時假築ニシテ保存スヘカラサルモノハ該病終熄ノ後之ヲ取毀ツヘシ尤モ其前ハ汚穢シタル板敷板壁及ヒ柱等ハ濃厚石炭酸水又ハ亞硫酸溶液ヲ以テ充分ニ洗淨シ數日間開放シテ大氣ニ曝スヘシ其保存スヘキモノハ嚴ニ消毒法ヲ行フヘシ
- 第二十條 在來ノ家屋等ヲ以テ假避病院ニ當テタル時ハ總テ前條々ニ準スヘシ

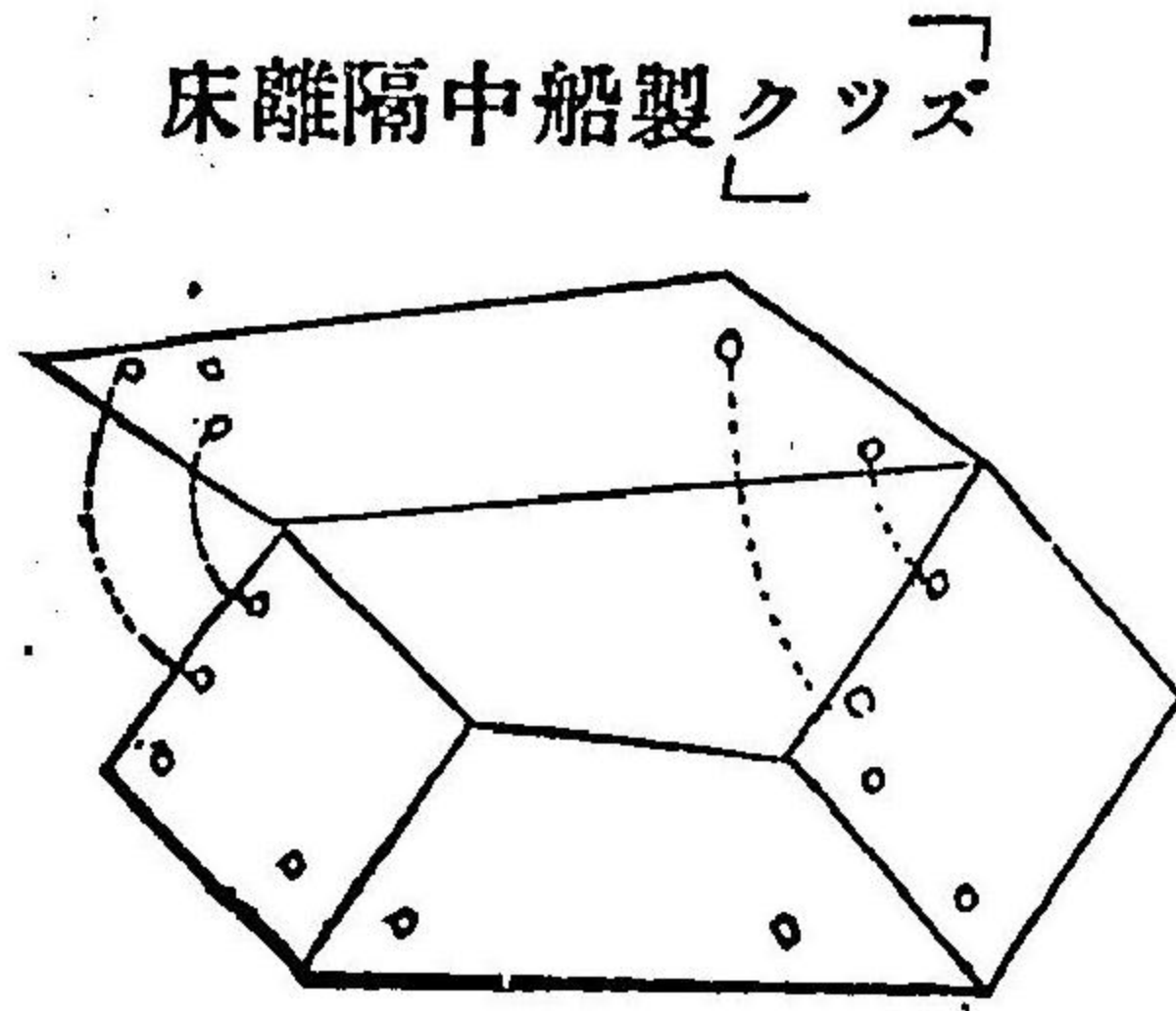
第六款 黑死病ノ件

廿七年六月六日

○黑死病豫防消毒法要領

- 船隻ノ檢疫ヲ實施スヘキ諸縣へ出張ヲ命セラレタル内務屬柳下士與氏カ本邦醫學博士並ニ汽船「ベリニ」乗組醫師ニ就キ聞キ得タル黑死病症候及香港流行ノ景況ニ基キ地方主務官ニ協議セシ事項中該病豫防消毒法ノ要領左ノ如シ
- 第七、傳染 病中ハ傳染力格別強カラサルモ死後ニ至リテ感染力甚タ旺盛ト爲ル且ツ絹、毛、麻ノ類ハ傳染ノ媒介ヲ爲シ易ク鑛物類ノ光澤アルモノハ大ニ媒介シ易カラスト云フ要スルニ本病ハ主トシテ汚穢ヨリ來ル病ナリ故ニ普通ノ清潔法ヲ實施シ衛生規則ノ履行セラル、所ニハ侵入スルヲ得ス又成立スルヲ得ス日々患者ト接スル病院ノ醫師、看護人及取締、巡查等ハ敢テ心苦ノ徴ヲ現サスト聞ク
- 第八、豫防 一 清潔法ヲ施行シ之ヲ持續スル事
 - 一 公私設便所ニ對シ一週二三回消毒ヲ行フ事
 - 一 患者死者特ニ死者アルヲ速ニ知リ得ヘキ法ヲ設クル事
 - 一 貧困者ノ病ニ罹リタル際速ニ醫療ヲ受ケ易カラシムル事
 - 一 避病舍若クハ隔離所ヲ設置シ本病若クハ疑似患者アリシ際速ニ隔離スル事
 - 一 豫メ消毒藥ヲ開業醫ニ配付シ置キ本病及疑似患者アリシ際先ツ診察シタル醫師ハ直ニ業務上ノ責任トシテ官衙ノ消毒以前ニ第一回ノ消毒ヲ行フ事
 - 一 醫師ニ於テ本病及疑似患者ヲ診察セントキハ前項消毒ハ勿論尙ホ家人ニ説諭シ看病人ノ外ハ其患者ニ近接セシメサル事
 - 一 患者ハ勿論其他蔓延ヲ防キ得ヘキト看認ムルトキハ其市街村落ノ一部若クハ全部ノ交通遮斷ヲ行フ事
 - 一 患者及死者ニ用ヒタル衣服等ハ成ルヘク燒棄スル事

死者ハ必ス火葬セシムル事
 死體ヲ火葬送シ能ハサルトキハ昇永水若クハ石炭酸水ヲ以テ十分ニ消毒ヲ行ヒ而シテ堅
 牢ナル棺ヲ製シ其内部ハ格羅爾石灰ヲ布キ死體ヲ收メ尙ホ同藥(即チ格魯爾石灰)ヲ以テ
 其周圍ヲ填充シタル後六尺有餘ノ地下ニ埋葬スル事
 郡村ニ於テハ衛生組合ノ規約ヲ厲行シ市街ニ於テハ特ニ豫防掛ヲ設ケ患者ヲ速ニ知り得
 テ速ニ醫療ヲ受ケ隱蔽等ノ弊ナカラシムル等交互相扶ケテ切ニ豫防ノ方策ヲ謀ル事但シ
 船舶ニ於テハ尙ホ左ノ用意アラシムルコトヲ要ス
 醫師ヲ乘組マシムル事
 船中清潔法ハ一層嚴重ニ施行セシムル事
 消毒藥及消毒器具等ヲ備フル事
 若シ本病患者アリタルトキハ左圖ノ如キ「ズツク」製ノ隔離床ニ臥サシメ空氣ノ流通及始
 終消毒等ヲ行ヒ易キ場所ニ移シ醫師看病人ノ外ハ一切近接セシメサル事



患者ノ臥シタル場合ハ斷ヘス
 「ズツク」ニ消毒藥ヲ灌キ若シ
 死亡セハ消毒ノ上周圍ノ紐ヲ
 以テ死體ヲ纏絡シ後重錘ヲ付
 シテ水葬スル事

患者用ノ便器其他汚穢物ヲ容ルヘキ器ニハ必ス覆蓋ヲ設クル事
 患者ニ用ヒタル物品ハ十分石炭酸水消毒ヲ行ヒタル後海中ニ投スヘシ其再用ニ供スヘキ
 物例ヘハ衣服ノ如キハ十二時間以上石炭酸水中ニ浸シ置クコトヲ要ス便器ノ如キハ其患
 者ニ用ヒタル毎ニ石炭酸水ヲ以テ洗滌スルニアラサレハ再用ニ供スヘカラサル事
 患者死者ノ處置ヲ爲シタル者及其處置ヲ爲サハルモ關係アル者ハ消毒ヲ行フ事
 近海ニ於テ水葬ヲ爲ストキハ消毒法ヲ施シ且ツ容易ニ海岸ニ漂著セサル様之カ處置ヲ十
 分ニスル事
 本病流行地ハ勿論流行地ナラサルモ既ニ患者アル場所ヘハ成ルヘク乗組人ヲ上陸セシメ
 サル事
 一 若シ前項ヲ犯シテ上陸シタル者アルトキハ歸船後ノ身體ニ注意スル事
 一 患者アル場所ニ於テ飲食物、其他物品購入ノトキハ其場所ハ勿論其物品ニ注意スル事
 一 流行地ニ於テ石炭運搬ノ人夫ハ勿論其居住地ノ病況ニ注意スル事
 ○勅令第五十六號 二十七年五月二十五日
 清國及香港ニ於テ目下流行スル傳染病「ペスト」豫防ノ爲メ必要ト認ムルトキハ明治十五年布告第
 三十一號虎列病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ適用シテ船舶検査ヲ施行スルコトヲ得
 船舶検査ヲ施行スル場所及期限ハ中央衛生會ノ諮詢ヲ經テ内務大臣之ヲ定ム
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
 ○大分縣令第三十五號 廿七年五月廿九日
 醫師ノ黒死病「ペスト」患者並ニ該病疑似患者ヲ診斷シタル者ハ即時ニ之ヲ患者所在ノ町村長ニ通
 知スヘシ土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ患者所在ノ駐在巡查ニ届 町村長ハ速ニ之ヲ郡長及最寄警察署ヘ通知シ
 郡長ハ速ニ之ヲ縣廳ニ届出ヘシ
 但其豫防消毒法ハ明治十三年七月布告第二十四號傳染病豫防規則並ニ明治二十三年十一月十一日 本縣々令甲

第六十二號傳染病豫防心得虎列刺發疹室扶斯ノ項ヲ折衷シ重ニ依リ施行スヘシ

第七款 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

〇布告第三十一號 十五年六月廿三日

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ検査官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラズ

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ検査官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ但検査官ニ於テ必要ト認ムルトキハ其船舶ヲ九日以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ船舶、船客、乗組人及ヒ積荷ニ十分ノ消毒法ヲ施スヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ検査官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他検査官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シクハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ検査官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸上スルノ許可ヲ與フ可シ但検査官ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ其船舶船客乗組人ヲ九日以内其指定スル場所ニ停留セシムルヲ得

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分ス可シ
第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ
右奉 勅旨布告候事

第八款 傳染病豫防ニ關スル雜件

〇内甲第三十一號 十八年九月十四日

警視廳 府 縣

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ右着及ヒ櫓樓ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

〇縣令甲第二十五號 廿六年四月十八日

赤痢病豫防ノ爲メ當分ノ内赤痢病疑似ノ下利症患者ヲ診斷シタル醫師ハ二十四時間以内ニ其町村役場又ハ駐在巡查ニ通知ヲ爲スヘシ此通知ハ口頭ヲ以テスルモ苦シカラス但通知ヲ受ケタル町村役場駐在巡查ハ該病家ヲシテ赤痢病同様ノ消毒法ヲ施行セシムヘシ

〇本訓令甲第三十一號

廿六年四月十八日

郡役所 町村役場

一昨二十四年以來赤痢病大流行ニ付當分左ノ方法ニ依リ特ニ町村衛生組合等ヲ指示誘導シ豫防消毒ヲ嚴重ニ施行スヘシ

町村ニ於テ履行スヘキ事項

第一條 町村ニ於テハ赤痢病發生ノ時季五月ニ先チ消毒の大清潔法ヲ實施スヘシ

第二條 町村ニ於テハ避病所ヲ設ケ赤痢病患者自宅ニ於テ後毒看病行届キ難キモノ及ヒ患者若クハ家人ノ望ニ依ルモノハ隔離治療ヲナサシムヘシ

第三條 町村内ノ醫師赤痢病患者又ハ其疑似症患者ト診定シタルトキハ其病家ニ對シ豫防消毒ノ方法及患者ノ下泄物其他之レニ汚染シタル物品ヲ散逸セシメサル様示諭スヘキ旨町村長ニ於テ特ニ醫師ニ注意ヲ與フヘシ

- 第四條 赤痢病者アルキハ町村役場ニ於テハ發病ノ地名及患者ノ死者員數病勢ノ景況等相當ノ場所ニ揭示シ且患者アル家ニハ赤紙ヲ見易キ所ニ貼付スヘシ
- 第五條 町村ニ於テハ役場吏員中豫メ豫防事務擔任者ヲ定メ患者ノ取扱及消毒法等ヲ熟知シ置キ發病ノ通知ヲ受ケタルキハ時ヲ移サズ病家ニ臨ミ綿密ニ處置シ又町村内ニ四五名ノ患者發生シタル場合ニ在テハ豫防事務所ヲ設ケ患者ノ處分及下泄物等ノ消毒ニ關スル事務ヲ敏捷ニ取扱ヘシ
- 第六條 町村ニ於テハ豫メ消毒藥ヲ備ヘ發病ニ際シ便宜病家ニ配付シ又其他消毒ニ差支ナキ様取計フヘシ
- 第七條 町村ニ於テハ患者ノ排泄物及汚穢物ノ運搬夫ヲ設ケ其取扱ヲ爲サシムヘシ
- 第八條 赤痢病流行ノ虞アルキハ町村ニ於テ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ
 - 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行セシムル
 - 二 路傍便所及共同便所ニハ日々石灰乳又ハ生石灰ヲ撒布スル
 - 三 醫師ヲシテ便宜貧民部落ヲ巡診セシムル
- 第九條 前條ノ場合ニ於テハ町村吏員町村衛生委員醫師等ヲ以テ臨時豫防掛ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且其掛ヲシテ各家ニ豫防法ヲ親切ニ諭示セシムヘシ
- 第十條 赤痢病患者アリタル町村内ノ糞池肥料溜等ノ如キ下泄物及之ニ汚染シタル物品等ヲ投シタル箇所ハ當時消毒法ヲ施行スルハ勿論該病終熄ノ後チ必ス石灰乳或ハ生石灰ヲ充分投入攪拌セシムヘシ
- 衛生組合ニ於テ履行スヘキ事項
 - 第十一條 衛生組合ニ於テハ相互ニ注意シ赤痢病ノ疑アル下利ヲ發シタルモノアルキハ其糞便ニ石灰乳又ハ生石灰若クハ多量ノ木灰ヲ撒布シ置キ速ニ醫師ノ治療ヲ受クヘシ
 - 第十二條 衛生組合中登名タリトモ赤痢病ト認メタル患者アリタルキハ朝夕三回石灰乳又ハ生石灰ヲ糞池ニ撒布スヘシ

- 灰ヲ糞池ニ撒布スヘシ
- 但シ赤痢病ニ疑ハシキ病症ト認メタル患者アリタルトキモ本文同様タルヘシ
- 第十三條 衛生組合中赤痢病患者發生ノ時患者ニ於テ外部ノ用務ヲ辨シ難キモノアルキハ組合ニ於テ差支ナキ様處辨スヘシ
- 第十四條 赤痢病患者アル家ニハ一切交通スヘカラス
 - 但シ親族等ニテ不得止交通スルコトアルモ病家ニ於テ決シテ飲食スヘカラス
- 第十五條 赤痢病死者ノ葬儀ニ會葬スヘカラス
 - 但シ假葬ヲ行ヒタルモノ數日ヲ經テ本葬儀ヲ爲ス場合ニ於テハ會葬スルモ妨ケナシ
- 第十六條 赤痢病患者發生シタルキハ病家近傍ノ各家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
 - 一 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但シ已ヲ得サルキハ煮沸シテ後之ヲ用ユル
 - 二 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之レヲ改修スル
 - 三 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用ユル
 - 四 患者ニ於テ履行スヘキ事項
- 第十七條 赤痢病又ハ疑似患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス
 - 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外一切交通ヲ絶ツ
 - 二 看病人ハ成ルヘク強壯ニシテ曾テ赤痢病ニ罹リタル者ヲ擇ム
 - 三 患者ハ隔離ノ爲ニスルノ外他ニ移轉セサル
 - 四 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ絶ヘス空氣ノ流通ヲ良クスル
 - 五 患者ノ便所ハ必ス之ヲ別ニスルコト
 - 六 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置ク

- 七 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ備ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ之ヲ燒却シ又ハ所定ノ場所ニ移スコト
 - 八 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
 - 九 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 十 患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト
 - 十一 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 十二 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト
 - 十三 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ之ヲ用ヒサルコト
 - 十四 死者アリタルトキハ沐浴セシメス消毒ノ上入棺スルコト
- 本縣訓令保收第一五四九號 廿七年五月廿九日 郡役所、警察署
廣東及香港ニ於テ黑死病流行ニ付何時内地ニ侵入スルヤモ難計ニ付發病届ヲ迅速ナラシメ豫防消毒法ヲ嚴密施行候様内務大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候條一旦發病者之アルニ於テハ本年五月大分縣令第三十五號ニ依リ虎列刺發疹室扶斯ノ項ヲ折衷シ重ニ因テ豫防消毒法ヲ施行シ殊ニ病者ト健康者トノ離隔ヲ嚴重ニシ其ノ病毒ノ散蔓セサルニ先チ撲滅候様注意スヘシ
- 本縣訓令保收第一五五五號 廿七年五月廿九日
赤痢病ノ本縣ニ流行スル久シ而シテ去ル廿四年以降其勢益猛烈ヲ極メ豫防消毒等取締方ニ關シテ

ハ屢々訓令諭告ヲ發シ銳意實行ヲ勉メタルニモ拘ラヌ其流行ノ勢毫モ退歩ヲ見ス其患者年々壹万ヲ降ラス其間生命ニ財產ニ縣民ノ蒙レル慘害擧テ言フベカラズ本年ニ於テハ殊ニ昨年水害ノ後ヲ受ケタルヲ以テ病毒各地ニ散亂潜伏シ暑熱ノ候ニ伴ヒ漸次其勢ヲ張ラントスルノ虞アリ其危險實ニ前數年ノ比ニアラス而シテ南北海部ノ兩郡ニ於テハ既ニ流行ノ兆ヲ呈セリ今ニシテ豫防消毒ノ嚴行ヲ力メスハ昨年ニ倍スルノ大流行ヲ演スルヤ必セリ且近年該病ノ流行區域只ニ九州各縣ニ止ラス關西ノ府縣ニ傳播シ延テ全國ヲ侵カサントスルノ虞アルヲ以テ豫防消毒ヲ一層勵行シ其未タ猖獗ヲ極メサルニ當リ撲滅セシムヘキ旨内務大臣ヨリ訓令ノ趣モ有之右ニ付必要ナル設備ノ概畧ヲ別紙ニ記セリ其費用ノ如キハ町村ヲシテ自治ノ精神ヲ鼓舞シ充分其力ヲ悉サシメ豫防消毒實地周密行届候様監督セラルヘシ

- 一 郡役所ニハ赤痢病豫防掛ヲ設クルヲ要ス
- 一 赤痢病豫防掛ハ成ルヘク公衆衛生ノ事ニ通曉シ特ニ豫防消毒法ノ施行ニ經驗アルモノヲ以テ之ニ任スルコトヲ要ス
- 一 赤痢病豫防掛ハ町村ノ赤痢病ニ對スル豫防消毒ノ施行ヲ視察スルコトヲ要ス
- 一 赤痢病豫防掛ハ醫會等ト氣脈ヲ通シ赤痢病者届出ヲ速ナラシムルコトヲ要ス
- 一 町村ニシテ避病院若クハ隔離病室ナキ者ハ赤痢病流行ニ際シテ成ルヘク之ヲ設ケシムルヲ要ス
- 一 避病院及隔離病室ニハ少クモ患者三十人ニ對シテ宿直スヘキ醫師一人看護人三人ノ割合ヲ以テ醫師及看護人ヲ雇入レ置クコトヲ要ス
- 一 町村ハ赤痢病流行セントスルニ際シ消毒藥消毒器具便器等ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

○保第四七七號 廿四年五月十八日
傳染病者並看病人其他消毒方法等之義ニ付其筋ヘ協議之上左記之通決定候條將來右ニ依リ取扱ハルヘシ
從來傳染病者ノ看病人又ハ死屍等運搬シタルモノハ消毒ノ爲メ他人ト交通ヲ斷テ五日間隔離スル